平成２９（２０１７）年度 実践報告集「かたの」

目　次

はじめに

１．小学部

２．中学部

３．高等部

４．訪問教育（在宅訪問・訪問学級枚方療育園）

５．分掌・個人研究

５-１．“授業づくりって面白い！”～授業づくりシートの活用～
授業デザイン部　チーム三色もなか

５-２．医療的ケアが必要な子どもへの支援について
首席・高等部主事　西島洋美
常勤看護師　　丹黒一寿子

５-３．スパイダーを教材として利用して：交野支援学校編
小学部　木下達夫

５-４．平成２９年度　進路支援のまとめ
進路支援部

６．四條畷校

編集後記

はじめに

平成２７年度・２８年度・２９年度の３年間の教育実践のまとめとして、「実践報告集かたの」を発刊させていただきます。発刊に際しまして、本校の教育活動に深いご理解とご支援を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

本校では、「安全安心な校内体制の構築」「授業力向上～質の高い授業をめざして～」を学校経営計画の柱として、「チーム交野～伝える・分かち合う・つながる」を合言葉に全教職員で取り組みを進めてまいりました。

「安全安心な校内体制の構築」においては、医師が常駐しない学校という場所において、人工呼吸器をはじめとした高度な医療的ケアを必要としている児童生徒を含めたすべての児童生徒の心身の健康を守り、安全安心な教育環境をどのように整えていくかについて、医療的ケア安全委員会を中心に検討・整備を行い、「交野支援学校医療的ケア実施要綱と申請手続き」の冊子を改定いたしました。特に、人工呼吸器を使用している児童生徒の保護者付き添いについては、平成２６年度より「①児童生徒の自立等の教育的意義」「②保護者の活動保障及びレスパイト」の２点を目的として「保護者の別室待機」に取り組み、平成２８年度より「保護者の校内待機」を実施、平成２９年度からは、必要な手続きを経て「保護者付き添いなし」の取り組みをはじめました。平成２９年度には、文部科学省委託事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の重点校指定を受け、医師による巡回指導等に取り組み、１年目の成果と課題について「公開研修会」にて発信できました。

「授業力向上～質の高い授業をめざして～」においては、従来中心組織であった研究部に加えて、平成２９年度より「授業デザイン部三色もなか」（指導教諭・研究部長・校内コーディネーターの３名）を立ち上げ、授業力向上の牽引役として位置づけました。

また、外部講師として、NPO 法人地域ケアさぽーと研究所でご活躍中の飯野順子先生を年間５回招聘し、「子ども主体の授業づくり」について多くの助言をいただきました。

≪児童生徒にとって「学び」のある授業を実践できる学校でありたい≫私自身が校長としていつも大切にしてきた思いです。「学び」とは何か、教育学者の齋藤孝さんは、著書の中で「学び」の定義を次のようにまとめています。

> 「学び」とは、新しい世界と出会って、自分のなかに新しい意味が生まれてくる体験。新しい意味が生まれてくる瞬間には、必ず喜びが伴います。この喜びは、人間にとってとても根源的なものです。（齋藤孝　著書「子どもに伝えたい三つの力」より引用）

交野支援学校のすべての児童生徒にとって「学び」のある授業・「喜び」が伴う授業を今後も「チーム交野」教職員全員で追求し続けていきます。

多くの皆様に交野支援学校の教育実践のまとめをご高覧いただきまして、忌憚のないご意見やご助言をお願いしますとともに、今後ともご支援・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成３０年３月

大阪府立交野支援学校
校　長　藤野　洋子

小学部研究授業および協議会について

１．はじめに

小学部では、平成２４年度より３年間、学部共通テーマ「子どもたちが主体的にかかわれる授業をめざして」を設定し、授業づくりを各学年・クラス単位ですすめ、研究授業後の研究協議会でも中心課題としてきた。そこから得たことは、重度重複障がいの子どもたちにとっての主体的な学びとは「興味を持つこと、楽しそうだなと思うこと」、「変化に気づくこと、感じること」、そして「達成感をもつこと」ということだった。また、授業する教員の「子どもの達成感を先取りしない（奪わない）」、「子どもの表出を待つ、引き出す」という意識のあり方も導き出された。

これらのキーワードを受けて、平成２７年度からは新たな学部共通テーマ「子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力をはぐくむ授業」というテーマを設定し、達成感に限らないさまざまな子どもたちの心の動き（揺れ）に着目して授業づくりにあたることとした。目には見えにくいが、確かにある心の動きを、私たち教員はどのように捉え、子どもたちの中にどう蓄積していったらよいのか。悩みながらも取り組んできた３年間をここに報告する。

２．平成２９年度研究協議会（今年度は、飯野順子先生を講師に招き、授業力向上に取り組んだ。）

①授業者からの発信

・新しいこと、苦手なことにも挑戦できる力をつけたい。

・上記の力をつけるための教師は児童の心の動きを大切にし、“教材”“展開”“視点”の工夫を各次でスモールステップで行ってきた。

②協議会①の視点

・１次から３次のスモールステップ（①子どもたちの心の動き（葛藤）②教材の工夫）で変わっていく子どもたちの様子を子ども目線として、それに対する手立てや工夫などを教師目線として各グループで協議、発表。

・授業観察やグループ協議を受けて、小学部共通テーマを達成するために学年で大切にしたいことを対子ども、教師同士の２点で話し合い、キーワードを発表。

③協議会①でのまとめ

教材、展開、視点の工夫をスモールステップで行っていくことで、内なる力（心の動き）をしっかり育む授業にし、その中で教師や友だちとやりとりを積み重ねることで達成感を感じることができる。対児童への大切にしたい点は学年が上がるにつれて変化していく。教師のいろいろな個性を活かしつつ、それぞれの児童が各学年での目標を達成するために教師は同じ方向を向いて“待つ”“引き出す”“認める”を大切にしながら子どもたちと関わっていきたい。

平成 27 年度　研究授業

校長・准校長サイン　校長確認済み

「みる・きく・つたえる」（ろくべえまってろよ）学習指導案

府立交野支援学校
指導者　山田　恵子

１．日時　　平成２７年１０月２８日（水）　第３時限（１０：３０～１１:１０）
２．場所　　小学部　　第４学年　１組教室
３．学部・学年・組　小学部　　第４学年（１組）　５名
４．単元名　　「ろくべえまってろよ」
５．単元目標　　・スイッチを押すなどして主体的にお話を進行し、見通しを持ってストーリーを楽しむ。
・ろくべえをうまく助けたときの達成感や、助けられないときの「こまった」「できない」などの思いを感じ、いろいろな気持ちを受け止める経験をする。
・友だちと一緒に協力して、さまざまな方法でろくべえたちを助けることができる。

６．児童観

本クラスの児童は、集中しやすい座席配置や視覚的な配慮等を行うことで、前で提示されるお話を比較的集中して見聞きすることができ、数回授業を重ねると、先の展開を期待している様子が見られるようになる。一方で見通しが持てるようになると飽きてくることもあり、集中力が途切れる児童もいるので、提示の方法や問いかけの仕方など、児童の様子に応じて臨機応変な対応が必要である。

また、実態に幅はあるもののどの児童も友だちに対する興味関心が高く、一緒にお茶を飲んだりトイレに行ったりするなど、日ごろからさまざまな関わりを持って過ごしている。本学年では、いろいろな授業において、友だちを意識したり友だちと一緒に何かしたりすることを課題に挙げており、日ごろから子どもたち同士のやり取りが多い集団である。しかし、児童によって友だちに対する発信はさまざまで、自分から積極的に話しかけて誘いに行ったり、声を出して呼びかけたりする児童、自分からの発信は少ないが友だちの様子を見ながら楽しんだり、話しかけられると声を出して笑顔で応えたりする児童など、その様子は児童によってさまざまである。友だちと協力して課題を達成する場面を設けることで、一緒にやってみたいという思いや自ら関わろうとする気持ちを育み、自分なりの方法で友だちに向けて発信できるようになって欲しいと考える。

７．教材観

「みる・きく・つたえる」では、授業の前半にお話の見聞き、後半に再現遊びを中心に展開している。再現遊びでは、お話しの内容を実際に体験する中で理解を深めること、また友だちとの関わりや実態に応じた個別課題を大切にして取り組んできている。

本単元では、絵本「ろくべえまってろよ」の題材を取り上げた。「友だちと協力し、穴に落ちた一匹の犬を助け出す」というストーリーの分かりやすさが、児童の実態に適していると考えた。また、友だちと協力し合う場面があること、「できた」という感情だけではなく「上手くいかない、悔しい」といった様々な感情も出てくること、最後には「できた」という達成感がもてること等からこの題材を選んだ。

お話の提示方法としては人形劇を選んだ。人形を話し手が実際に手の動きで操作することで、登場人物の感情が表現しやすく、児童が興味をもてるのではないかと考えた。また人形を操作している教員の姿が見えないように舞台を工夫し、話し手である教員の動き等、お話の情報以外に注意がそれにくいようにした。一方で視覚的配慮のいる児童や集中力に課題のある児童には、近くにいる教員がお話の内容を言葉で補う、人形や道具が出てきた際に音を出す等の工夫を行い、人形劇を楽しむことができるよう配慮を行った。登場人物の心情の変化や葛藤を感じ取るきっかけとなるよう、ろくべえを助け出そうとする場面では明るいイメージの曲を、上手く助け出せず失敗した場面では暗いイメージの曲を流す工夫を行った。また、児童がお話に参加する機会をもつことで、主体的に見聞きできるようにしたいと考えている。

後半の再現遊びでは、様々な種類の穴に落ちてしまったろくべえたちを助ける活動を行う。様々な穴（太い、細い、深い等）や複数の道具を提示し、やってみようという意欲を引き出すことや個別課題につなげることをねらっている。単元の後半には、１人で助け出すことが難しい状況に変化させることで、友だちと協力しようとする場面を設けていきたいと考える。

８．指導観

学部共通テーマである「子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力を育む授業」の“心の動き”と“内なる力”をどのように捉え、具体的に何をねらいとするか学年で検討を重ねてきた。これまでの授業において経験し育んできた「アレ？」という気付き、「やってみたい」「やってみたいけど怖い」といった気持ちの揺れ、「できた」「嬉しい」といった達成感などの様々な感情を“心の動き”と捉えた。このようないろいろな“心の動き”を何度も行ったり来たりしながら、さらに多くの感情が育まれ、やがて子どもたちの内面に「できない」「困った」「悔しい」などの心の葛藤が生まれてくると考える。この単元では、「できない」「困った」などの感情を先生と共に感じたり受け止めたりしながら、その葛藤をどうすれば解決できるか、先生の見本や先生からの言葉かけをヒントにして、考えたり気付いたりして欲しい。その中で友だちを求める力や自ら発信する力、すなわち子どもたちが日々育んでいる“内なる力”を引き出していきたいと考える。

前半の人形劇では、第 1 次は先生が進行するお話を見聞きして内容を知ることがねらいであるが、第 2 次からは児童が主体的にお話に参加できるよう、ろくべえの救出場面でシャボン玉を飛ばす、歌をうたうなど児童の具体的な働きかけによってストーリーを展開させていく。児童が次への期待感を持って楽しむと共に、どうすればろくべえが助かるのか考えながら活動に取り組んでもらいたい。そうすることで、後の再現遊びにおいて、自分たちで助けるときのヒントとなることを期待している。

ろくべえを穴から助け出す後半の再現遊びにおいて、第１次では「自分もやってみたい」という気持ちを引き出し、先生と共に活動にチャレンジできるように働きかけたい。第２次では、いろいろな方法でろくべえを助けられた経験を重ね、達成感を感じられるようにすると同時に、自分たちが助けたろくべえにより一層の愛着を感じられるよう、ろくべえを抱きしめたりするなど、ろくべえを大切にしながら触れ合う活動を取り入れたい。第１次・第２次の取り組みの中で「できた」「嬉しい」などの達成感とろくべえに対する思いを十分に育んだ後、第 3 次では 1 人でろくべえを助け出すのが難しい状況を設定する。そうすることで「できない」「困った」「悔しい」などの心の葛藤を経験して欲しい。そういった心の葛藤に対して、先生が「どうしようか、困ったね」など言葉に表して児童の思いに共感することで、その気持ちを受け止められるようにしたい。また、心の葛藤を原動力として、友だちを求める力を引き出し、自分なりの方法で友だちに働きかけることで、一緒にろくべえを助け出せるようにしたい。ひとりではできないことも友だちと協力すればできることに気付いたり、自ら発信したことで、共にうまくできたという達成感を十分に感じたりして欲しい。

このような経験を積み重ねていくことで、人と関わることの喜びや楽しさを体感し、人を求める力を更に発揮しながら、将来に向けて豊かな人間関係を形成していく基礎となって欲しいと願っている。

9．単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・人形劇に注目しながらお話を見聞きすることができる。 ・活動に興味を持って、ろくべえを助けようとする。 ・友だちが活動する様子を見ることができる。	・何を使ってろくべえを助けるか、具体物を選んで決めることができる。 ・視線を向ける、呼びかけるなどして、自ら友だちに働きかけることができる。	・お話の場面に応じてスイッチを押し、音楽を流したりシャボン玉を飛ばしたりすることができる。 ・棒や紐を引っ張るなどして、ろくべえを助けることができる。	・自分たちの働きかけでお話が展開していくことを知る。 ・友だちと協力すれば、ろくべえを助けられることを知る。

10．単元の指導と評価の計画（全１１時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	10/6		○			
	10/8		○		○	
第二次	10/14		○			○
	10/16			○	○	
	10/21			○	○	
第三次	10/22			○		○
	10/26			○		○
	10/28 [本時]			○		○
	11/5		○			
	11/9		○		○	
	11/10				○	

11．本時の展開

（1） 本時の目標

・人形劇の中で、場面に応じてスイッチを押すなどしてストーリーを展開することができる。
・友だちに対して、視線を向けたり呼びに行ったりして、自ら働きかけることができる。
・友だちと協力してろくべえたちを助けることができる。

（2） 本時の評価規準

・活動に興味を持って、ろくべえを助けようとする。【関心・意欲・態度】
・視線を向ける、カードで選ぶなどして、自ら友だちに働きかけることができる。【思考・判断・表現】
・お話の場面に応じてスイッチを押し、音楽を流したりシャボン玉を飛ばしたりする。【技能】
・友だちと協力すれば、ろくべえを助けられることを知る。【知識・理解】

（3） 児童の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	・音に対する過敏があるが、お話を集中して見聞きすることができる。繰り返す中で内容を理解し、次の展開を期待しながら楽しめる。 ・日常生活での簡単なやり取りを理解しており、言葉がけに対して YES－NO を声や表情で表すことができる。 ・友だちの顔や名前を理解している。友だちからの働きかけに応える形での関わりが中心であったが、自分からの表出も増えてきている。	・お話の流れを理解し、見通しを持って見聞きしたり、場面に応じて先生と一緒にライトを照らしたりすることができる。 ・ろくべえを助けるとき、手伝って欲しい友だちに自ら視線を向けることができる。 ・紐を引っ張るなどして、友だちと一緒にろくべえを助けることができる。	・先の展開を期待して表情の変化が見られたり、先生の顔を見て共感を求めたりする。呼びかけに応じて、先生と一緒にライト持って照らすことができる。 ・「どうする」などの言葉かけを聞いて、友だちに視線を向けたり、声を出したりすることができる。 ・紐を握って腕を動かすなど、引っ張る様子が見られる。
B	・時々興味がそれることはあるが、興味を持ってお話を見聞きすることができる。 ・簡単な言葉がけは理解しており、具体物や使い慣れたカードを選択して思いを表現することができる。興味あるものには自分から手を伸ばして叩く等する。 ・友だちに関心があり、傍に行って手を伸ばすなど、自ら関わりを持とうとする。	・お話の流れを理解し、興味をもって見聞きしたり、スイッチを押したりすることができる。 ・一緒に活動する友だちをカードで選び、その友だちを見たり傍に歩いていったりすることができる。 ・紐を引っ張るなどして、友だちと一緒にろくべえを助けることができる。	・人形の動きを目で追うなど集中して見ることができ、呼びかけに応じてスイッチを自ら押すことができる。 ・カードを目線や手で触れて選ぶことができ、その友だちの前に歩いていったりすることができる。 ・自ら紐を握る様子が見られ、先生と一緒に紐を引っ張ろうとしている。

C	・落ち着いていれば集中してお話を見聞きし、すぐに内容を覚える。回を重ねると飽きてくる様子もあるが、自分で人形を操作してお話を進行することもできる。 ・日常生活でのやり取りは理解できる。自らの思いや興味のあることを一方的に話すことも多いが、落ち着いて言葉でのやり取りができるときもある。 ・友だちの様子をよく把握しており自分から積極的に関わりを持つ。友だちと活動することで気持ちを切り替えたり張り切ったりする。	・お話の内容を理解し、集中して見聞きする。カゴを届けるなどしてお話に参加することができる。 ・ろくべえを助けるとき「～ちゃん一緒にしよう」と自ら友だちを誘いに行くことができる。 ・どの紐がいいか考えて選び、友だちと一緒にろくべえを助けることができる。	・先の展開を期待しながら、静かに落ち着いて見ることができる。呼びかけに応じて、一人でカゴを舞台まで運ぶことができる。 ・「どうしようか」などの言葉かけを聞いて、自ら友だちに声をかけに行くことができる。 ・ろくべえが落ちた穴に応じて適切な紐を選ぶことができる。友だちと一緒に紐を引っ張ることができる。
D	・興味を持ってお話を見聞きすることができ、繰り返す中で好きな登場人物や場面ができてくる。 ・簡単な言葉がけや周りの状況から活動を理解し、問いかけに対して表情や声などで答えることができる。 ・友だちの様子を見て楽しんでいることが多い。傍にいる友だちに対しては、手を伸ばしたり声を出したりして自ら関わろうとする。	・お話の大まかな流れを理解し、見通しを持って見聞きしたりスイッチを押したりすることができる。 ・一緒に活動する友だちをカードで選び、その友だちに視線を向けることができる。 ・紐を引っ張るなどして、友だちを一緒にろくべえを助けることができる。	・先の展開を期待して表情の変化が見られたり、スイッチを自ら押したりすることができる。 ・カードを手で取って選ぶことができ、その友だちに視線を向けることがきる。 ・一人で紐を握り、腕を動かしながら引っ張ることができる。
E	・数回お話を見聞きすると、内容を理解し、展開を期待しながら楽しむことができる。近くで見るなどの視覚的配慮や、見にくい場面は言葉で説明する等の配慮が必要。 ・日常生活での簡単なやり取りを理解し、単語で意思を伝えるなど、自らの表出も多い。 ・友だちの様子に興味があり、関わりを楽しむことができる。自分から「おーい」と呼びかけることもある。	・お話の流れを理解し、見通しを持って見聞きしたり、シャボン玉を飛ばしたりすることができる。 ・ろくべえを助けるとき、自ら声を出して友だちを誘うことができる。 ・紐を引っ張るなどして、友だちと一緒にろくべえを助けることができる。	・先の展開を期待して声を出したり笑ったりする様子が見られる。呼びかけに応じて、シャボン玉を先生と一緒に飛ばすことができる。 ・「どうしようか」などの言葉かけを聞いて、自ら「おーい」と声を出し、友だちに呼びかけることができる。 ・一人で紐を握り、腕を動かしながら引っ張ることができる。

（5）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
3分 導入	○始まりの挨拶をする。 ○歌をうたう。 ○前時の振り返りを行い、本時の学習内容を知る。	・姿勢を正し、前を見て挨拶できるように促す。 ・授業の始まりを意識できるようにする。 ・前回できたことを思い出し、活動に見通しがもてるようにする	
16分 展開①	○人形劇「ろくべえまってろよ」を見聞きする。 ・ろくべえを助ける場面で、スイッチを押すなどしてお話を展開する。 ①穴に向かってライトを照らす ②スイッチを押して曲を流す。 ③シャボン玉を飛ばす。 ④カゴを渡す。 ⑤いちべえを渡す。 ・テーマソング“6匹きょうだいのうた”を見聞きする。	・見やすい位置に移動するなど、舞台に注目できるようにする。 ・人形の登場など場面の展開に気付いた様子があれば、共感したり言葉にして返したりする。 ・歌や繰り返しのフレーズなど声を合わせて言い、一体感を感じられるようにする。 ・誰が指名されるのか、期待感を高められるようにする。 ・人形からの呼びかけに気が付けるよう言葉かけをする。 ・児童に応じて、道具を一緒に操作するなどの支援を行う。 ・①～⑤の児童からの働きかけに対して、お話がどう進んだか意識できるよう、言葉かけを行う。 ・登場するろくべえたちに注目できるよう言葉かけを行う。 ・一緒に歌ったり言葉かけをしたりしながら、ろくべえたち6匹に注目することができる。	・①～⑤の働きかけ後、舞台に注目するなど、展開を期待している様子が見られる。 ・先生の言葉かけに対して、返事をしたり笑ったりするなど、自分がお話を進めたことに気が付く。

18 分 展 開 ②	○ろくべえたちを助ける。 ・使う道具を選んで、助けに行く。 ・助けられないことに気が付き、どうすればいいか考える。

授業者より

第１次　　第２次　　第３次（本時）

「アレ？」―「やってみたい」気持ちの揺れ―「できた」達成感 ―　「できない」「困った」
気づき　　「やってみたいけど怖い」　　「うれしい」　　「悔しい」葛藤

行きつ戻りつを繰り返すことでよりさまざまな感情がうまれてくる

さまざまな感情を
はぐくむこと

⇒友だちを求める力･
自ら発信する力　へ

＜小学部　学部共通テーマ＞

子どもたちの心の動き
に寄り添い、内なる力
をはぐくむ授業

＜中学部　学部共通テーマ＞

友だちへの関心を広げる
と共に、集団の中で自分
らしさを出せる授業

一人ひとりの可能性を伸ばす授業　づ　く　り

＜全校統一テーマ＞

＜高等部　学部共通テーマ＞

「いつでも、どこでも、
誰とでも(誰にでも)」
を大切にした授業

グループワーク

教科「みる・きく・つたえる」お話の世界があってこそ!!!
｜
「大好きなろくべえを助けたい」
｜
お話をイメージできるように…
　〇教材の工夫（落とし穴、BGM、鳴き声、繰り返しのフレーズ）
　〇子どもに参加・役割がある（働きかけると変化があった⇒自分からしてみよう）
　〇環境づくり（不必要な刺激を減らす）

シェア

ろくべえを助ける方法を探す中で　　個別課題
　〇さまざまな道具を使ってみる（一人で）⇒道具を選ぶ／渡す／使う（友だちから友だちへ）⇒全員で
　〇言葉かけ「ろくべえ鳴いてる、どうする？」…子どもからの発信…「〇〇してみる？」
達成感へ　みんなで喜び合う「ろくべえ助かった！よかった」ぎゅ～！

今後に向けて

＜今回の気づきを受けて、これから大切にしていきたいこと＞

１年）子どもの実態把握・共有、段階を追う迫り方
２年）子どもの気づき・気持ちに気づき、しっかり受け止める
３年）気持ちに寄り添い、興味を拡大
４年）子どもに投げかけていく、言葉の捉え直し、環境づくり
５年）気持ちをしっかり育んでいく
６年）子どもの気づきを待つ（先取りしない）、言葉かけの精選

「みる・きく・つたえる」（ふうせんまってー）学習指導案

１．日時　　平成２８年１０月２６日（水）　第３時限（１０：３５～１１:１０）
２．場所　　小学部　　第２学年１組　教室
３．学部・学年・組　　小学部　　第２学年１組　５名
４．指導者　　大下端穂（Ｔ１）、富樫あかり（Ｔ２）、納藤由佳（Ｔ３）、辻村聡司（Ｔ４）
５．単元名　　「ふうせんまってー」
６．単元目標
・人形劇によるお話を見たり、聞いたりして楽しむことができる。
・学習を重ねる中で、フレーズを楽しんだり次の展開を期待したりすることができる。
・お話を通して感じたことを自分なりの方法で表現しようとする。
・「(一人でできなくて) 困った、どうしよう」という経験をする中で「みんなでできた」という達成感を味わう。

７．児童観

本クラスの児童は、舞台上で演じられるお話に注目することは難しいが、登場人物が舞台から出て、児童のそばに近づいたり、集中しやすい座席配置や視覚的、触覚的な配慮などを行ったりすることで、お話を見聞きすることができる。授業を重ねていく中で、簡単な繰り返しの台詞を覚えて言ったり、先の展開を期待している様子が見られたりする児童がいる。一方で突発的に不快感を表現する児童や新しい活動に対する緊張感がある児童、注目が難しい児童など、提示の方法や問いかけのタイミングなど、児童の様子に応じて臨機応変な対応が必要である。

教員とのコミュニケーションや教員を介した友だちへの関わりが中心であるが、どの児童も友だちに対する興味関心が少しずつ芽生えてきている。自分から声を出して呼びかけたり、関わったりしようとする児童、関わられるとうれしくて声を出したり、笑ったりする児童、自分からの発信は少ないが友だちの様子を見ながら楽しんだり、話しかけられると笑顔で応えたりする児童など、その様子は児童によってさまざまで実態には幅があるが、お互いを意識し合う様子が見られるようになってきている。また、学習場面においても、順番を待つ時間が「待ち時間」だけではなく、友だちが活動する様子を見ることで活動の見通しが持てて安心したり、自分もやってみたいと期待感を持ったりする時間へと変わってきつつある。

一人ではできなかったことが協力したらできたという場面を設け、友だちと力を合わせてできた達成感を感じる中で友だちへの意識を高め、感じたことや思いを自分なりの方法でより豊かに表現する力を育んで欲しい。

８．教材観

「みる・きく・つたえる」では、授業の前半にお話の見聞き、後半に再現遊びを中心に展開している。再現遊びでは、お話の内容を実際に体験する中で理解を深めること、また先生や友だちとの関わりを深めることな

どを大切にして取り組んできている。

昨年度より取り組んできた単元では、児童が注目しやすい大きい登場人物のお話を見聞きし、学習を重ねていく中で、繰り返しのフレーズや音楽でお話の展開や活動を期待したり、楽しんだりできるようになってきている。

本単元では、絵本「ふうせんまってー」の題材を取り上げた。簡単な台詞の繰り返しがあり、３匹のねこが大好きな風船を取り戻すために失敗しても力を合わせて怖いからすに立ち向かっていくというストーリーの分かりやすさが、児童の実態に適していると考えた。また、困った、どうしようなど様々な感情も出てくること、力を合わせてできたという達成感がもてることなどからこの題材を選び、児童の実態に合わせて再構成した。

お話の提示方法としては人形劇を選んだ。目の前で演じられるお話に注目が難しい児童も人形に触れられることで、登場人物のねこに対する愛着やお話のイメージを深めることにつながるのではないかと考えた。本単元ではこれまでの単元で提示してきた登場人物よりも敢えてねこを小さくして、怖い存在である大きなからすに立ち向かっていく小さなねこのイメージが伝わるようにした。また、からすが登場する際には迫力のある音楽を流し、大きくて怖いからすの存在感も伝わるようにした。お話の前半に登場する白いねこは、温かい肌触りで柔らかい毛並みであるのに対して、どろんこ池に落ちてどろんこになる黒いねこは、ざらざらした肌触りで、更に保冷剤を入れることでどろんこで冷たくなったイメージが人形に触れて伝わるように工夫した。

また、木の幹を押すと幹やからすが止まっている枝が揺れたり、枝葉を揺するとからすが止まっている枝も動いたりすることで、自分たちが働きかけたことで枝を揺らしていることが実感できるようにした。

お話の中で繰り返される簡単なフレーズやねこたちの台詞を一緒に言うことで、お話の展開に見通しを持ち、期待したり、一体感を感じられたりするようにした。視覚的配慮のいる児童や集中力に課題のある児童には、人形との触れ合いを大切にする、近くにいる教員がお話の内容を言葉で補うなど人形劇を楽しむことができるよう配慮を行った。

単元の後半には、３匹のねこたちが力を合わせてもからすが逃げず、風船を取り戻せないという状況に変化させ、児童がお話の中に参加することで、「困った」「どうしよう」「みんなでできた」など様々な気持ちを引き出せるのではないかと考えている。

９．指導観

昨年度から２年目になる学部共通テーマ「子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力を育む授業」について、昨年度の研究協議を踏まえて低学年である本学年では“心の動き”と“内なる力”をどのように捉え、具体的に何をねらいとするか検討を重ねてきた。

これまでの授業において「ワクワク」「ドキドキ」「やりたい」「楽しい」「できた」「ほめられて嬉しい」といった自分自身の体験や教員との関係の中での“心の動き”を経験し育んできた児童に今後どのような心の動きを経験し育んでいきたいかを考えた。「怖い」「苦手」と思っていたことが、友だちや教員と一緒に挑戦すると意外に大丈夫とわかったり、「あまり好きではない」と思っていたことが、友だちと一緒にやってみると意外に楽しいと気づいたりするなど、少しずつではあるが、児童の様子を見ている中で友だちの力を感じる場面が現れてきた。友だちへの意識が芽生え始めていることから、これまでの学習場面ではあまり経験していなかった「できない」「困った」「どうしよう」などの“心の動き”を経験し、教員と共に感じたり受け止めたりすることで、「一人では怖い」「一人ではできない」ということでも「友だちと一緒にやってみよう」「みんなでできた」など友だちを意識した様々な“心の動き”を引き出していきたいと考えた。このようないろいろな“心の動き”の経験を積み重ねていく中で、いろいろな場面や人に自分の気持ちを自分なりの方法で発信できる力、

“内なる力”を育んで欲しいと願っている。

第１次は、小さいねこたちへの愛着を深めるために３匹のねこたちを抱きしめたり頬ずりしたりするなど、触れ合いの時間をたくさんとり、教員が進行するお話を見聞きして内容を知ることをねらいとした。第２次は、いろいろな風船遊びをする中で風船の感触や楽しさを味わい、風船で遊びたい気持ちを高めていくことを大切にした。第３次からは、３匹のねこが力を合わせてもからすが逃げず、風船を取り戻せないという展開になり、「困った」「どうしよう」などの思いを教員が「どうしようか、困ったね」など児童の思いに共感することで、その気持ちを受け止められるようにしたい。一人や二人で挑戦してもできないことから更に「困った」「どうしよう」という体験をすることで「みんなでできた」という達成感を十分に感じて欲しい。

１０．指導計画（全１４時間　本時１３／１４）

	活動のねらい	活動内容
第１次 （２時間）	・お話を見たり聞いたりする中でお話を知る。 ３匹のねことの触れ合いの時間を十分にとり、ねこの小ささ、手触りなどを感じ、ねこに親しみが持てるようにする。	①　３匹のねこのテーマソングを歌う。白いねこたちとたっぷり触れ合い、ねこの温かい毛並みなどを感じる。 ②　３匹のねこのテーマソングを歌う。黒くなったねこたちと触れ合い、ざらざらして冷たくなったことを感じる。
第２次 （４時間）	・お話を見聞きし、楽しむ。 ・友だちや教員と一緒に風船遊びを楽しむ。 いろいろな風船遊びをする中で、風船に興味を持ったり、風船遊びの楽しさを味わったりできるようにする。	①　風船の感触を手元で十分に味わったり、ねこと風船のやりとりをしたりする。 ②　教員と風船のやりとりをする中で、風船の感触や動きを楽しむ。 ③　④ ・友だちと風船のやりとりをしたり、吊り下げられたたくさんの風船を触ったりして遊ぶ。 ・大きな風船の上に乗り、風船のふわふわした感覚を体験する。
第３次 （８時間）	・お話の展開を期待して、お話を楽しむことができる。 ・ねこたちの力では風船を取り戻せないことを知り、「どうしよう」「困った」などいろいろな気持ちを経験する。 ・「みんなでできた」という達成感を味わう。 ・友だちや教員と風船遊びを楽しむ。	① ・枝葉を揺らしたり、幹を押したりすることでからすを追い払い風船を取り戻し、友だちと一緒に風船遊びをする。 （「怖いからやりたくない」という気持ちの児童には、気持ちを共感し、友だちの活動を見てから挑戦するなど、言葉かけ

		をする中で気持ちの変化を待つ。） ・友だちと一緒に風船遊びを楽しむ。 ②　③ ・一人または二人で幹を押したり、枝葉を揺らしたりしてからすを追い払おうとしても逃げないが、みんなで力を合わせるとからすが逃げて風船を取り戻せる経験をする。 ・友だちと一緒に風船で遊ぶ。 ④　～⑧ ・一人でやってみるか友だちと一緒にやりたいかを選ぶ。 ・一人または二人で枝葉を揺らしてもからすが逃げないが、みんなで力を合わせるとからすが逃げて風船を取り戻せる経験をする。 ・友だちと一緒に風船で遊ぶ。

１１．本時の展開

（1）　本時の目標

・お話の大まかな流れを理解し、次の展開を期待しながら見聞きすることができる。
・「困った」、「どうしよう」、「友だちとやってみよう」など、いろいろな気持ちをそれぞれの方法で表現することができる。
・友だちと協力して枝葉を揺らしてからすを追い払い、「みんなでできた」という達成感を感じることができる。
・友だちと一緒に風船遊びを楽しむことができる。

（2）　児童の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	・興味を持ってお話を見聞きすることができ、登場人物を目で追うことができる。繰り返す中で好きな登場人物や場面ができてくる。 ・日常生活での簡単なやりとりに対して、嫌な時は手を押し出したり、払いのけたりして気持ちを表現する。場面は限定されるが、クレーンでや	・大まかなお話の流れを楽しんで見聞きしたり、人形の動きに注目したりする。 ・意欲的に枝葉を振り、からすを追い払うことができる。	・お話の場面によって、表情の変化が見られたり、人形の動きを目で追ったりすることができるか。 ・意欲的に枝葉を振って揺らすなどの様子が見られるか。また、自分の活動によってからすが逃げたかを見る

	って欲しいことを伝えることもある。 ・友だちが遊んでいる様子を見て、傍で楽しそうに笑ったり、遊んでいるものに触れようとしたりすることがある。	・友だちと一緒に風船遊びを楽しむことができる。	ことができるか。 ・友だちの活動を見て自分もやってみようと期待したり、発声や表情でやりたい気持ちを伝えたりすることができるか。 ・友だちと一緒に風船でやり取りすることを楽しむことができるか。
B	・時々興味がそれることはあるが、お話を楽しんで見聞きすることができる。近くで提示された好きな人形などには興味を持って手を伸ばしたり、触ったりする。 ・日常生活での簡単なやりとりに対して、うれしい時は手足を動かしたり、嫌な時は顔を背けたりして、表情や声で気持ちを表現することが増えてきている。 ・友だちの活動を見て、活動の期待感が高まり、手足を動かしたり声を出したりするなどわくわくした様子が見られることがある。	・お話を見聞きして大まかなお話の流れを楽しむことができる。 ・自ら枝葉を振って、からすを追い払うことができる。 ・みんなで枝葉を揺らした時の枝葉の大きな揺れや音、風などを感じることができる。 ・風船の感触や風船遊びを楽しむことができる。	・お話の場面によって、表情の変化が見られたり、人形の動きを目で追ったりすることができるか。 ・友だちの様子を見て、自分もやってみようと期待することができるか。 ・枝葉を握ったり、振ったりするなどの様子が見られるか。 ・自ら風船を触ったり、風船が自分の所に飛んでくることを期待したりすることができるか。
C	・舞台の劇などに注目することは難しいが、人形などが近づくと視線を送ったり、触れた感触に表情を変えたりする。注目しにくい時は言葉かけなどの配慮が必要である。 ・簡単な言葉かけや問いかけに対して、まばたきや表情で気持ちを表現することができるようになってきている。 ・友だちと一緒に揺れ遊びなどを楽しむことができる。友だちに名前を呼ばれるとうれしそうに微笑むことがある。	・お話を見たり聞いたりして、お話の雰囲気を楽しむことができる。 ・まばたきなどで気持ちを伝えることができる。 ・みんなで枝葉を揺らした時の枝葉の大きな揺れや音、風などを感じることができる。 ・風船の感触や風船遊びを楽しむことができる。	・お話の場面によって、視線の動きや表情の変化が見られるか。 ・一緒にやりたい友だちをまばたきなどで伝えることができるか。 ・視線の動きや表情の変化が見られるか。 ・風船が飛んできた時や触った時に表情の変化などが見

			られるか。
D	・気持ちが安定していれば、挿入歌を口ずさんだり、台詞を言ったりしながら楽しんでお話をきくことができる。回を重ねるとお話の流れを覚え、台詞を先に言ったり、期待した表情をしたりする。集中できる時間が短く、突発的に不快感を示し、３０分程度の学習に終始安定して参加できることは少ない。	・お話の大まかな内容を理解し、展開を期待しながら楽しんで見聞きすることができる。	・先の展開を期待しながら楽しんで見聞きすることができるか。
	・日常生活での簡単なやり取りはほぼ理解できる。自らの思いや興味のあることを一方的に話したり、自分の世界の中で歌ったり、話したりしていることも多いが、落ち着いて言葉でのやり取りができることもある。 ・友だちの顔や名前を理解している。友だちの名前を呼んだり、触れたりするなど自分からの表出も増えてきている。	・一緒にやりたい友だちに呼びかけることができる。 ・意欲的に枝葉を振り、友だちと一緒にからすを追い払うことができる。 ・友だちと一緒に風船遊びを楽しむことができる。	・一緒にやりたい友だちを答えたり、呼びかけたりすることができるか。 ・意欲的に枝葉を振り、からすを追い払おうとすることができるか。 ・友だちと一緒に風船でやり取りすることを楽しむことができるか。
E	・慣れない学習や取り組みに対して緊張が強いが、繰り返す中で次の展開を期待しながらお話を楽しむことができるようになる。好きな場面では大きな声で笑ったり、足を動かしたりして楽しむことができる。右を向くことが多く、聴覚優位。右を向いても見やすい座席配置や、見えにくい場面は言葉かけなどの配慮が必要。	・お話の流れを理解し、見通しを持って見聞きしたり、展開を期待したりする。	・先の展開を期待して声を出したり笑ったりする様子が見られるか。
	・簡単な言葉かけや問いかけに対してYES の時は手を挙げたり、「はい」と言ったりして伝え、NO の時は口を閉じたり、表情を変えたりして伝えることができる。 ・友だちの様子を見て楽しんでいることが多い。傍にいる友だちに対しては、手を伸ばして触れたり、友だちからの関わりを喜んだりする。	・一人でするか友だちとやってみたいか、誰と一緒にやりたいかを表情や声などで伝えることができる。 ・枝葉を揺らすなどして、友だちと一緒にからすを追い払うことができる。 ・友だちと一緒に風船遊びを楽しむことができる。	・「どうしようか」などの言葉かけに対して友だちに視線を送ったり、一緒にやりたい友だちを伝えたりすることができるか。 ・自ら手を動かして枝葉を揺らそうとすることができるか。 ・手を伸ばすなど風船を触りたい気持ちを伝えることが

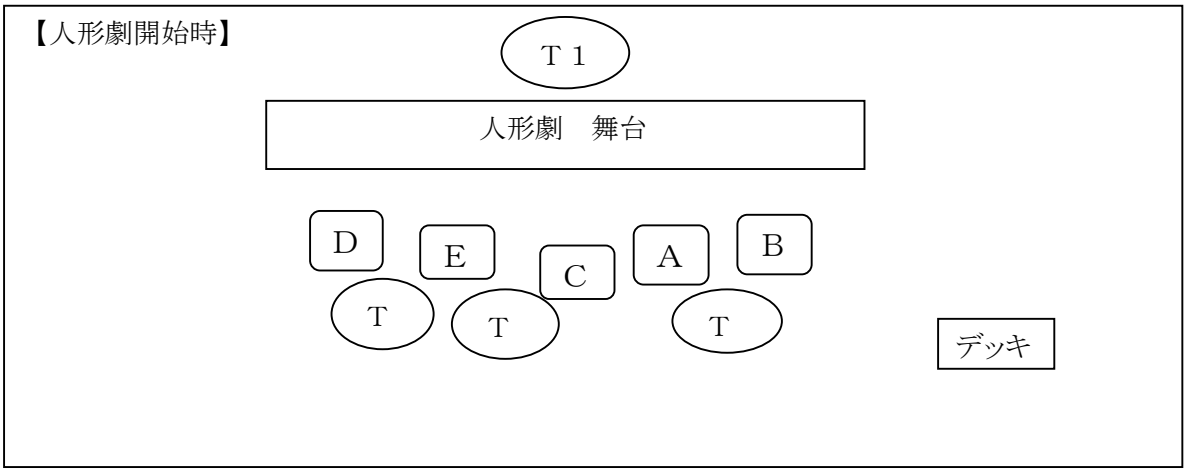
			できたか。

（５）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
３分 導入	○始まりの挨拶をする。 ○「みる・きく・つたえる」の歌をうたう。 ○ねこたちと触れ合い、お話を思い出す。	・姿勢を正し、前を見て挨拶できるように促す。 ・授業の始まりを意識できるようにする。 ・ねこたちと触れ合う中でお話を思い出せるように言葉かけなどを行い、期待感を高める。	
22分 展開①	○人形劇「ふうせんまってー」を見聞きする。 ・ねこたちが風船を取れず困っていることを知る。 ○風船を取り戻そう！ ・一人または友だちと一緒に枝葉を揺らし、からすを追い払う。	・見やすい位置に移動するなど、舞台に注目できるようにする。 ・人形の登場など場面の展開に気付いた様子があれば、共感したり言葉にして返したりする。 ・歌や繰り返しのフレーズなど声を合わせて言い、一体感を感じられるようにする。 ・「困ったね」「どうすればいい？」などの言葉かけを行い、風船が取れなくて困った、どうしようという気持ちを共感したり、自分がやってみようという気持ちを引き出したりする。 ・やりたい意欲が高い児童から枝葉を揺らすようにする。 ・友だちと一緒にやってみようという気持ちになるように言葉かけを行う。	・提示された物に視線を向けたり、手を伸ばして触れようとしたりできるか。 ・発声や表情の変化などがみられるか。 ・感じたことを発声や視線、表情などで表出できるか。 ・言葉やまばたきなど自分なりの方法で気持ちを伝えられるか。 ・友だちの活動を見ることができるか。 ・枝葉を握る、揺らすなど自発的な動きが見られるか。 ・一人又は二人でやってもか

	・みんなで力を合わせて枝葉を揺らし、からすを追い払う。	・からすを追い払い、風船を取り戻せたときには、友だちと一緒に成功したことを意識できるような言葉かけを行い、達成感を感じられるようにする。	らすが逃げないことを知り、発声や表情などで気持ちの変化を表出できるか。 ・みんなで力を合わせた時の枝葉の揺れの大きさを感じることができるか。 ・風船を取り戻せた喜びや達成感を感じることができるか。
7分 展 開 ②	○風船で遊ぼう！	・友だちに意識を向けられるように言葉かけなどをする。	・風船のふわふわした感触や動きなどを楽しみ、視線や表情で表出できるか。また、風船を触ろうとするなど自発的な動きが見られるか。
3分 ま と め	○本時の振り返りをする。 ○次回の予告を聞く。 ○終わりの挨拶をする。	・友だちと協力して風船を取り戻せたこと、風船遊びを楽しんだことを振り返り、達成感を感じられるようにする。 ・次回の授業に向けて意欲を高められるようにする。 ・姿勢を正し、前を見て挨拶できるように促す。	

（6）教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）



平成28年度　小学部研究授業･研究協議会のまとめ【報告】

授業者より

大人（先生）と自分の世界　⇒　友だちの存在に気づく

⇒　少しずつ友だちに気持ちを向け始めた段階

低学年の子どもたちの
心の中にめばえ始めた
「友だちへの関心」を、
どう広げていくか？
↓
一緒に活動する場の設定

＜小学部　学部共通テーマ＞

子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力をはぐくむ授業

＜中学部　学部共通テーマ＞

友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業

＜全校統一テーマ＞

一人ひとりの可能性を伸ばす授業　づ　く　り

＜高等部　学部共通テーマ＞

「いつでも、どこでも、誰とでも(誰にでも)」を大切にした授業

グループワーク

お話を見る・聞く力につながる工夫、お話の世界の理解へ

◎ことば（繰り返しのフレーズ、ことばの精選、丁寧にはたらきかける→見通し）

◎音楽・効果音（繰り返し、困った感をどうあらわすか？）

◎チームとして（MT：主になってすすめる、対個人・対全体へのことばかけ、ゆっくり）

（ST：子どもの心をどこまで拾うか？様子を見守るか？　動き方、役割分担）

◎教材（ねこの素材・色、提示場所、光に透けた木、自分の操作で変化が生じる等）

シェア

子どもたちの「心の動き」を引き出すために

1回・ひとりで完結しない場面設定 → みんなでできた！

「失敗する経験」を受け止める⇒積み重ねる⇒「できた」ときの自信、達成感に

「ひとりでする？友だちとする？」選択

先生と子どものやりとりから広がる心…ドキドキ感「選ぶ？」「選ばれる？」「誰と？」「わたしかな」

やりとりは、ゆっくり・丁寧に・ことばにして気持ちを受け止める

今後に向けて

1年生　子どもの実態にあわせたかかわり・受け止め

2年生　色んな体験→気持ちの土台を作る、伝わる経験を重ねる

4年生　授業のねらいの共有、言葉でのフィードバック

5年生　どんどん進めるだけでなく「待つ」意識づけ

3年生　言葉も、課題もシンプル・ストレートに。「待つ」意識　6年生　次の展開を見越した授業づくり、個別課題の設定
地域の小学校　「じっくりかかわる」、チームとして動く

「みる・きく・つたえる」（がんばれ　はぶらしハーマン）

学習指導案

大阪府立交野支援学校
指導者　　上田　悠司

１．日時　　平成２９年１０月１８日（水）　第３時限（１０：３５～１１:１０）
　　１０月２６日（木）　第３時限（１０：３５～１１:１０）
２．場所　　小学部　第４学年　１組教室
３．学部・学年・組　小学部　第４学年　１組　　５名
４．単元名　　「がんばれ　はぶらしハーマン」
５．単元目標　　・お話に興味を持ち、先の展開や再現遊びを期待することができる。
　　・お話や再現遊びで感じたことを自分なりの方法で表現することができる。
　　・再現遊びを楽しむ中で、口の中に興味を持ったり歯磨きをしたりすることができる。

６．児童観

本クラスはお話を好きな児童が多く、前で掲示される人形劇やペープサートを比較的集中して見聞きでき、お話の台詞や歌を覚えて口ずさんだり、登場人物が目の前にくると嬉しそうな表情をしたりして楽しむことができている。また見聞きしやすいように姿勢（プロンボード、座位保持椅子）を整えたり座席配置を工夫したりすることで、お話の中で人物が登場する方向へ自ら視線を向けたり、登場に合わせて笑顔を見せたりするなど、先の展開を期待する様子が見られるようになってきた。ただ、見通しが持てるようになると飽きてしまい集中が途切れる児童や眠ってしまう児童もいるため、登場人物とやりとりできるように展開を工夫したり、お話を省略して再現遊びの時間を長めに設定したりするなど、臨機応変な対応が必要である。

本単元の題材となる歯磨きに関しては、どの児童も給食前後に実施している。自分で歯ブラシを持ってある程度磨くことができる児童、口の中に歯ブラシを入れることができる児童、歯ブラシを口の中に入れようとすると口をすぼめてしまう児童など、その様子は児童によって様々である。また、歯磨き以外の活動に関しても、苦手なことや初めてのことに対しては取りかかるまでに時間がかかったり、興味があっても不安な気持ちが勝ってしまい、こわばった表情をしたりする児童が多い。そのため、みんなで大好きなお話を見聞きし、そのお話に参加しながら先生や友だちと一緒に活動することで少しでも苦手意識を和らげたり、初めてのことでも意欲的に取り組めたりできるようになってほしいと考える。

７．教材観

本単元の絵本『がんばれ　はぶらしハーマン』は、歯磨きを題材にした内容となっている。また、正義の味方「ハーマン」が、歯が痛くて泣いている子どもたちの歯磨きを手助けし、悪者「ムッシー」を倒すという分かりやすい内容となっているため児童の実態に適していると考えた。さらに、登場人物の役柄もはっきりしており、正義の味方「ハーマン」が登場することで歯磨きをすることが良いこと、悪者「ムッシー」が登場することで歯に付着したバイ菌が悪い物というイメージを抱くことができ、歯磨

きに対する理解を促すことができる。

お話の掲示する方法としてはパネルシアターと人形劇の両方を取り入れ、主たる登場人物の「ハーマン」と「ムッシー」を人形で、その他をパネルシアターで掲示している。話し手が実際に人形を操作することで登場人物の感情や動きを表現しやすく、また掲示する方法に違いをつけることで、主たる登場人物に興味・関心を引きつけることができると考えた。また、第二次以降の再現遊びでは、立体模型の歯や自身の歯を磨く活動を行うため、人形を用いて手本を示す方が歯磨きをする動作が分かりやすいと考えたからである。その他、登場する子どもたちをペープサートで掲示した理由として、第一次では実際にお話に参加しながら児童がお話で登場する子どもたちの歯を磨く活動を行うため、立体物を歯磨きするよりも平面のパネルシアターの方が歯磨きしやすいと考えたからである。さらに、歯磨き後の達成感をしっかりと感じられるように、第一次と第二次では口の中のバイ菌が目に見える形(黒いフェルト)で提示するようにした。さらに使用する歯ブラシにも細工を施し、歯磨きした際に歯ブラシにバイ菌が引っ付くように工夫した。

最終的な活動「自分の歯を磨く」を見据えながら段階的に難易度を上げ（スモールステップ）、児童の歯磨きに対する苦手意識が少しでも和らぐようにお話の提示方法や歯磨きの教材を考察した。

８．指導観

パネルシアター・人形劇の場面では、「ハーマン」が登場する場面には明るく勇敢な曲を、「ムッシー」が登場する場面には怖いイメージの曲を流して、正義の味方と悪者のイメージが沸きやすいように工夫した。第一次では、お話を楽しんで見聞きする中で、悪者「ムッシー」を倒すために正義の味方「ハーマン」と一緒に歯磨きしてみようという気持ちが持てるように、敢えてお話と再現遊びの時間を区別せず、お話に参加しながら歯磨きをする授業展開にした。また、できるだけ楽しんで歯磨きができるように、みんなで歌を歌いながら一緒に仕上げ磨きをする場面を取り入れた。第二次以降はお話と再現遊びの時間を区切り、第三次で自分の歯を磨くことを見据えて、第二次には歯の模型（立体）を用いて歯磨きをする活動を取り入れた。その理由としては、いきなり自分の歯を磨くのではなく、第一次と第二次に自分以外の他者の歯を磨く活動を取り入れることでも苦手意識を軽減したいと考えたからである。

お話に参加したり楽しんで歯磨きをしたりする経験をたくさん積むことで、第三次で実際に自分の歯を磨く時に「どうしよう」「苦手だけど・・ムッシーを倒したい」といった心の葛藤が生まれてくる。その心の葛藤に教員が寄り添い共感しながら繰り返し取り組むことで、その先にある「やってみよう」「がんばる」という気持ちを引き出していきたい。

今回の授業においても、根幹となる学校統一テーマ「一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり」を基に、学部共通テーマである「子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力を育む授業」の“心の動き”と“内なる力”をどのように捉え、具体的に何をねらいにするのか検討を重ねてきた。これまでの授業において、子どもたちは先生や友だちと一緒にいろいろな経験を積み重ねることで多くの感情を育んできた。今回の授業でも、単純に歯磨きが「できた」「できなかった」だけではなく、お話を見聞きした後には「楽しそう」「やってみたい」と感じたり、歯磨きの再現遊びを目の前にすると「怖い」「苦手」といった思いになったり、最後に「できた」「もっとしたい」など、いろいろな感情が交錯する。初めは「怖い」「苦手」と思っていた児童も、お話を見聞きしながら繰り返し活動する中で、意外に「大丈夫」と感じたり「がんばってみよう」という気持ちが芽生えたり変化する心を“心の動き”と捉えることができる。このような心の動きに寄り添い大切にしながら取り組むことで、最終的に感じる思いに膨らみが増し、やがて達成感につながっていく。その達成感は、次に取り組む時のさらなる意欲となり“内なる力”を育むことにつながっていくと考えている。このように繰り返し活動する中で、より多くの達

成感を積み重ねることで、「やってみよう」とチャレンジする気持ち“内なる力”を育んでほしい。

９．単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・お話に注目して見聞きすることができる。 ・活動に興味を持って、先生や友だちと一緒にお話に参加(歯磨き)することができる。	・言葉、声、表情、動作等、自分なりの方法で感じたことや思いを表出することができる。	・歯ブラシを口の中に入れたり、歯に歯ブラシを当てて磨いたりすることができる。	・歯磨きをすることが良いこと、歯についたバイ菌は悪い物ということを知る。 ・自分たちの働きかけでお話が展開していくことを知る。

１０．単元の指導と評価の計画（全１７時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全体	9/7	・パネルシアター+人形劇	○	○		
	9/8	・パネルシアター+人形劇	○	○		
第一次	9/11	・パネルシアター+人形劇 ・こどもたちの歯を磨こう	○			○
	9/12	・パネルシアター+人形劇 ・こどもたちの歯を磨こう	○			○
	9/19	・パネルシアター+人形劇 ・こどもたちの歯を磨こう	○		○	
	9/21	・パネルシアター+人形劇 ・こどもたちの歯を磨こう	○		○	
第二次	9/25	・パネルシアター+人形劇 ・かばくんの歯を磨こう	○	○		
	9/26	・パネルシアター+人形劇 ・かばくんの歯を磨こう	○	○		
	10/5	・パネルシアター+人形劇 ・かばくんの歯を磨こう		○		○
	10/6	・パネルシアター+人形劇 ・かばくんの歯を磨こう		○	○	
第三次	10/10	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう	○	○		
	10/16	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう	○	○		

	10/18 【本時】	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう	○	○		
	10/25	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう	○	○		
	10/26 【本時】	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう	○	○		
	10/30	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう		○		○
	10/31 (参観)	・パネルシアター+人形劇 ・自分の歯を磨こう		○	○	

１１．本時の展開

（1） 本時の目標

・お話を見聞きする中で自分から登場人物に視線を向けたり、目で追ったりすることができる。

・お話や再現遊びで感じたことを自分なりの方法で表現することができる。

・口の中を鏡で見たり、歯ブラシを歯に当てて磨いたりすることができる。

（2） 本時の評価規準

・登場人物が目の前にきたりＢＧＭや台詞を聴いたりする中で、自分から視線を向けたり目で追ったりすることができる。【関心・意欲・態度】

・お話や再現遊びで感じたことを言葉、声、表情、動作等で表現することができる。【思考・判断・表現】

・鏡に映る姿に気付いたり、歯ブラシを口の中に入れて動かしたりすることができる。【技能・理解】

（3） 児童の実態と本時の目標

	児童生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	・お話が好きで楽しんで見聞きすることができる。近くにきた人形に視線を向けたり、嬉しい時にはその気持ちを笑顔で表現したりすることができる。 ・苦手なことや初めてのことに対して隣にいる先生や友だちに視線を向けて助けを求めたり、目を瞬かせたりして躊躇する気持ちを表現することができる。給食前の口腔ケアでは、前歯に歯ブラシが当たると口をすぼめたような表情で嫌悪感を示すことがある。	・お話を見聞きする中で、登場人物に視線を向けたり、お話が展開したことに気付いたりすることができる。 ・お話や再現遊び（歯磨き）をする中で感じたことを表現することができる。 ・鏡で口の中を見たり、先生と一緒に歯ブラシを持って歯に当てたりすることができる。	・登場人物が目の前にきたりＢＧＭや台詞を聴いたりした時、表情を変えることで伝えたり視線を向けたりすることができる。 ・登場人物からの問いかけや振り返りの際、感じたことを声や表情、口の動き等で表現することができる。 ・鏡で口の中を見た後、先生と一緒に歯ブラシを持ったまま歯に当てることができる。
B	・急に不安定になり泣き出してしまうことはあるが、お話が好きで登場人	・自分から登場人物に視線を向けたり目で追ったりする	・登場人物が目の前にきた時に視線を向けたり、その後、

	物に笑顔で視線を向けたり、近くにきた人形に手を伸ばしたりすることができる。 ・苦手なことに対して、のけ反ってその場から離れようとしたり、声を出したりして嫌な気持ちを表現することができる。給食後の歯磨きでは歯ブラシを自分で持ち、噛むようにして歯に当てることができる。仕上げ磨きでは少し苦手な表情が見られるが、受け入れて最後まで磨くことができる。	ことができる。 ・お話や再現遊び（歯磨き）をする中で感じたことを表現することができる。 ・鏡で口の中を見た後、自分から歯ブラシを持って歯に当てたり、その後、先生と一緒に歯ブラシを持って磨いたりすることができる。	人形の動きを目で追ったりすることができる。 ・登場人物からの問いかけや振り返りの際、感じたことを声や表情、手を伸ばす等の動作で表現することができる。 ・自分から歯ブラシを握って口の中に入れて歯に当てたり、先生と一緒に歯ブラシを持ったまま動かしたりすることができる。
C	・回を重ねると飽きてくる様子もあるが、お話を繰り返し見聞きする中で、台詞を真似したり、感じたことを簡単な言葉や表情で表現したりすることができる。 ・苦手なことに対して「やだってばー。」とはっきりとその気持ちを伝えることができる。初めてのことに対しても慎重で、じっと様子を窺う場面が見られる。給食後の歯磨きでは、手本や促しがあると自分で歯ブラシを持って口の中に入れて動かし、簡単に磨くことができる。	・集中してお話を見聞きする中で、次の展開を期待したり、登場人物を目で追ったりすることができる。 ・お話や再現遊び（歯磨き）をする中で感じたことを表現することができる。 ・鏡で口の中を見たり、先生の促しに応じながら自分で歯ブラシを動かして磨いたりすることができる。	・ＢＧＭや台詞を聴いて、次の展開を期待するような言葉を言ったり、登場人物の動きを目で追ったりすることができる。 ・登場人物からの問いかけや振り返りの際、感じたことを言葉や表情等で表現することができる。 ・鏡に映る姿に気付いて口を開けたり、「ゴシゴシ」という言葉かけに合わして歯ブラシを動かしたりすることができる。
D	・簡単なストーリーを理解することができ、お話の世界に入り込んで楽しむことができる。回を重ねるとおしゃべりが増えてしまうことはあるが、見聞きして感じたことをその都度、言葉で伝えることができる。 ・苦手なことに対しては言葉ではっきりと意思表示することができる。苦手なことでも周囲の楽しい雰囲気を感じると自分から挑戦できる時もある。給食後の歯磨きでは自分で簡単に磨くことができるが、仕上げ磨きはかなり苦手な様子である。	・次の展開を期待しながら最後まで集中してお話を見聞きすることができる。 ・お話や再現遊び（歯磨き）をする中で感じたことを表現したり、友だちの発表を聞いたりすることができる。 ・鏡で自分の口の中を見ながら、丁寧に歯磨きすることができる。	・次の展開を期待するような言葉を言ったり、登場人物の思いを言葉にしたりしながら見聞きすることができる。 ・登場人物からの問いかけや振り返りの際、感じたことを言葉で表現したり、友だちの発表を静かに聞いたりすることができる。 ・口の中を鏡で見ながら、指定された箇所（上下左右）を歯磨きすることができる。
E	・途中で眠ってしまうこともあるが、お話は好きでしっかりと起きて見	・お話を見聞きする中で、登場人物に視線を向けたり、お	・登場人物が目の前にきたりＢＧＭや台詞を聴いたりし

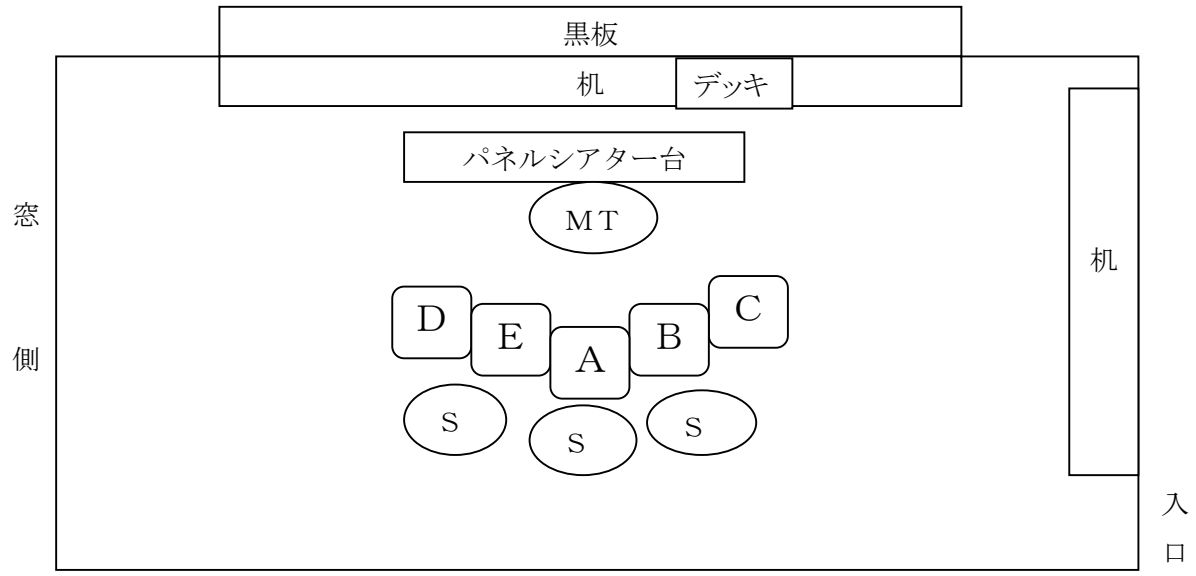
	聞きできることが多い。好き嫌いがはっきりしており、登場人物が近付くと身体に力を入れて身構えたり、口を動かしたりして、その思いを表現することができる。 ・苦手なことや初めてのことは、眉間にしわを寄せたり上体に力を入れたりして嫌な気持ちや躊躇する気持ちを表現することができる。給食前の口腔ケアは苦手で、口の中にガーゼや歯ブラシが入ると口をすぼめて嫌な気持ちを表現することができる。	話が展開したことに気付いたりすることができる。 ・お話や再現遊び（歯磨き）をする中で感じたことを表現することができる。 ・鏡で口の中を見たり、先生と一緒に歯ブラシを持って歯に当てたりすることができる。	た時、表情の変化が見られたり視線を向けたりすることができる。 ・登場人物からの問いかけや振り返りの際、感じたことを声や表情、動作等で表現することができる。 ・鏡で口の中を見た後、先生と一緒に歯ブラシを持ち、促しに応じながら口を開けたり歯に当てたりすることができる。

（４）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
3分 導入	○始まりの挨拶をする。 ○「みる・きく・つたえる」の歌を歌う。 ○本時の学習内容を知る。	・姿勢を正し、前を見て挨拶できるように促す。 ・授業の始まりを意識できるようにする。 ・活動に見通しが持てるようにする。	・顔を上げて期待する表情をしたり、視線を向けたりして授業の始まりを意識することができる。
10分 展開①	○パネルシアター＋人形劇「がんばれ はぶらしハーマン」を見聞きする。 ・ハーマンやムッシーとのやりとりを楽しんだり、みんなで一緒に歯磨きの歌を歌ったりする。	・見やすいように座席位置や姿勢を整える。 ・ＭＴは、児童がお話の雰囲気を楽しめるように言葉のリズムを合わせながら盛り上げる。 ・ＳＴは児童の様子を見ながら、登場人物の動きやお話の展開に気付けるように、歌や台詞をＭＴと合わせながら言葉かけをする。 「むっしっしー」「ゴシゴシゴシ」「ばいきん」　「ピカピカ」等 ・歯磨きの歌では、児童が見えやすいようにＳＴがそれぞれ児童の前に立って歯磨きをする。	・お話の展開に気付いて表情を変えたり、登場人物に視線を向けたりして注目することができる。 ・ムッシーやばい菌を見て嫌な表情をしたり、ハーマンを見て笑顔になったり、見聞きして感じたことを自分なりの方法で表現できる。
14分 展開②	○自分の歯を磨こう。 ・どこからともなく、ムッシーの声や曲が聞こえてくる。	・ハーマン（ＭＴ）が「もしかしたら、ムッシーがくるかもしれない。みんなの歯は大丈夫？」と児童に投げかける。	・ムッシーがくるかもしれないことに気付いて表情を変えたり、言葉や声等でその気持ちを伝えたりできる。

展開②	・ハーマンからの誘いに応える。	・ハーマン（ＭＴ）は、「ムッシーを追い払うために歯磨きをしてピカピカにしよう！」と児童に問いかける。 ・ＳＴは児童の気持ちに寄り添いながら、ハーマンの誘いに応じられるように言葉かけをする。	・ハーマンからの問いかけに対して、言葉や声、表情や手の動き等で応えることができる。
	・歯磨きの準備をする。	・ＳＴは口の中が見えやすいように鏡や自在棒の角度や位置等を調整したり、すぐに吸引器が使用できるように準備したりする。	
	・鏡で口の中を見たり、歯を磨いたりする。	・「ゴシゴシ」と言葉を添えたり、歯ブラシを一緒に持って磨いたり、それぞれの課題に応じて支援する。	・鏡に映る姿（口の中）に興味を持つことができる。 ・歯ブラシを歯に当てたり、動かして磨いたりすることができる。
	・歯磨きの歌に合わせて、みんなで一緒に仕上げ磨きをする。	・歌に合わせて、楽しい雰囲気で歯磨きできるように進める。	
	・きれいに歯磨きをしてムッシーを追い払う。	・ムッシーを追い払った時、児童が充分に達成感を感じられるように言葉かけをしながら盛り上げる。	・ムッシーを追い払った時に表情を変えたり、言葉や声等でその気持ちを伝えたりできる。
8分 まとめ	○本時を振り返りながら、感じたことを発表する。 ○終わりの挨拶をする。	・児童の気持ちに寄り添いながら感じたことが表出できるように言葉かけをする。 ・姿勢を正し、前を見て挨拶できるように促す。	・感じたことを自分なりの方法で表現することができる。

（５）教室配置等



平成２９年度　小学部授業研について

小学部研究部

１．はじめに

小学部では、「学年でもっと授業の話をする時間が欲しい」との多数意見により平成２６年度から学年別の「授業研」を行うこととなった。２ヵ年で同一教科領域を事例研究すると決め、平成２６・２７年度は「みる・きく・つたえる」、平成２８・２９年度は「うた・リズム」の授業を学年で検討してきた。

２．今年度の授業研について

昨年度の反省により“子ども主体”（授業をベースに子どものことをしっかり見立てて、子どもに対する支援や変化を見ていく）の授業研にしていくことをめざして取り組んだ。

（１）１学期

・１回目（5 月 24 日）

「昨年度の報告会の資料や発表をもとに、授業研の大枠について知ろう」をテーマに小学部全体会を行った。新転任の教員も多いため、研究部より「授業研とは何か」「昨年度授業研の取組の流れ」「今年度授業研の取組の視点」などの説明を行った。昨年度の報告会で発表された旧 1 年生のビデオを視聴しながらの説明は“子どもの変容を追う”視点や方法の理解を広めるのに効果的であったと考える。

全体会終盤は「授業で大切にしたいこと」をテーマに、学年ワークを行った。各学年に分かれ、授業を作るにあたって「子どもたちに」「教員間で」大切にしていきたいことを話し合い、発表をしあった。子どもへの視点では、低学年では「ゆっくり待とう」「楽しい！できた！もっとやりたい」、高学年では「達成感」「将来へ」など発達年齢を考慮した学年らしさがうかがえた。教員間では「話す」「共有」「得手不得手」など、どの学年も子どもの様子、授業の様子等をしっかり話し合い、苦手なところもお互いにフォローしながら授業を作っていこうという意気込みが感じられる発表であった。

・２回目（6 月 16 日）

「現在進行形のどの授業でもいいので、実態把握、課題設定、手立ての工夫などについて伝えあおう！共有しよう！」をテーマに、学年やクラスで授業について話し合いを行った。今回の授業については「うた・リズム」に限定せず、学年ごとに現在進行形の授業を振り返ったり、これから始めようとする授業の相談をしたりする時間とした。「領域・授業名」「実態把握」「課題設定」「手立ての工夫」が記入できる簡単な記録用紙を用いて各学年、クラスで自由に話し合っていた。

（２）２学期（9 月 8 日、9 月 22 日、10 月 13 日）

２学期は「学部共通テーマ『子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力をはぐくむ授業』を意識した授業づくりをすすめ、学年・クラス単位で「うた・リズム」について話そう」をテーマに３回の授業研日を設けた（学年やクラスの都合に応じて別日に設定しても

よい)。ワークシートについては、昨年までは１枚にクラスの複数の子どもの様子を記入していたが、より“子どもの変容がわかる”よう今年度は１枚に１人の子どもの様子を記入する様式に変更した。(資料①) また、何人分（何枚分）記入するかは学年の取り組み方次第（全員の子どもの変容を追う or１～２人に絞るなど）で任せることにした。

（３）３学期（1 月 16 日）

小学部全体報告会を行った。昨年までは発表学年を３学年としていたが、発表内容・質疑応答を充実させるため、今年度は２学年（１年・３年）とした。“子どもの変容”を視点に撮られた動画を使用しながら報告した。また、発表学年以外（２年・４年・５年・６年）の取り組み資料は、後日各学年に１部ずつ配布し回覧して活用することとした。

○１年生「うちゅうせんにのって」～きらきら星に願おう～

授業内容としては、器楽、鑑賞、身体表現と盛りだくさんな内容になったため、次第に楽器にしぼることにした。楽器を鳴らす楽しさを知る、きれいな音を聞くことを大事に、1 年生なので楽器の数や種類を限定した。宇宙船に乗る活動は、最後のお楽しみで行った。

＜A さん＞当初課題にしていたツリーチャイムは意図的に自分で鳴らすこともできるようになったため、課題をあげてトライアングルに取り組んだ。手首の動きに集中できるようにファンファンで姿勢を安定させたり、ゴムをつけたバチを使用したりすることで自分で何度も鳴らせるようになっていった。

＜B さん＞バチを握ってトライアングルを鳴らすことができるが､継続することが難しい。リズムを感じながら先生と 8 個間ずつ交代で鳴らす課題に取り組んだ。少し早めのリズム打ちが本児に合った。気持ちに寄り添えば活動が再開でき頑張っていた。

＜C さん＞物より人に興味があり、遠視もあり、提示物を注視するのが難しい。お星さまに興味を示したのでツリーチャイムを鳴らしたら星が出てくる設定にして取り組むが難しかった。偶然に鳴った時に褒め「音が鳴ったね」と意識づけすることが大事な時期なのかもしれない。

○３年生「ワクワク音楽家♪」

「楽器を鳴らそう」「山の音楽家」の歌や曲に充分馴染んで気分を高めてから、好きな楽器を見つけ､「自分で鳴らす」や「リズム打ちをする」などそれぞれの課題に取り組んだ。

＜D さん＞手を引き込むことに「前、前」の言葉かけで手を前に出すがトライアングルのバチを落としてしまう。肘を支持しバチにバンドをつけたり、音に集中できるように言葉かけを最小限に抑えたりすると、鳴らすことに意識が向いた。肘支持も少しずつ減らしたが積極的に鳴らせるようになった。

＜E さん＞「自分でしたい」気持ちが強いが、緊張したり思いが違ったりすると力が発揮できない。木琴の高さや位置はその日の手の動きに合わせて調節した。歌で気分を高めたり褒めたり励ましたりを継続し、発表時に声を出しながら木琴を鳴らせるようになった。

○指導教諭より

各学年丁寧に取り組みが行われ、その創意工夫や試行錯誤をクラス・学年で話し合ってきたことがとてもよかった。動画の子どもの表情を見ると、やはり「伝わる授業って大事だな」と感じた。授業づくりといえば“PDCA サイクル”とあり、それだけ聞くと難しく感じるかも知れないが、どの学年もしていることだと実感してほしい。事例を見ていると、子どもの実態から手立てを変えるのか、目標を変えるのか、振り返り方に工夫があったように思う。他学年の取組も参考に、これからの授業に役立てたいと思う。

３．おわりに

今年度の授業研終了後、個人記入形式でアンケートを行った。授業研の実施に関しては、「忙しい毎日の中で授業研の時間があることで、細かく、深く授業や子どもの様子を振り返ることができて良かった」「クラスの先生方と話し合うことで授業改善につながった」「ST として入る時に、より目標を意識した」など前向きな意見が多く、授業づくりや子どもの実態・課題の把握に関して重要な役割を果たしていると感じた。ワークシートの形態や報告会の進め方などの検討課題もあるが、今後もより良い授業研になるよう取り組んでいきたい。

資料①

2017年度　授業研「うた・リズム」
小学部（　）年　単元名「　　」

学校統一テーマ：一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり　　学部共通テーマ　：　子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力をはぐくむ授業

単元目標及び授業コンセプト（何をやらせたいか？）【歌唱・器楽・身体表現・鑑賞】

	授業前【予想】 月　日（　）	授業前半 月　日（　）	授業中盤 月　日（　）	授業後半 月　日（　）
【授業のキーワード】				
【子どもの実態】				
【手立て】				
【予想される姿】	【子どもの変容】			

【授業を実施してみて、今後に向けて】

中学部研究授業および協議会について

１．はじめに

中学部では、平成２７年度より「友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業」をテーマに掲げ、日々の授業作りに取り組んできた。中学部で過ごす３年間は精神的な成長が著しく、感情のコントロールが難しく心が不安定になる生徒も多い。それぞれの個性を生かし、互いに刺激を受けたり与えたりしながら、本テーマに沿った授業を作り、その中で本校共通テーマの「一人ひとりの可能性を伸ばす授業作り」をしていきたい。本誌では、中学部でこれまでに取り組んできた研究授業や研究協議会の中で出たキーワードや授業づくりの視点を交えて、研究授業の学習指導案とともに報告する。

２．平成２９年度研究協議会（今年度は、飯野順子先生を講師に招き、授業力向上に取り組んだ。）

①授業者からの発信

・知識を身に付けてほしい

・知識＝興味

・実生活に活きる国語的な知識

②協議会①の視点

グループワーク課題「児童生徒の知識を増やすにはどうすればいいか？」

「木」「土」の漢字という知識をどう伝えるか。

③協議会①でのまとめ

＜漢字という知識を教えるときに大事にしたいこと＞

・生活

・意味を知り、イメージができる

・興味

・スリム化

＜授業の展開＞

〇体験

・五感を使ったもの

・知識を使ったもの

〇積み重ね

平成27年度　中学部研究授業･研究協議会のまとめ【報告】

研 究 部

授業者より

・学部テーマを題材として、再度テーマの理解と解釈をして「環境構成」と「支援の工夫」の２つのポイントに絞った。
友だちの取り組みを見て自分の良さや友だちの良さを知り、苦手なことも自分なりに取り組もうとするなどの自分らしさを発揮できるようにと考えた。

・環境構成：二人一組のペアをつくり、造形者と撮影者の２つの役割をつくった。
ペアの作品を同じ視線で見ることができるように上から撮影できるようにした。
・支援の工夫：砂という形状変化がわかりやすい素材を使い、写真撮影の遠隔操作が可能なシャッターボタンを用いて協力して作品づくりができるようにした。

気づきシート記入　ＶＴＲ鑑賞

・ＶＴＲが２０分しかない為、展開部分のペアの両方の作品作りを見た。
・３グループに分かれる。
（　体育・技術グループ、Ｂ・ことばかずグループ、音楽・美術グループ　）
・気づきシート記入

思いついたことを何枚でもいいので記入してもらい、要点をピンクの用紙に記入。

シェアタイム　グループワーク①

・ＶＴＲを見て各グループのグループワークから出てきた感想をシェア。
素材：砂・水で変化しやすい、なじみやすい。情緒の安定が見られ、それが楽しさ・意欲につながっていった。　感触の好き嫌いがわかりやすく見られる。
友だちへの意識：ペアでお互いを意識していた。指導者がどれだけ実感しているか大切。
作品に介入する（責任感と達成感）
ＢＧＭ：砂の感触を触っているときの音のようなもので現実感をだしても良かったんじゃないか。
普段よりも動きが活発に見られた。音楽が止まっても切り替えができていた。

シェアタイム　グループワーク②

＜学部テーマ達成のためへの今後の取り組み＞
・グループワーク①でシェアしたことを受けて各グループが３学期からの授業で大切にしたいこと。
授業の中にいくつも仕掛けを作る
支援機器を使用して体験の領域を拡げていきたい
ＢＧＭの使い方の工夫：プラス面　表情が豊か、動きが活発。
マイナス面　依存してしまう、切り替えが難しい

友だちの好き嫌いを知り、
自分とは感じ方が違うことを知る（他者理解）

＜中学部　学部共通テーマ＞

友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業

一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり

＜全校統一テーマ＞

平成２７年度　研究授業

校長・准校長サイン　(学校長確認済み)

中学部３年生「美術」学習指導案

府 立 交 野 支 援 学 校

指導者　　西村　幹　　（MT）

志賀泰彦　（ＳＴ1）

村井正信　（ＳＴ2）

東　良祐　（ＳＴ3）

１．日時　　平成２７年１２月８日（火）第５時限目１３：３０～１４：１０

２．場所　　中学部　第３学年　２組教室

３．学部・学年・組　中学部　第３学年　１組３名・２組３名　全６名

４．単元名　　「すきなものさがしのたび」～サンドアニメーション～（映像）

５．単元目標　　・身近な自然素材である砂の様々な感触を味わい、砂の性質を確認しながら形をつくる。
・道具の使い方を知り体験することで、表現や興味の幅を広げる。
・友だちの作品に関心を持ちながら、友だちと協力して制作する。
・友だちの多様な発想を味わう。

６．生徒観

本学年の生徒は男子３名女子３名の６名で構成されている。６名のうち医療的ケアを必要とする生徒が２名、うち１名は気管切開をしている。スピーチカニューレレティナを使用していることで、言葉でのコミュニケーションをとることができる。本学年の生徒の実態に幅はあるが、教員や友だちの様子をよく見ており、友だちに対する質問にも「はい」や「あかん」などの言葉で応えたり、声を出して教員を呼び、手を持って一緒にやってほしい動作を伝えたりする生徒もいる。また自分からの発信は少ないが、教員の呼びかけに対し耳を傾けたり、視線を向けたりする生徒もいる。映像が好きな生徒が多く、自分や友だちの活動がＴＶ画面に写し出されると、集中して見ることができ、活動内容の見通しを持ったり、自分の目標を発見したり、友だちの様子を見て意見したりすることもあり、それぞれに活動の様子を見て楽しむ姿が見られる。作品や素材を通して自分の思いを伝え、様々な感情体験を共有する友だちの存在に気づき、友だちの気持ちを感じ取りながら一緒に力を合わせて作品をつくる楽しみや喜びを味わって欲しいと考える。

７．教材観

本単元では「すきなものさがしのたび」をテーマにサンドアニメーションを制作する。自己理解を深め、他者理解へとつなげるために、テーマを「すきなものさがしのたび」と設定した。ストーリーは、乗り物に乗って好きなものを探すために山を越え、谷を越えるなどして色々な所へ行く。最後に好きなものが見つかり、また好きなものを探す旅に出るというものである。エンディング場面に素材として使用する「すきなもの」は、ペアになりパソコンを使って集めた。画面に様々なものが現れるので、それらを見ることで自分の心の動きを感じ取り、これまでに自分が好きだったものを確認し、新たに自分が好きなものを発見することもできる。プリントアウト

した「すきなもの」を使ってコラージュした作品を鑑賞することで、友だちの好きなものを知り、友だちへの関心へと繋がるようにと考えた。乗り物は身近な乗り物の「車」と修学旅行で見学した「飛行機」の２つから選択し、１、２年生の時に取り組んだ陶芸の土や型抜きの技法を使って制作した。ＢＧＭは、音楽に興味関心が高い生徒たちであるので、「車」「飛行機」で旅をしているイメージがもてるような曲をクラッシックやＪ－ＰＯＰなど様々なジャンルから４曲選び、それぞれが選択できるようにした。アニメーション制作の素材は、身近な自然素材であり様々な感触を味わうことができる砂を選択した。直接的に素材にかかわることで、砂の特性である可塑性や水を加えることで固まる性質などを体験し、イメージを広げ自分なりの表現や発想を楽しむことをねらいとして選んだ。衛生面を考え、市販の砂を熱消毒して使用する。アニメーション作品に仕上げようと考えたのは、コマ撮りを行うことで、動かないはずのものが動いて見える楽しさが味わえるためである。ペアになって造形者と撮影者との役割を明確にし、制作中に感じたことを友だちに伝えたり、友だちの制作過程を見ることで、友だちの感情や発想に気付いたり、道具の使い方を見て真似ようとしたりする場面を設けるためである。最後に作品の上映会を実施し、一緒に作った作品を鑑賞することで、友だちと協力して作り上げた喜びと達成感を共有できるようにしたい。

８．指導観

学部共通テーマは「友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業」である。中学部で過ごす３年間は精神的な成長が著しく、感情のコントロールが難しく心が不安定になる生徒も多い。これまでに様々な経験を積んできた生徒たちは、自分の感じたことを発信したいと考えるようになるため、自分の存在が大きくなり、他者の存在に気付きにくくなる。自分の思いを伝えることができる環境には、それを受け止める他者の存在があり、互いの信頼関係を深めることで、第三者の存在に気付き、他者理解へとつながると考える。学年という集団の中で互いを認めあうことで相手を大切にし、友だちのがんばる姿を認め、励まし、自分と友だちのよさを見つけ、友だちの気持ちに共感しつつ、自分の役割を果たし、責任感や達成感を味わい、苦手なことも自分なりに取り組もうとするなどの自分らしさを発揮できるようにと考えた。

これまでの授業では、直接素材に触れる経験を重ねてきた。本単元の基本素材「砂」の感触も十分に味わえるように工夫を行った。個々に応じた姿勢で行えるように制作台を高さの微調節ができるボランチにした。砂の性質を感じられるように、乾燥した小さな砂と大きな砂、水分を含んだ砂を準備した。砂の粒の大きさの違いによる「さらさら」感や「ざらざら」感、水分が含まれることによる「べとべと」感などを体験する中で様々な体感に気付けるよう十分に感触を味あわせるようにする。自分の思いを発信したときは、それを受け止め、発信できたことを一緒に喜び、その思いを友だちへも伝えていくように促し、信頼関係を深めていくようにする。撮影については、友だちと協力してひとつの作品をつくりあげることで、友だちの存在を感じながら制作できるように、自分の作品を撮影するのではなく、友だちの作品を撮影するようにした。シャッターを押すときに、できるだけ造形者と撮影者、カメラとが同じ角度から造形物を捉えられるように工夫をした。カメラは造形者の頭上にセッティングし、遠隔操作でシャッターを切れるようにした。撮影した写真はすぐに学年のハードディスクに保存し、データー管理をする。友だちと協力して行うものづくりを通して、自分のことを知り、また友だちのことを知りながらお互いを認めあえる関係を築いていけるようになって欲しいと考える。

９．単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・積極的に素材に触れようとしている。 ・素材に触れて感じたことを伝えようとして	・素材の性質を味わうことができる。 ・素材に触れながら、イメージを膨らませて	・パソコンのキーボードを押すことができる。 ・はさみを握ったり、押さえたりして紙を切	・パソコンのキーボードを押さえると、画面が変わったり、音が鳴ったりすることを理解

いる。 ・友だちが制作している様子を見ようとしている。 ・友だちの好きなものや苦手なものを知り、自分との違いを知ろうとしている。	制作することができる。 ・ＢＧＭや乗り物など、いくつかの中から選んで決めることができる。	ることができる。 ・スイッチを押して写真を撮ることができる。 ・コップやスプーンを使って砂の造形することができる。	している。 ・はさみを握ったり、押したりすることで、紙が切れることを理解している。 ・素材の特性を理解している。 ・スイッチを押すことで、写真が撮れることを理解している。

１０．単元の指導と評価の計画（全１２時間）※は本時を示す

次	時	学習内容	評価基準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1	素材集め	○	○	○	○
	2	素材集め	○	○	○	○
	3	コラージュ	○	○	○	○
	4	コラージュ	○	○	○	○
	5	「すきなもの」発表	○	○		
第二次	6	乗り物づくり	○	○	○	○
	7	構成	○	○		○
	8	造形・写真撮影	○	○	○	○
	9	造形・写真撮影	○	○	○	○
	１０	造形・写真撮影	○	○	○	○
	１１※	造形・写真撮影	○	○	○	○
第三次	１２	鑑賞	○	○		○

１１．本時の展開

（1） 本時の目標

・制作中に感じたことを自分なりの方法で教員や友だちに伝えたりすることができる。(造形・撮影)
・友だちの制作過程を見ることで、友だちの感情や発想を知ることができる。(撮影)
・掴む、なでる、押し出すなどして素材の性質を感じながら形をつくることができる。(造形)
・スイッチを押すことで、写真が撮れることを理解することができる。(造形・撮影)
・道具を使って制作することができる。(造形・撮影)

（2） 本時の評価基準

・制作中に自分が感じたことを表情や声、言葉などで伝えることができる。【関心・意欲・態度】
・友だちが制作している様子を見るなどして、友だちに関心を持つことができる。【関心・意欲・態度】
・素材に関心を持って触れ、素材の性質を味わいながら形をつくることができる。【思考・判断・表現】
・スイッチを押すと写真が撮れることを知る。【知識・理解】
・スプーン、コップ、スイッチなどを使って制作することができる。【技能】

（３） 本時で扱う教材・教具

砂、水、ＴＶ、カメラ、ＨＤＭＩケーブル、変換器、自撮り棒、スイッチ、コップ、スプーン
コラージュ作品、CD、CD デッキ、ボランチ

（４） 生徒の実態と本時の個人目標

生徒	生徒の実態	本時の目標	評価基準
A	・バギーを使用。筋緊張がある。緊張が強い時はベッドやマットで活動する。身体的な緊張と、心理的からの緊張がある。 ・気管切開しており、スピーチカニューレを使用している。 ・日常会話や周囲の状況をよく理解している。 ・言葉や目線で「はい」「いいえ」などの意思を伝えることができる。 ・自分がイメージしたものを先生に伝えながらものづくりができる。 ・筆やスプーンなどの道具を握ることができる。 ・手が汚れるような活動が苦手である。	・友だちの作品づくりを見て、友だちの素材への関わり方を知ることができる。 ・素材に触れたり、友だちの作品を見たりして作品のイメージを膨らませることができる。 ・イメージしたものや思いを先生や友だちに伝えながら作品をつくることができる。	・友だちの作品づくりに関心をもつことができる。 ・直接素材に触れたり、道具を使って形をつくったりすることで砂の性質を知ることができる。 ・目線や表情、先生の問いかけに応えるなどして、イメージを伝えることができる。
B	・独歩。座位保持椅子で活動する。 ・泣く、笑うなどの表情で自分の思いを伝えることができる。 ・紐や水など関心があるものには自ら触ろうとし、握る、掴む、なでることができる。 ・呼びかけや言葉かけに対し、目を合わせることが増えてきている。 ・砂の感触を好む様子が見られる。	・握る、掴むなどして積極的に素材に関わりながら作品をつくることができる。 ・素材に触れながら、自分が感じたことを先生や友だちに表情や声で伝えることができる。 ・友だちが作品をつくっている様子を見ることができる。	・握る、掴む、なでるなどして積極的に素材に触れることができる。 ・先生や友だちの問いかけに、声や表情で応えながら自分の気持ちを伝えることができる。 ・友だちの作品を見ることができる。
C	・車いす使用。座位保持椅子で活動する。 ・声や表情、首をふる、手を合わせるなどで、自分の思いを伝えることができる。 ・先生や友だちが声をかけると、返事をするように声をだす姿が見られる。	・握る、叩く、なでるなどして、素材の感触を味わいながら形をつくることができる。 ・素材に触れながら感じたことを、表情や声で先生や友だちに伝えることができる。 ・友だちが作品をつくっている時の声や素材の音に気づき、友だ	・関心を持って素材に触れ、素材の性質を味わいながら形をつくることができる。 ・制作中に自分が感じたことを表情や声で伝えることができる。 ・友だちが制作している様子を見ることができる。

	・握る、放す、叩くなどをしてものづくりができる。 ・冷たい感触が苦手である。	ちの様子を見ることができる。	
D	・独歩。座位保持椅子で活動する。 ・表情や声、手をたたく、笑う、泣くなどの方法で自分の思いを伝えることができる。 ・情報機器や水など関心のあることやものには積極的である。 ・見本や友だちの活動を見ることで、活動に見通しをもって取り組むことができる。 ・先生の声かけや友だちの様子を見たり聞いたりしている。 ・握る、掴む、筆を持って軽く叩くように描くことができる。	・スイッチを押して写真を撮ることができる。 ・積極的に素材と関わり、押したり、掴んだりして形ができることに気付くことができる。 ・友だちの作品を見て、協力して制作することができる。	・スイッチを押すことで写真が撮れることを知ることができる。 ・スイッチを押して写真を撮ることができる。 ・掴んだり、なでたり、押したりして形ができることに気付くことができる。 ・友だちの作品づくりに関心を持って見ることができる。
E	・バギー使用。座位保持椅子で活動する。 ・先生や友だちの話をよく聞いている。 ・視線や表情、声で自分の思いを伝えることができる。 ・音楽に関心が強く、様々な音に興味をもっている。 ・手に道具や素材を持ち、手を動かしながら作品をつくることができる。	・腕を左右に動かすなどして、素材の感触を味わいながら形をつくることができる。 ・素材に触れながら感じたことを、表情や声で先生や友だちに伝えることができる。 ・友だちが作品をつくっている時の声や素材の音に気づき、友だちの様子を見ることができる。	・素材の性質を味わいながら形をつくることができる。 ・制作中に自分が感じたことを表情や声で伝えることができる。 ・友だちの声や友だちが制作している時の音を聞いて、友だちに関心を持つことができる。
F	・車いす使用。座位保持椅子で活動する。 ・言葉で「はい」「あかん」や、表情などで自分の意思を伝えることができる。 ・握る、掴む、放すことができ、筆などを持って腕や手を動かして描くことができる。 ・友だちや先生の話をよく聞いていて、友だちが制作している様子にも関心を見せることができる。 ・自分の思いを先生に伝えながらものづくりができる。 ・制作意欲がある。	・道具を使って制作する。 ・押したり、掴んだり、なでたりすることで、形ができることを知ることができる。 ・友だちの作品づくりを見て、友だちの素材への関わり方を知ることができる。	・スイッチを押すことで写真が撮れることを理解できる。 ・スイッチを押して写真を撮ることができる。 ・掴んだり、なでたり、押したりして素材の性質を味わいながら形をつくることができる。 ・友だちが制作している様子を見るなどして、友だちに関心をもつことができる。

（５） 本時の学習課程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手立て	評価基準・評価方法
5分 導 入	・ツリーチャイムの音を鳴らす。 ・はじまりのあいさつ ・音楽を聞く。 ・前回撮影したものを鑑賞する。 ・前時の振り返りを行い、本時の内容を知る。	・授業開始までにエプロンをつけておく。 ・授業の始まりを意識できるようにする。 ・前回の内容を確認し、本時の見通しがもてるようにする。 ○音楽をかける。→ＭＴ ○グループ①の写真鑑賞→ＳＴ１	・ビデオに映る友だちの活動を見ることができる。
12分 展 開 ①	・３つのグループに分かれて制作。 撮影者 ○シャッタースイッチを押して、友だちの作品を写真で撮る。 ○友だちが撮って欲しい場面で写真を撮る。 造形者 ○砂の下にすきなもののコラージュ作品を敷く。 ○砂で形をつくる。 ○砂で形をつくり背景が決まったら、乗り物を置く。 ○友だちに写真を撮って欲しい時に合図するなどして伝える。 ○乗り物を動かし、写真を撮ってほしいことを友だちに伝える。 ○何度も繰り返し行う。	・友だちを意識できるようにペアになって制作する。 グループ①　ＳＴ１ 撮影者：Ｂ ・友だちが作品をつくっている様子を見るように言葉かけをする。 ・スイッチを一緒に押し、シャッター音聞こえることを知らせる。 造形者：Ａ ・姿勢を確認し、落ち着いて取り組める姿勢を確保する。 ・砂に水を少しずつ加えながら、感触が変わっていくことに気付かせる。 ・感触を味わう中で膨らませたイメージを伝えたときは、しっかりと受け止める。 グループ②　ＳＴ２ 撮影者：Ｄ　ＭＴ ・友だちが作品をつくっている様子を見るように言葉かけをする。 ・シャッターボタンの場所や押し方、押すことで写真が撮れることなどを実際にやって見せ、使い方を知らせて見通しを持たせる。 ・シャッターを押すタイミングがわかるように、友だちが写真を撮ってほしいタイミングの時に「押して」と声かけをし、同時に一緒にシャッターを押す。何度も繰り返す。 造形者：Ｃ ・砂を寄せたり、崩したりして砂が変化していく様子を見せ、砂への関心	・制作中に自分が感じたことを表情や声、言葉などで伝えることができる。(造形・撮影) ・友だちが制作している様子を見るなどして、友だちに関心をもつことができる。(造形・撮影) ・スイッチを押すと写真が撮れることを知る。(撮影) ・素材に関心を持って触れ、素材の性質を味わいながら形をつくることができる。(造形)

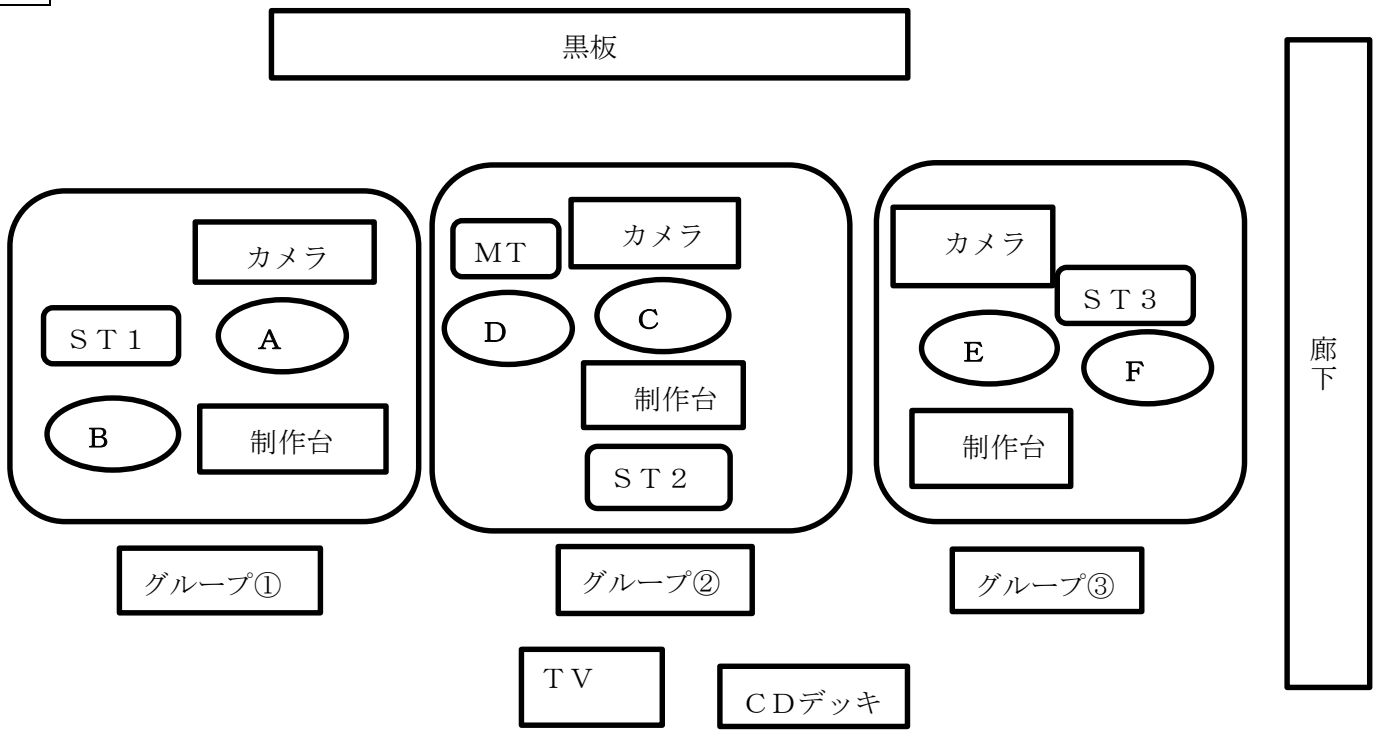
		グループ③　ＳＴ３ 撮影者：Ｆ ・友だちが作品をつくっている様子を見るように言葉かけをする。 ・シャッターボタンの場所や押し方、押すことで写真が撮れることなどを実際にやって見せ、使い方を知らせて見通しを持たせる。 ・友だちが写真を撮ってほしいタイミングの時にシャッターが押せるように、そのタイミングで「押して」と声かけをする。 造形者：Ｅ ・制作台の高さを確認し、自発的な動きがでるように配置する。 ・学習意欲が高められるように、ＢＧＭ曲を流す。 ・砂を触っている様子を伝える。	・スプーン、コップ、スイッチなどを使って制作することができる。(造形)
3 分	・撮影者と造形者が交代	・片付け ・セッティング	
12 分 展 開 ②	撮影者 ○シャッタースイッチを押して、友だちの作品を写真で撮る。 ○友だちが撮って欲しい場面で写真を撮る。 造形者 ○砂の下にすきなもののコラージュ作品を敷く。 ○砂で形をつくる。 ○砂で形をつくり背景が決まったら、乗り物を置く。	グループ①　ＳＴ１ 撮影者：Ａ ・緊張が強い時は、友だちの作品が見えるようにカメラをＴＶにつなげる。 ・友だちの様子を見て、その時々の思いに気付けるように、友だちの状況を伝える。 ・シャッターを押すときは、意識して押せるように言葉かけをする。 造形者：Ｂ　ＭＴ ・砂が口に入らないように注意する。 ・砂を手に乗せたりしながら、主体的な動きが現れるまで待つ。 ・写真を撮ってほしい時のタイミングを声かけで促し、一緒に撮影者に伝える。	・制作中に自分が感じたことを表情や声、言葉などで伝えることができる。(造形・撮影) ・友だちが制作している様子を見るなどして、友だちに関心をもつことができる。(撮影) ・素材に関心を持って触れ、素材の性質を味わいながら形をつくることができる。(造形)

	○友だちに写真を撮って欲しい時に合図するなどして伝える。 ○乗り物を動かし、写真を撮ってほしいことを友だちに伝える。 ○何度も繰り返し行う。	グループ②　ＳＴ２ 撮影者：C ・友だちが作品をつくっている様子を見るように言葉かけをする。 ・スイッチを一緒に押し、シャッター音聞こえることを知らせる。 ・シャッターを押すときは、声かけを行い、押すタイミングのリズムを持たせる。 造形者：D ・砂を寄せたり、崩したりして砂が変化していく様子を見せ、砂への関心を持たせる。 ・水を入れることで、砂の感触が変わることを知らせる。 ・自ら砂を触り始めたら、その様子を見守る。 ・砂で形をつくった場面に飛行機を置くように促す。 グループ③　ＳＴ３ 撮影者：E ・友だちが作品をつくっている様子を見るように言葉かけをする。 ・スイッチを一緒に押し、シャッター音聞こえることを知らせる。 ・一緒にシャッターを押すことで、自発的な指の動きを引き出す。 造形者：F ・砂を寄せたり、崩したりして砂が変化していく様子を見せ、砂への関心を持たせる。 ・水を入れることで、砂の感触が変わることを知らせる。 ・自ら砂を触り始めたら、その様子を見守る。 ・砂で形をつくった場面に飛行機を置くように促す。	・スイッチを押すと写真が撮れることを知る。(撮影) ・スプーン、コップ、スイッチなどを使って制作することができる。(造形)

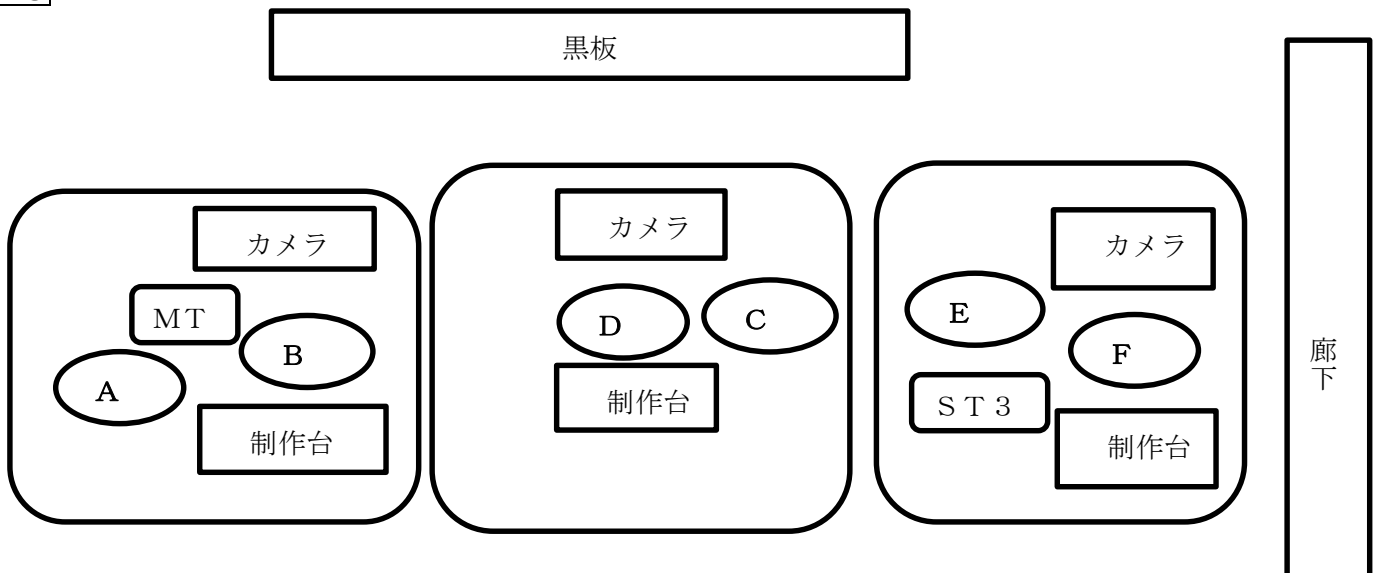
８分 ま と め	・片づけ ・本時の振り返り ●本時に撮影したものを鑑賞する。 ・次回の内容を聞く ・終わりのあいさつ	・ＴＶ画面に集中できるように、道具類を片付け、ＴＶをセッティングする。 ・手が汚れている生徒は、拭いて清潔にしておく。 ・鑑賞ができるように、ＴＶが見えるところへ移動する。 ・今回撮影した作品を見る。 ●グループ③写真鑑賞→ＳＴ３ ・次回の授業に向けて意欲を高められるようにする。 ・授業の終わりを意識できるようにする。	・ビデオに映る友だちの活動を見ることができる。

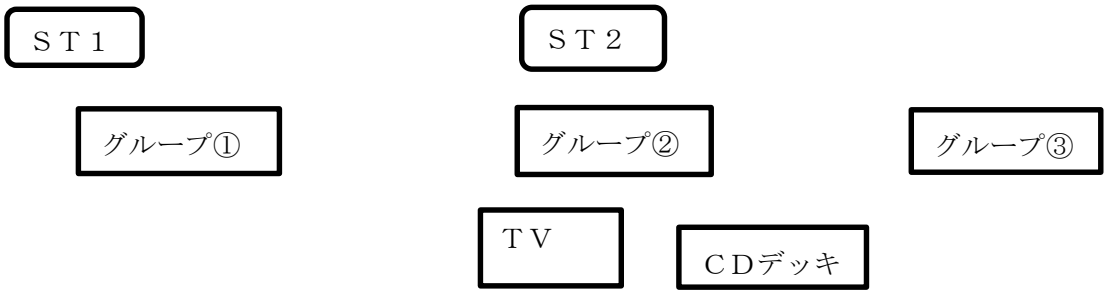
（６）教室配置等　(正面を下にして、生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す)

展開①



展開②





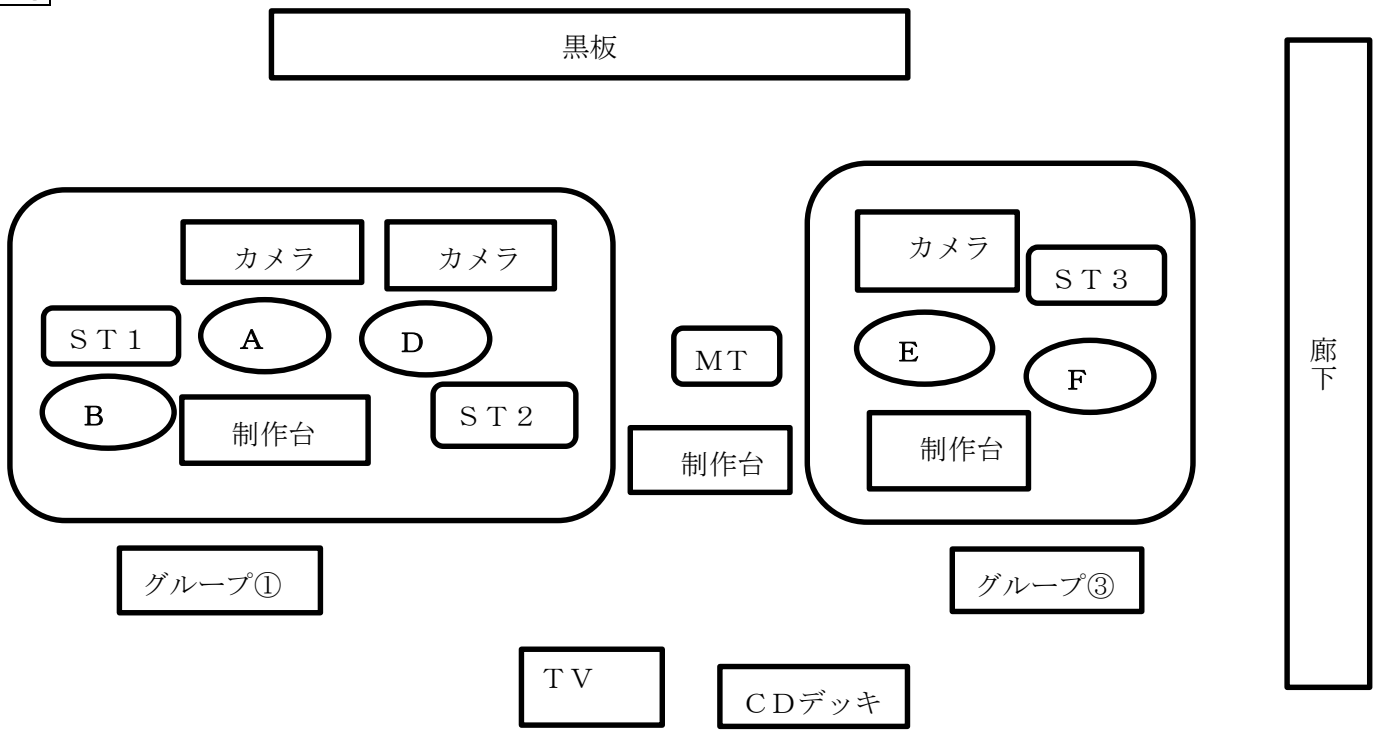
＊備考

◇当該教科・領域の年間計画

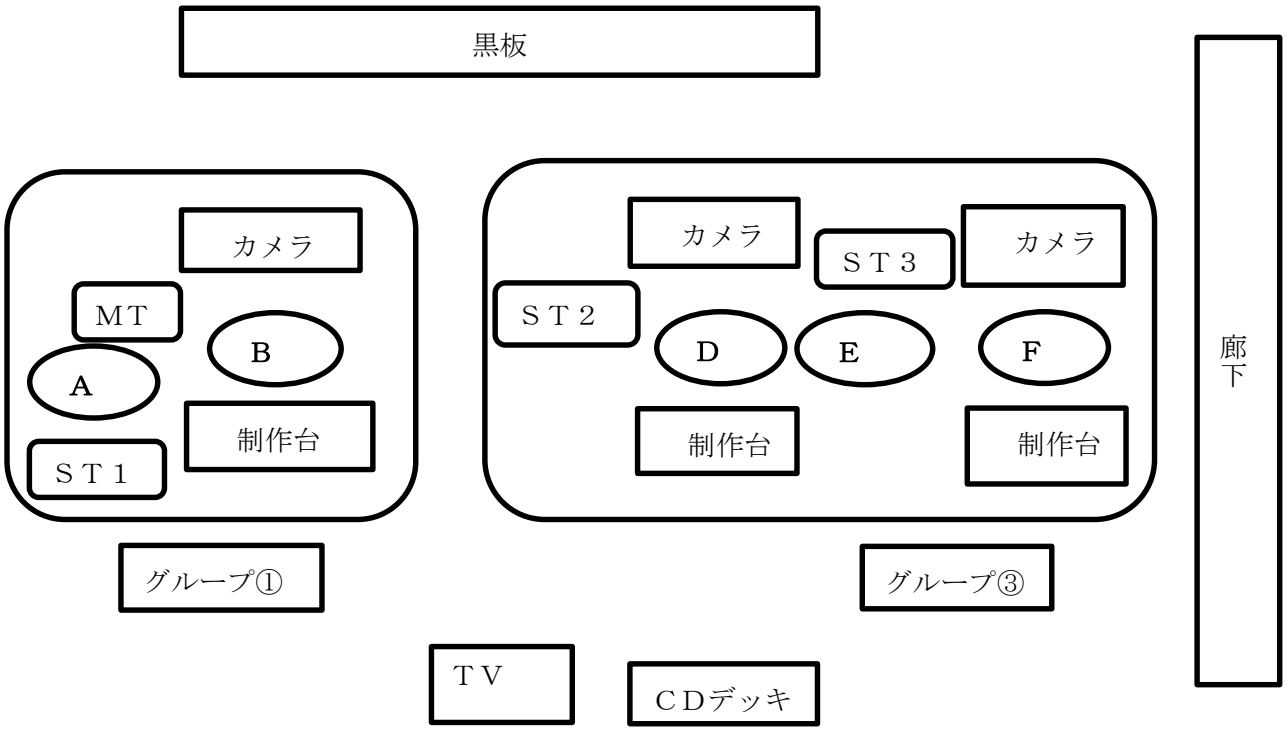
学期	活動内容
1 学期	●ローラー版画（絵画） ≪体育大会ポスター、体育大会スローガン、紅葉祭ポスター≫ ●体育大会壁画づくり（共同制作） ●T シャツづくり（染色）
２学期	●紅葉祭背景画づくり（共同制作） ●サンドアニメーション（映像）
３学期	●オルゴールづくり（陶芸）

（６）教室配置等　(正面を下にして、生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す)

展開①



展開②



平成２８年度　研究授業

中学部Ｂグループ「社会・理科」学習指導案

指導者　稲田貴子

１．日時　　平成２８年　１１月２８日(月)　１３：３０～１４：１０
２．場所　　中学部特別教室１
３．対象生徒　　中学部１年男子１名　　中学部３年女子１名　　計２名
４．単元名　　植物図鑑
５．単元目標
・植物の歌に親しみ、植物の特徴を知る。
・模型に触り、植物の形状を知る。
・友だちとのやり取りを通じて、友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分のできる役割を果たす。
・パソコンのソフトを活用する。

６．生徒観

中学部では、Ａグループと Ｂグループという学習グループに分かれて教科学習をしている。Ｂグループの生徒は、①生徒同士の関わりを重視した取り組み、②ルールを理解した集団の中での学習、③ことば、文字や数を含めた教科学習、④課題や到達度に応じた教科学習をねらいとしている。

今年度の社会・理科Ｂグループの生徒は、１年生の男子生徒１名と３年生の女子生徒１名である。１名は、言葉と物の一致はできても文字の理解が難しく、座学で長時間学び続けることは苦手であるが作業的な学習や大きな身体活動は得意な生徒で、もう１名は、文字の理解や書くこともできるが、空間的認知に課題があり自分の思いを率直に出すことは苦手な生徒である。それぞれの得意・不得意は一様ではないが、声を合わせて歌を歌ったり、互いの動きに関心を示したり、自分の好きなものだけでなく相手が興味関心を持っているものへの関心もあるので、一方がパソコンを操作して画面を出すとそれに注意を向けたり、互いに刺激を受けたり与えたりしながら学習できる。

それぞれの個性を生かし、学部共通テーマである「お互いに友だちへの関心を広げると共に集団の中で自分らしさを出せる」ように、授業を展開していきたい。また、その上で本校共通テーマの「一人ひとりの可能性を伸ばす授業作り」をしていきたい。

７．教材観

・導入に「はながさいたよ　なんのはなかな」という歌を活用している。なぜなら、１学期は歌の無いミュージックのみで授業の始まりを意識づけようとしたが、なかなか見通しが持ちづらかったからである。歌詞がある歌の方が、生徒の反応がよく、積極的に口ずさんだり、前向きに授業に参加しようとする意欲が感じられたためである。また、歌詞の中には野菜の色や形などの特徴がのせてあり、これから植物の学習を行っていくという導入に適切と考えたためである。

・野菜の模型により、三次元的に形状を見たり、触ったりすることで、形状の確認を促す。

・パソコンで「野菜・果物の植物図鑑Ⅱ」というソフトを活用している。文字・写真・音声により、野菜・果物をはじめ作物やエルダーフラワー(食用花卉)、ハーブについて詳細に学習できるシステムになっている。また、植物というと理科的な勉強、自然科学的なアプローチでの学習に限定されがちであるが、このソフトには育てられる地域や地名が紹介されていたり、歴史的にみた位置づけなども説明されており、社会科学的なアプローチでの学習もできる。昨今の教育界においては、文系・理系というジャンルを超えて学際的・多角的に研究することへのニーズがあり、この教材はそれを可能にするものだと考えられる。生徒が興味のある植物について様々なことを自ら調べることができるようになることがねらいである。

８．指導観

始まりの歌を歌うことで「社会・理科」の授業への見通しを促す。また、歌詞にある野菜名とその特徴を歌い、該当する模型を友だちに手渡すことで、文字と模型のマッチングや友だちへの意識を図る。

様々な植物のことが学習できるソフトを使い、興味関心のある植物をパソコン上でクリックして自ら選んで掘り下げて学べるよう指導する。また、自分だけではなく、友だちの興味関心のある植物についても知る機会を設けることで互いに影響しあい、集団で学習することへの意識を促していきたい。

９．単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①植物の歌を積極的に歌う。 ②植物の模型にさわり形状の確認をしようとする。 ③植物について知ろうとする。 ④友だちが選んだ植物に関心を持つ。	①植物の名前から該当する模型を判断できる。 ②数ある植物から興味関心のある植物を選ぶことができる。 ③植物の模型を参考に、絵を描くことができる。	①色鉛筆を使うことができる。 ②マウスをクリックすることで、パソコン画面を切り替えることができる。	①様々な植物について理解する。 ②マウスをクリックすることで画面が展開することを理解する。

１０．単元の指導と評価の計画(　全１１回　　※生徒の一人が休み　　●本時　)

日	回	学習内容	評価基準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
9/12	1	歌の紹介・植物図鑑(野菜)	①③		②	①②
9/26	2	歌・野菜絵を描く	①②	①②③	①	
10/3	※３	歌・植物図鑑(野菜)	①②③	①②	②	①②
10/24	4	歌・野菜絵を描く・植物図鑑(野菜)	①②③	①③	①②	①②
11/7	5	歌・植物図鑑(柑橘類)	①②③④	①②	②	①②
11/15	※６	歌・植物図鑑(柑橘類)	①②③	①②	②	①②
11/21	※７	歌・植物図鑑(果物)	①②③	①②	②	①②
11/28	●８	歌・植物図鑑(果物)	①②③④	①②	②	①②
12/5	9	歌・植物図鑑(ハーブ)	①②③④	①②	②	①②
12/12	１０	歌・植物図鑑(エルダーフラワー)	①②③④	①②	②	①②
12/19	１１	２学期の総習	①②③			①

１１．　本時の展開

(1)本時の目標

・歌を楽しみながら、植物について親しみと関心を持つ。
・植物の模型にふれて、形状を確かめて友だちに手渡す。
・パソコンを操作し、植物についての知識や理解を深める。

(2)本時の評価基準

・植物の名前・特徴などを知り、理解することができる。
・歌詞に該当する植物の模型を選び、マッチングすることができる。
・模型の受け渡しを通じて、これから共に学ぶ友だちに意識を向けることができる。
・自らパソコンを操作して、興味関心のあることを掘り下げて学習することができる。
・友だちの興味のある植物に関心を持つことができる。

(3)本時で扱う教材・教具

歌詞カード・植物の模型・ＴＶ・パソコン・ボランチ・準備机

(4)生徒の実態と本時の個人目標

生徒	実態	本時の目標	評価基準
A	・独歩。 ・言葉は明瞭ではないが自らの意思はうなづきやジェスチャーなどで表現することができる。 ・活動的で、作業的なことが得意。 ・事物と文字とのマッチングは難しいが、事物と言葉とのマッチングはほぼできる。	・植物に関する歌に興味を持ち、積極的に参加する。 ・友だちとの模型の受け渡しを楽しむ。 ・パソコンの操作をしながら、植物の映像を見たり説明音声を聞いて知識や理解を深める。 ・友だちの興味のある植物に関心を持つ。	・歌にあわせて、くちずさんだり、体をリズムに合わせてゆらすなど表出することができる。 ・友だちに意識を向けることができる。 ・植物に興味を持つことができる。 ・友だちの興味のある植物に関心を持つことができる。
B	・座位保持椅子で学習。 ・言葉による意思疎通	・歌詞にある植物の名前と特徴を理解する。 ・友だちとの模型の受け	・歌詞にある植物の名前と特徴を理解できる。

	はできるが、率直に自分の意思を出すことは苦手である。 ・文字を理解し、平易な漢字も知っており、文章をほぼ理解することができる。 ・パソコンの操作を通じての学習に関心をもっている。	渡しを通じて、植物の形状を確認したり、友だちに意識を向ける。 ・パソコンの操作をしながら、植物の映像を見たり、説明を読んだり聞いたりすることで、知識や理解を深める。 ・友だちの興味のある植物に関心を持つ。	・３次元的に植物の形状を理解でき、友だちに意識を向けることができる。 ・パソコンの操作ができる。 ・植物についての知識や理解を深めることができる。 ・友だちの興味のある植物に関心を持つことができる。

(５)本時の学習課程

時間	学習内容	指導上の留意点	評価基準
２分 導入	・はじまりのあいさつ	・授業の始まりを意識できるようにする。	・周囲に意識を向けて授業に取り組む姿勢がとれている。
１０分 展開 ①	・「はながさいたよ　なんのはな」の歌を歌う。 ・植物の模型の受け渡し	・歌詞カードに注意を向ける。 ・歌にでてくる植物の名前や特徴を意識するようにする。 ・友だちを意識させ、選んだ植物を手渡せるようにする。	・植物に関する歌に興味を持ち、参加することができる。 ・これから一緒に学習する友だちに意識をむけることができる。
３分	次の場面へのセッテイング		
１５分 展開 ②	・植物図鑑のソフトを使って、興味のある植物についての調べ学習。	・興味のある植物の写真や名前をクリックして、調べることができるよう言葉かけする。 ・友だちが興味を持って学習している内容に、注意を向けるよう促す。	・パソコンのマウスを使って画面を展開させることができる。 ・興味のある植物を自ら掘り下げて学習することができる。 ・友だちが興味を持っている植物に関心を持つことができる。

１０分 まとめ	・本時の振り返り ・次回の授業の予告 ・終わりの挨拶	・本時の学習したことを確認する。 ・次回の授業に向けて見通しを持てるようにする。 ・学習の終わりを意識できるようにする。	・本時で学習したことを振り返ることができる。

(６)教室配置等

黒板

パソコン画面

廊下側扉

準備机

生徒 B　生徒 A

１２．　年間計画

	指導計画	指導の記録	備考
１学期	①様々なお茶について ②紅茶の歴史	①緑茶・烏龍茶・紅茶についてそれぞれの特徴を学ぶ。 ②紅茶の由来を学び、地理的な伝播ルートを確認する。産業革命とのかかわりについて知る。	世界地図の活用
２学期	上記参照		
３学期	①大阪の農産物について	①大阪の伝統野菜について学ぶ。 ②大消費地向け農産物(軟弱野菜・果物など)の生産傾向を	大阪の地図 大阪府統計 CD－ROM の活用

		考察する。	

平成28年度　中学部研究授業･研究協議会のまとめ【報告】

研 究 部

授業者より

友だちと自分の世界　⇒　友だちの個性に気づく

⇒　少しずつ友だちの関心に興味を持つ

「集団の中での自分らしさ」を、どう広げていくか？
↓
一緒に活動する場の設定

＝

＜中学部　学部共通テーマ＞

友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業

＜小学部　学部共通テーマ＞

子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力をはぐくむ授業

＜全校統一テーマ＞

一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり

＜高等部　学部共通テーマ＞

「いつでも、どこでも、誰とでも(誰にでも)」を大切にした授業

グループワーク

自己発信・興味のあるものを相手に伝える能力につながる工夫。

◎ことば（繰り返しのフレーズ、ことばの精選、丁寧にはたらきかける→見通し）

◎音楽・効果音（繰り返し、授業に意欲的になるための曲選び）

◎教材（自分の操作で変化が生じる等）

子どもたちの「自分らしさ」を引き出すために

子どもの興味・関心から広がる心…ワクワク感「どれにしようかな？」「なに選んだんやろ！！」

やりとりは、中学生に対して適切・ゆっくり・丁寧なことばにして子どもの気持ちを受け止める

シェア

1年1組　生徒の発信を待つ。思いを汲み取り代弁する。

1年2組　係りの仕事で好きなこと得意なことをする。

2年1組　生徒が発信しやすいような場の雰囲気を作り、発信を待つ。

2年2組　問いかけに対して期待通りの答えを出させるのが「自分らしさ」なのか？

3年生　自分の意見、自発的な活動を待つ。先生が生徒の答えを「こうあるべき」と決めつけない。

「ことば・かず」（漢字を感じよう！）

学習指導案

大阪府立交野支援学校
指導者　　中田　遼太郎

１．日時　　平成３０年１月１８日（木）　第３時限（１１：００～１１：４０）
　　１月２５日（木）　第３時限（１１：００～１１：４０）
２．場所　　中学部　第３学年　２組教室
３．学部・学年・組　中学部　第３学年αグループ　　６名
４．単元名　　「漢字を感じよう」
５．単元目標　　・漢字の形や意味を感じ、自分なりの方法で表現することができる。
　　・身の回りにある漢字を知り、周囲に興味を持つ。

６．生徒観

本クラスの生徒は興味を持った物事に対し、見えなくなるまで目で追いかけたり笑顔で体を揺らしたり、手を伸ばしたりいつまでも手で持ち続けたりするなど様々な方法で思いを表出することができる。しかし、興味を持てない物事に関しては見向きもしなかったり、体を背けたり、場合によっては寝てしまうこともある。体調の不安定な生徒が多いため、「興味がない」ということだけが原因ではないと思うが、授業に集中するために、話を聞くだけの時間を減らし体験を多くしたり、同じ姿勢で授業を受け続けないように体位変換したり、多様な工夫が必要である。また、網膜剥離や難聴により、目や耳からの情報を得にくい生徒がいるため、視覚や聴覚だけに頼らず、１回の授業の中で様々な感覚を刺激するような展開を考える必要がある。

７．教材観

物事に興味を持つためには、まずその物事を知っておかなければならない。知った上で自分が興味を持つか持たないか、あるいは好きか嫌いかを判断して行動に移している。本校中学部では、１日の時間割の中に３つ学年活動が含まれており、教科的な授業数が少ない。そのため、新しく物事に触れることができる時間が限られている。知らないものが多く使われている授業に興味を持つことは非常に難しく、見向きもしなかったり体を背けたりする反応は当然なのかもしれないと考えられる。

本単元で使う教材は、様々な授業で使われている教科的な知識、そして日常的に触れたり目にしたりする機会が多いであろう「漢字」を選択した。その形や意味について学んでいくことで、漢字を身近に感じてもらい、周囲に興味を持つきっかけになってほしいと考えている。

第一次では、「手」「人」「大」といった、身体を形どった漢字の成り立ちを学習し、一番身近である自分の体の部位と漢字をつなげていく。第二次では、毎朝の学年活動で目にしている「曜日の漢字」について学習し、日々の学習が日常生活で活かされていることを知って授業に対するやる気を高める。第

三次では学校内を周って実際に使われている漢字を探すことで、興味を持って外の世界を見ることへとつなげていきたい。

８．指導観

「漢字」というものが、身近にあるもので、今までたくさん目にしているものだと印象付けるために、導入では、毎日乗ってきている通学バスに表示されている漢字、学校や中学部の入り口に表示されている漢字など、学校内で見かける漢字に触れていく。自分の見たことがあるものが授業中のテレビ画面に映ることによって、授業への興味を引き、このあとの展開にも入り込みやすくなるとも期待している。

第一次では、さらに「漢字」を身近に感じることができるように、漢字の成り立ちの中でも、体の形を元にした象形文字「手」「人」の成り立ちを学んでいく。自分の体と「漢字」を見比べることによって、その形が似ていることに気づいたり、知っているものと知らないものとを結び付けようとしている雰囲気を感じ取ったりできるように促していきたい。その後、「人」が腕を広げた形である「大」を学び、漢字が形を表しているだけのものではなく、意味も込められていることを知ることができる展開にした。

第二次では毎朝の学年タイムで触れている「曜日の漢字」について学んでいく。曜日の漢字は人の体を元にした漢字ではなく、様々な「もの」の形を元にしているため、その「もの」を見たり、聞いたり、触れたり、いろいろ方法で感じていきたい。授業が終わった際に「もの」の学習をしたというところで終わらないように、「漢字」へと立ち返り、つなげることを意識した授業を組み立てていく。

第三次では学校内で使われている漢字を見つけ、その漢字について学んでいく。第一次の導入の際、テレビ画面で見ていたことを実際に確認し、授業で学んだことが実生活にもつながることを実感してしきたい。そして、授業で学んだ漢字以外にもたくさん漢字があることに気づいたり、学校内を見回して漢字を探したり、見つけた漢字が実生活に結びついたり、このような経験を重ねていく中で、漢字という新たな視点を身に付け、視野が広がっていくことにつながってほしい。中学部の共通テーマ「友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業」を見据えて、自分以外の様々なものに対する知識を養い、興味を持つようになってほしい。

９．単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①先生やテレビに注意を向けて説明を聞くことができる。 ②提示物を追視することができる。 ③先生と一緒に周囲に気を配り、見回すことができる。	①言葉、声、表情、動作等、自分なりの方法で感じたことや思いを表出することができる。	①漢字の形や意味を身体で表現することができる。 ②先生の言葉かけに合わせて体を動かすことができる。 ③iPad で友だちの様子を撮影する。	①漢字に意味があることを知る。 ②漢字の成り立ちを知る。

１０．単元の指導と評価の計画

<table>
<tr><th rowspan="2">単元の指導
と
評価の計画
（全９時間）</th><th rowspan="2">次</th><th rowspan="2">時</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">評価規準</th></tr>
<tr><th>関心・意欲・態度</th><th>思考・判断・表現</th><th>技能</th><th>知識・理解</th></tr>
<tr><td rowspan="7"></td><td rowspan="2">第一次</td><td>１２／８</td><td rowspan="2">・象形文字の成り立ち
「手」「人」「大」</td><td rowspan="2">①②</td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">①</td></tr>
<tr><td>１２／１４</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第二次</td><td>１／１２</td><td>・曜日の漢字</td><td rowspan="4">①②</td><td rowspan="4">①</td><td rowspan="4">②</td><td rowspan="4">①</td></tr>
<tr><td>１／１５
１／１８
【本時】
１／２５
【本時】</td><td>・曜日の漢字「水」</td></tr>
<tr><td>１／２９</td><td>・曜日の漢字「木」</td></tr>
<tr><td>２／２</td><td>・曜日の漢字「金」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第三次</td><td>２／５</td><td rowspan="2">・身近にある漢字を探す</td><td rowspan="2">③</td><td rowspan="2">－</td><td rowspan="2">③</td><td rowspan="2">②</td></tr>
<tr><td>２／９</td></tr>
</table>

１１．本時の展開

（１）　本時の目標

・音楽やチャイムの音を聞いて、授業の開始や学習内容を知ることができる。
・テレビや掲示物に注意を向け、追視することができる。
・「水」に触れて感じたことを自分なりの方法で表現することができる。
・言葉かけに応じて身体を動かすことができる。

（２）　本時の評価規準

・テレビ画面に視線を向け、画面内の漢字を見つけて追視することができる。
・水の音を聞いたり実際に触れたりして、感じたことを言葉や動作などで伝える。
・言葉かけに応じて紐を引いたり、握ったりといった動作を行なうことができる。

（３）　生徒の実態と本時の目標

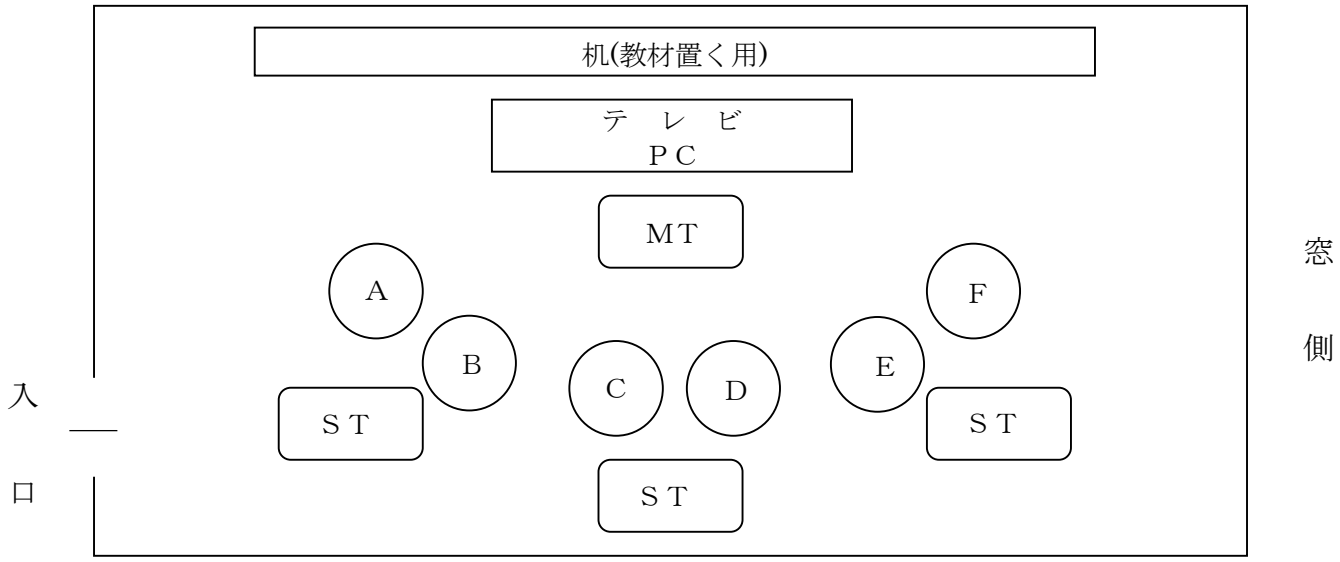
	生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	・テレビ画面が好きで、説明を楽しんで見たり聞いたりすることができる。 ・興味のあるものをじっと見つめ、手を伸ばし積極的に触れにいこうとする姿勢が見られる。	・風景の中から漢字を見つける学習で、気になる箇所を見つめて先生に伝えることができる。 ・水を触ってどのように感じたかを表情や手の動きで表現する。 ・先生の言葉かけによって、タイミング良く紐を引くことができる。	・テレビ画面に風景が映ったとき、中から漢字を見つけ出し、見ることができる。 ・水を触ったとき、このまま触っていたいか、やめたいかを表情や目線で伝えることができる。 ・目の前に紐が垂らされたとき、先生と一緒に引くことができる。

B	・テレビ画面が好きで、説明を楽しんで見たり聞いたりすることができる。興味のあるものはしっかりと追視して周りに伝えることができる。 ・先生の指を握ったり握らなかったりすることで思っていることを伝えることができる。 ・足を前に出したり、上下に動かしたりすることで感情を表現する。	・風景の中から漢字を見つける学習で、気になる箇所を見つめて追視し、先生に伝えることができる。 ・水を触ってどのように感じたか、水という文字が浮かび上がってきたときどのように感じたかを、表情や足の動きで先生に伝えることができる。	・テレビ画面に風景が映ったとき、中から漢字を見つけ出し、見つめることができる。 ・水を触ったとき、どのように感じたかを、表情や目線や足の動きで伝えることができる。
C	・授業開始の合図や、カメラのシャッター音が好きで、笑顔を見せたり、何度もボタンを押したりする。 ・苦手なものは徹底的に拒み、嫌そうな表情で声を上げ、手で押しのけることができる。 ・気に入ったものは両手でしっかりと持って保持し、笑顔を見せて触れ続ける。	・チャイムや始まりの合図を聞いて、授業の開始を理解し、表情や身体の動きで表現する。 ・水を触ってどのように感じたかを表情や手の動きで表現する。	・チャイムや始まりの合図など、周囲の音を聞いてその後の活動に見通しを持ち、笑顔になったり、手を叩いたりすることができる。 ・水に触ったとき、このまま触っていたいか、やめたいかを表情や目線や足の動きで伝えることができる。
D	・興味があるものへ歩いて近づいていき、触れたり叩いたりしてどのようなものかを確かめることができる。 ・気に入ったものは両手しっかりと持って保持することができる。	・水に触ってどのように感じたかを、表情や身体全体の動きで表現する。 ・紐を自ら握り、引くことができる。	・水に触ったときどのように感じたかを表情や目線や足の動きで伝えることができる。 ・目の前にあるヒモを引くことを理解し、先生と一緒に引くことができる。
E	・先生の説明や話を、興味を持って見聞きすることができる。 ・まばたきで思っていることを伝えることができる。 ・先生の問いかけに対してわかったときや、質問があるときは手を上げて伝えることができる。	・風景の中から漢字を見つける学習で、気になる箇所を見つめ、手を上げて先生に伝えることができる。 ・水という文字が浮かび上がってきたときにどう感じたかを、表情や目の動きで先生に伝えることができる。	・テレビ画面に風景が映ったとき、画面を注視して漢字を見つけ出し、手を上げることができる。 ・実際の水と漢字の「水」が結びついたことを先生に伝えることができる。
F	・先生の説明や話している様子に興味を持って、見たり聞いたりすることができる。 ・楽しいときは手を上げたり、声を出したり、身体を揺らしたりして感情を表現することができる。	・水を触ってどのように感じたか、表情や手の動きで先生に伝えることができる。 ・先生の言葉かけによって、タイミング良く紐を引くことができる。	・水に触ったとき、このまま触っていたいか、やめたいかを表情や手の動きで伝えることができる。 ・目の前にある紐を引くことを理解し、先生と一緒に引くことができる。

（４）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
導入（３分）	○チャイムを聞く。 ○始まりのあいさつをする。	○授業の始まりを知り、前を見るように促す。 ○授業外とのメリハリをつけて行なう。授業が始まるときの程よい緊張感を持つ。	
展開（３０分）	○みんなでタイトルコールを行なう。 「漢字を感じよう！」 ○慣れ親しんだ風景の中から漢字を見つける。 ○今日学ぶ漢字発表「水」 ○トレイの中に「水」を書く。 ・水の音を聞く。 ・トレイに水を入れて水に触れる。 ○水が流れる映像を見て「水」の成り立ちを知る。 ○２グループに分かれて、教材に水をかけて「水」を浮かび上がらせる。（霧吹きを使用する。紐を引いて水を流す）	○一体感を持って授業に取り組むことを意識する。 ○テレビに注目するような言葉かけをする。生徒の目や手の動きを観察し、伝えたい箇所を読み取る。 ○生徒の手を一緒に持って活動を行なう。水を感じ取ったところを観察する。 ○オノマトペ『シュッ』『バシャー』と動作を一致させながら指導する。 ○他グループの発表に視線を向けるように促す。	②提示物を追視することができる。【関心・意欲・態度】 ①言葉、声、表情、動作等、自分なりの方法で感じたことや思いを表出することができる。【思考・判断・表現】 ②漢字の成り立ちを知る。【知識理解】 ②先生の言葉かけに合わせて体を動かすことができる。【技能】
まとめ（７分）	○描いた「水」と活動の発表。 ○「水」の文字が使われている場所を確認。	○生徒の目や手の動きを観察し、注目している箇所を読み取る。	

（５）教室配置等（中学部３年２組）



高等部研究授業および協議会について

１．はじめに

本校高等部では、生徒たちが卒業後のゆたかな生活を実現させるため、キャリア教育の視点から、学部で掲げた共通テーマ「いつでも、どこでも、誰とでも（誰にでも）」を意識した授業づくりを行なってきた。

本誌では、平成２７年から３年間の高等部研究授業、研究協議会を通して、テーマ達成のために導き出されてきたキーワードや授業づくりの視点、今後に向けての課題等をまとめ、各研究授業学習指導案とともに報告する。

２．平成２９年度研究協議会（今年度は、飯野順子先生を講師に招き、授業力向上に取り組んだ。）

①授業者からの発信

・主体的に取り組む、自己選択、自己決定。
・「もらうこと」、「あげること」、気持ちの違いを感じる。
・あたたかな気持ちを感じる、その気持ちを他者（母）に向ける。

②協議会①の視点

グループワーク課題　「印象に残った生徒の反応は何ですか？」
「どんな教師の手立てやアプローチからそれを感じましたか？」

③協議会①でのまとめ

伝えるって楽しいな　♪
伝わるって嬉しいな　♪♪
相手のことがわかるって気持ちいいな　♪♪♪

平成 27 年度　研究授業

「ライフデザインコース」（からだ・こころ㊌）学習指導案

府立交野支援学校
ＭＴ　大岸　貴裕
ＳＴ　木南　泰
ＳＴ　川上　裕也

１．日時　　平成２８年1月２０日（水）　第３時限（　１０：４５～　１１:４５　）
２．場所　　自立活動室Ｉ
３．学部・学年・組　高等部　第２・３学年　６名（長期欠席者２名　今年度の登校実績が無い為、以後省略）
４．単元名　　「スヌーズレンを楽しもう」
５．単元目標　　・好きなツールを選択して自由に楽しむ。
・指導者の働きかけに対してアクションを起こすことができる。
・指導者に自ら感情や要求を伝えることができる。
・スヌーズレンを通して人に興味を持つことができる。

６．はじめに

本校では今年度より各学部に共通テーマを設定している。高等部は『いつでも・どこでも・誰と（誰に）でも』をテーマに、その内容に添って授業を立案し普段の生活指導も行っている。

高等部２・３年生が履修している『コース』には、『クリエイティブコース』と『ライフデザインコース』の２コースが設定されている。履修コースの決定は、１年次の１年間をかけて本人・保護者・学校で協議・検討を重ねて決定している。『ライフデザインコース』は、『ライフ自立』『選択教科』『余暇活動』で構成されている。『ライフ自立』は、同じような課題の生徒を教員でグルーピングして行っている。それに対し、『選択教科』『余暇活動』は設定されている科目から本人・保護者が自由に選択して履修することができる。

７．生徒観（グループ観）

『選択教科』は本人・保護者が自由に科目を選ぶことができるため、一つの授業での生徒の実態が多様化することがある。本授業の『からだ・こころ』を履修している生徒の実態も多様である。

生徒の実態も課題も多様な中、同じ授業を受ける４名に共通した課題として、特定の人でないとコミュニケーションがとりにくく、心理的な安定も保つことが難しいことがあがった。卒業後の新しい環境でも人との関係づくりを円滑に行えるようになる為に、スヌーズレンを通して人と関わることを目標に授業を組み立てた。

８．教材観

課題解決の為スヌーズレンを選んだ理由は以下の３点である。

・スヌーズレンは知的な活動を必要としない原始的な感覚に働きかける活動であるため、重度の生徒にとっても受け取りやすいものである。障がいの程度に関わらず、感情の表出や共感を引き出せる可能性が高いと考えられること。

・スヌーズレンルームが創り出す環境の中で生徒たちに寄り添い、働きかけることで、日常の騒然とした環境の中よりも有効な人間関係を築くことができると考えられること。

・1 学期に行ったスヌーズレンの授業で生徒の好き・苦手なツールを指導者がある程度把握できていること。

９．指導観

授業全体について

・静的に楽しむ生徒と動的に楽しむ生徒が交錯、干渉しないようツールを配置する。

・スタート時の担当指導者と活動場所は生徒の体調確認を行ったうえで決定する。

・活動中は全ての指導者と関わる機会を一度は設けるようにする。

・緊急対応時の体制を事前に確認しておく。

生徒への関わり方

・主体的に活動する生徒の妨げにならない程度にコミュニケーションをとる。

・指導者がローテーションし、特定の生徒だけと関わらないようにする。

・移動やローテーションなどを行う際は必ず言葉かけを行うようにする。

・他の生徒と交錯しそうな場面でも否定的な言葉かけは遣わず移動・回避を促すようにする。

・関わりを拒絶する生徒には距離をある程度保ち、時間をかけて寄り添うようにする。

・緊急時以外は指導者間の会話は小声やジェスチャーで行うようにする。

・目標達成を意識してスヌーズレンの概念を無視するような過度なアプローチを行わない。

・『寄り添う指導者』・・・近くで様子を見守る必要のある生徒に付く指導者

・『特定の指導者』・・・関係ができている指導者

授業成果の般化について

・本授業で心理的に安定することのできたツール、もしくは簡易化したものを身の回りに置いておき、心理的に不安定な状態の時に活用して、安定を図れるようにする。

・好きなツールや遊びを介してコミュニケーションをとる機会を設けて関係作りを行うよう心がける。

10. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・好きなツールに自ら関わろうとすることができる。 ・指導者の働きかけに意識を向けることができる。 ・指導者に気持ちを伝えようとすることができる。	・スヌーズレンで受けた感覚を身体や表情を使って表現することができる。 ・体調に合わせてツールを選択し、活動することができる。 ・指導者の働きかけに対して自分の気持ちを伝えることができる。 ・指導者に働きかけることができる。	・各ツールにおいて自分なりの楽しみ方ができる。	・スヌーズレンの始まりと終わりを理解し、受け入れることができる。 ・他者に自分の気持ちを感じてもらえていることを知る。

11. 単元の指導と評価の計画（全〇時間）　　（必要に応じて、行を追加してください）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1/13		〇	〇	〇	〇
	1/20本時		〇	〇	〇	〇
第二次	1/27		〇	〇	〇	〇
	2/3		〇	〇	〇	〇
	2/10		〇	〇	〇	〇
第三次	2/17		〇	〇	〇	〇
	2/24 以降は卒業式練習等のため特別体制での授業					

12. 本時の展開

（1） 本時の目標

・指導者の働きかけに意識を向けることができる。

・どの指導者にも表情や動きで気持ちを伝え、ツールを選択することができる。（自力移動が困難な生徒）

・自らツールを選択して活動することができる。（自力移動が可能な生徒）

・各ツールにおいて自分なりの楽しみ方をすることができる。

・スヌーズレンの終わりを理解することができる。

（2） 本時の評価規準

・『寄り添う指導者』に視線や表情、または行動にて意識を向けることができる。【関心・意欲・態度】
・自らもしくは指導者の働きかけに表情や行動で気持ちを伝えることができる。【思考・判断・表現】
・指導者の促しではなく、自ら活動を選択することができる。【思考・判断・表現】
・触ったり、くるまったりなどして自由な楽しみ方を見つけることができる。【技能】
・ツリーチャイムの合図と点灯で活動終了を受け入れることができる。【知識・理解】

（3） 生徒の実態と本時の目標

	生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	・独歩 ・関係が深い人には抱きついたり自ら近づいたりする。それ以外の人にはあまり興味を示さず、近づくと押し退けるような行動をとって拒否反応を示す。 ・自分の手や他者の手を叩いたり触れたりすることが好き。 ・季節の変わり目やテンションが高い時に発作が起こりやすい。	・活動に集中しながらも、近くにいる指導者に意識を向けることができる。 ・指導者に近づいたり触れたりすることができる。	・指導者の働きかけに意識を向けることができる。 ・距離を保った指導者に自ら近づいたり、触れたりすることができる。
B	・自力座位が困難で主に臥位姿勢で活動する。 ・感情の起伏が激しく、見通しがつかなかったり、慣れた人以外と関わったりした際に強く緊張が入って怒ることがある。 ・光刺激にはあまり反応を示さない。	・指導者の言葉かけを聞いて見通しを持ち、落ち着いて活動することができる。 ・活動場所を移動した際に気持ちを指導者に伝えることができる。 ・『寄り添う指導者』の交代を受け入れ、落ち着いて活動することができる。	・始まり・終わりの合図を聞いて活動を切り替えることができる。 ・好き・苦手なツールを指導者に伝えることができる。 ・『特定の指導者』以外とも落ち着いて活動を続けることができる。
C	・四つ這い、介助歩行での移動が可能な生徒。 ・関係が築けていない人とは共に活動（ＡＤＬを含む）をすることが難しい。 ・関係を築くことができると、要求など気持ちを自ら伝えることができる。 ・好きな活動中でも関係の築けていない人が近づくと、活動をやめて困った表情をする。	・『特定の指導者』以外とも楽しみを共有することができる。 ・『特定の指導者』以外にも触れたり要求をしたりすることができる。 ・終わりの合図を受け入れ活動をやめることができる。	・『特定の指導者』以外の働きかけを受け入れ、一緒に楽しむことができる。 ・『特定の指導者』以外に触れたり、遊びを要求したりすることができる。 ・終わりの合図や指導者の言葉かけを聞いて活動をやめ、車椅子にもどることができる。

D	・自力座位が困難で気管切開をしている生徒。 ・聴覚過敏と身体の変形も強く、緊張が入ると辛い表情を見せる。 ・他者からの言葉がけに対する反応はわかりにくいことがある。	・『寄り添う指導者』の働きかけに反応を示すことができる。 ・各活動で指導者に気持ちが伝わるような表情・行動をすることができる。 ・リラックス時に指導者が交代してもその状態を継続させることができる。	・『寄り添う指導者』の働きかけに、視線や表情で反応を示すことができる。 ・各活動での気持ちを笑顔や緊張を強めるなどして伝えることができる。 ・指導者の交代を声かけなどで理解し、受け入れることができる。

スヌーズレンツールに対する反応

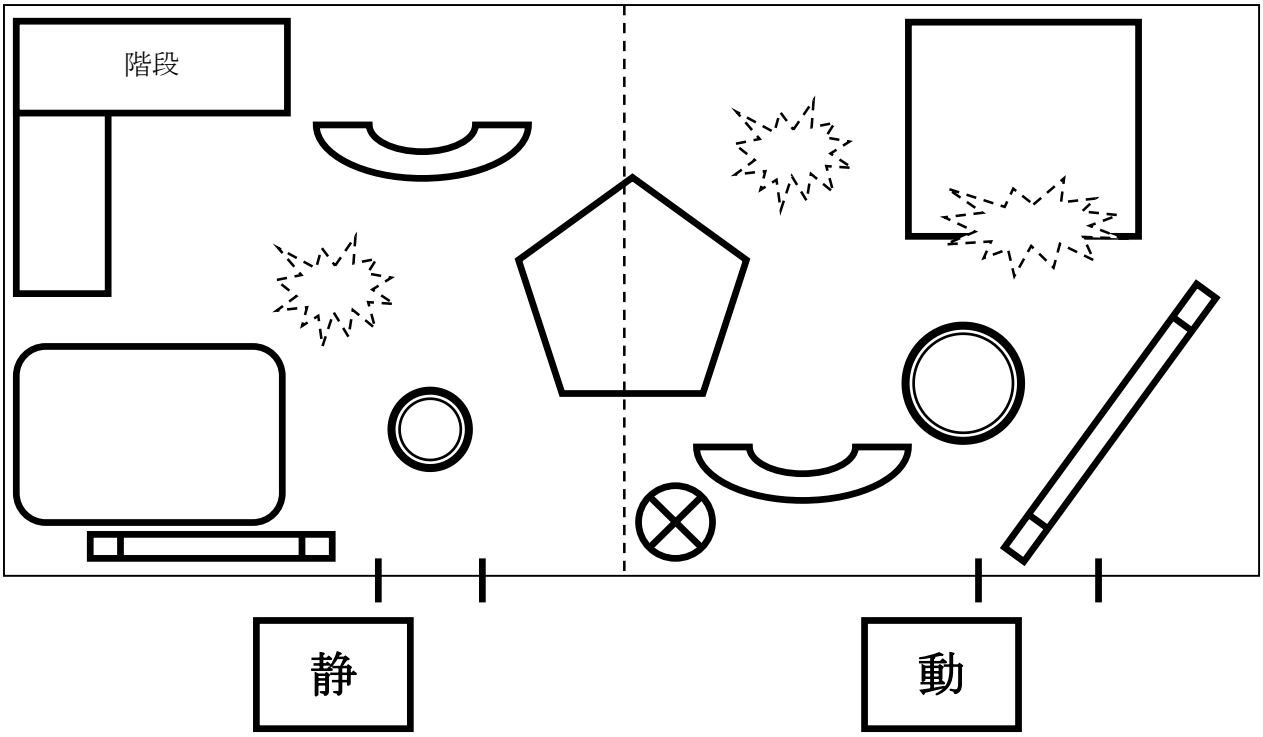
	ウォーターベッド	サイドグロウ	バブルチューブ	ボールプール	ハンモック	バイブレーション
A			◎	○		
B	◎			×	○	
C	○			◎	○	◎
D	◎	○			○	

◎・・・非常に好む　○・・・好む　×・・・苦手

（4）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
5分 導入	・始まりの挨拶をする。 ・各生徒の体調チェックを行う。	・挨拶する指導者に注目するよう促す。 ・体調に合わせ、スタート時の担当指導者と活動場所を決定する。	
50分 展開	・指導者の合図でスヌーズレンを開始する。 ・指導者の合図でスヌーズレンを終了する。	・ツリーチャイムと言葉かけの後消灯し、見通しが持てるようスタートする。 ・指導観に加え危機管理意識を持って指導を行う。 ・ツリーチャイムと言葉かけの後消灯し、終了の見通しが持てるようにする。	・生徒の実態と目標の評価基準と同様。
5分 まとめ	・各自の様子を振り返る。 ・終わりの挨拶をする。	・指導者との関わり方の中で前回と変化が見られた部分を伝え、行動や気持ちの変化を感じられるようにする。 ・挨拶する指導者に注目するよう促す。	

（５）教室配置等



・・・ウォーターベッド

・・・バブルチューブ

・・・ボールプール

・・・サイドグロウ・カーテン

・・・ハンモック

・・・ミラーボール

・・・鏡

その他のツール
・バイブレーションクッション
・マッサージ機
・アロマオイル
・エアーマット
・エアレックスマット
・ＢＧＭ　モーツァルト
・ツリーチャイム

平成２７年度　高等部研究授業・研究協議会のまとめ　【報告】

グループワーク①

・スヌーズレンについて、個人のイメージを気づきシートの設問１に書き込み、各グループで意見を交換し、グループでまとめる。
　グループの構成は基本各クラスで。

気づきシート記入
ＶＴＲ鑑賞

・ＶＴＲは、今日の分と、今日休んでいた生徒の先週分からピックアップして 20 分ほど見る。
ＶＴＲを早送りしながら見たので、所々で、授業者より説明あり。
・気づきシートの設問２を記入。

授業者より

・授業者より
１学期　スヌーズレンを使いながら、生徒個々がやりたいツールの・好きなツールを探し、興味関心の幅を広げる。
２学期　自立活動の部屋で、生徒自身がしたい活動を選び楽しむ。好きなもので一緒に遊ぶことで指導者との距離を近づける。
３学期　好きなツールを媒体にすることで、人との関係を作りにくい生徒でも、人との距離を近づけやすいのではないか。この関係性を利用することで、場所が変わっても指導者との関わりを保てるようにならないか？・
ツールを媒体にしなくても指導者との関わりができるようにならないか？
・決まった場所で、指導者が変わる。すぐに次の指導者が行かないなどの工夫と、指導者のスタンスで生徒を動かすのではなく、生徒のスタンスに堂合わせていけるかが大切。個々の生徒の実態把握・好きなものなどの情報を持った上で、彼らのスタンス・タイミングを良く見てあわせて関わる。このタイミングを外すとぎくしゃくする事もあるので注意が必要。

シェアタイム
グループワーク②

グループワーク②
・「多様な生徒との良好な関係作りのために」ということを、学部テーマの視点を持って考える。グループワークから出てきて乾燥をシェアする。

・共感・言葉がけ・実態把握・見通しを持つ・好きなことや好きなもので一緒に遊ぶことで生徒個人の情報収集をする。生徒の好きなものは変わっていくことがあるので、「これ」と、決めつけない。ありのままを受けとめ、生徒からの表出を待つ。自分に指導者からの働きかけが向いていることを生徒に気づかせる。生徒の「何かしようかな」を引き出すように待つ。

個人ワーク
まとめ

・アセスメントを取って、生徒の理解をし、個々のいいところ・悪いところを理解したうえで、個々が一番生き生きすることを踏まえて、次の活動に生かしていければいい。

自分の好きなツールでの活動なら、一緒にする相手が変わっても楽しめる。

↓

多様な生徒と良好なコミュニケーション関係を作るため、または、自主的な活動を引き出すために、行った方が良いと思われること。

↓

＜高等部共通テーマ＞

いつでも、どこでも、誰とでも（誰にでも）

↓

＜全校統一テーマ＞

一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり

府立交野支援学校
平成 28 年度高等部研究授業

「ライフデザインコース」
コミュニケーション学習指導案

指導者　岩上 和樹

１．日時　　平成29年1月26日（木）　第3，4時限（10：45～11:45）
２．場所　　第3学年1，2組　教室
３．学部・学年・組　高等部　第2，3学年　コミュニケーション選択生徒　10名
４．単元名　　「ものまね」
５．単元目標　　・友だちや指導者の動作に、興味・関心を持つことができる。
・友だちや指導者の動作などを理解できる。
・友だちや指導者の動作などを真似ることができる。または指導者と一緒に同じ動作などができる。

６．高等部の共通テーマ　「いつでも、どこでも、誰とでも（誰にでも）」を大切にした授業

７．児童生徒観

本授業を受けている生徒は、ライフデザインコースの選択教科「コミュニケーション」を選択した生徒１０名である。生徒のコミュニケーション面での実態としては、声で話すことは難しいが体の動きで表現できる生徒、手足などを動かすことができるが感情等の表出が少ない生徒、表情で表現できるが体を動かすことや発声などで伝えることが困難な生徒など、様々であり課題を持っている。

８．教材観

今回のテーマは「ものまね」である。「ものまね」とは、人・動物その他の、声・音・態度などを真似ることである。この真似る行動は、普段の学習活動の中でも取り入れられ、学習する上でも、大切な学習方法の一つとして行われている。その学習の最終的な位置付けは、何かに興味を持ち同じことを成し遂げたい時、または何かを克服しなればいけない時に、それを自分のものとして取り入れ解決していく方法としてあるのではないかと考えている。しかし、本授業の生徒の実態を見据えた時にそこまでの目標水準にするのは高いと考えている。そのため以下の点で、生徒と授業と教材との関係性を位置付けて行う。

本授業の生徒の実態としてバーバルコミュニケーションが難しいため、コミュニケーションとしては、ノンバーバルコミュニケーションが主な方法となっている。よって、今後、様々な場所で、コミュニケーションツールの１つとして、その場で真似ること（同じこと）ができることで、一緒に何かの活動ができ、人との関わりを増やしていければ良いと考えて、この教材の設定を行った。

９．指導観

本授業で重要なことは、生徒たちにどうやってものまねをさせるのかということである。この点において工夫を凝らしみた。まず１つ目は、ものまねのモデルとなる生徒たちの意欲を上げることである。生徒の動作を教員が真似てみることで、自身と他者の動作に興味・関心を持たせられるように試みた。２つ目は、ゲーム感を出すことである。ゲームにすることで、遊びの要素を取り入れ、少しでも自ら楽しめるように内容の設定を行った。３つ目は授業のテンポである。ものまねをする前に、音を入れて、ゲームの流れや雰囲気を演出することや、生徒たちの表出を待つことで間を取り、それを周りで見て、興味を持たせるようにするなど、ものまねをするというシンプルなことだけに授業が単調にならないように行うようにした。

10. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・他者の動きに興味を持つことができる。 ・意欲的に授業参加ができる。	・自分の動きが他者の動きと同じ、または違いがわかる。	・指導者と一緒に体を動かす際、力の入れる、または力を抜くことができ、他者と同じ動きができる。 ・他者と同じ動きができる。	・他者の動きなどを理解できる。 ・一緒に活動している指導者の指示に動きを追従することができる。

11. 単元の指導と評価の計画（全１０時間）　（必要に応じて、行を追加してください）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1/12	ものまね挨拶・ゲーム	○		○	
	19	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
第二次	26 本時	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
	2/2	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
	9	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
第三次	16	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
	23	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
	3/2	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○

	9	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○
	16	ものまね挨拶・ゲーム	○	○	○	○

12. 本時の展開

（1） 本時の目標

・1人で（または一緒に活動する指導者とともに)、他者と同じ動作やポーズを取る。

・全員で同じ動作やポーズを取る。

（2） 本時の評価規準

・他者の動作やポーズに興味を持ち、そのことに対する表出が見られる。

・他者の動作やポーズをやってみようとする動きが見られる。

・他者の動作やポーズをどのように動けばいいのかが分かる。

・1人で（または一緒に活動する指導者とともに)、他者と同じ動作やポーズを取れる。

・全員で同じ動作やポーズが取れる。

（3） 本時で扱う教材・教具

iPod（音源)、スピーカー、カメラ、テレビ　ケーブル・紅白の旗（または紅白のミトン）

（4） 生徒の実態と本時の目標

	生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	丁寧に言葉かけを行うと内容を理解ができる。 手や発声で意思表示を示すことができる。	・自ら行動しようというような意欲的な取り組みができる。 ・1人で他者と同じ動作やポーズを取る。	・他者の動作やポーズをやってみようとする動きが見られる。 ・1人で他者と同じ動作やポーズを取れる。
B	丁寧に言葉かけを行うと理解ができる。 手や発声で意思表示を示すことができる。	・他者の動作に、興味を持つことや注目することができる。 ・指導者とともに、他者と同じ動作やポーズを取る。	・友だちや指導者の動作に、注視するなどの行動が見られる。または感情などの表出がある。 ・一緒に活動する指導者の誘導に、協調するような動作ができる。
C	表情で感情の表出ができる。 手や発声で意思表示を示すことができる。	・他者の動作に、興味を持つことや注目することができる。 ・指導者とともに、他者と同じ動作やポーズを取る。	・友だちや指導者の動作に、注視するなどの行動が見られる。または感情などの表出がある。 ・一緒に活動する指導者の誘導に、協調するような動作ができる。
D	会話を理解できる。 話すことはできるが、手で合	・1人で他者と同じ動作やポーズを取る。	・1人で他者と同じ動作やポーズを取れる。

	図することが多い。 左半身が麻痺している。		
E	表情で感情の表出ができる。 体の硬縮が強く、体で表現することが難しいが左腕はよく動く。 （当日欠席）	・他者の動作に、興味を持つことや注目することができる。 ・指導者とともに、他者と同じ動作やポーズを取る。	・友だちや指導者の動作に、注視するなどの行動が見られる。または感情などの表出がある。 ・一緒に活動する指導者の誘導に、協調するような動作ができる。
F	長期欠席		
G	表情で感情の表出ができる。 好意的なものに、手を伸ばすなどの行動ができる。	・友だちや指導者の動作に、興味・関心を持つことができる。 ・指導者とともに、他者と同じ動作やポーズを取る。	・友だちや指導者の動作に、注視するなどの行動が見られる。または感情などの表出がある。 ・一緒に活動する指導者の誘導に、協調するような動作ができる。
H	丁寧に言葉かけを行うと内容を理解ができる。 手や発声、表情で意思表示を示すことができる。	・自ら行動しようというような意欲的な取り組みができる。 ・1人で他者と同じ動作やポーズを取る。	・他者の動作やポーズをやってみようとする動きが見られる。 ・1人で他者と同じ動作やポーズを取れる。
I	丁寧に言葉かけを行うと内容を理解ができる。 手や発声、表情で意思表示を示すことができる。	・自ら行動しようというような意欲的な取り組みができる。 ・1人で他者と同じ動作やポーズを取る。	・他者の動作やポーズをやってみようとする動きが見られる。 ・1人で他者と同じ動作やポーズを取れる。
J	表情で感情の表出ができる。 体の緊張が強く、体で表現することが難しい。	・指導者とともに、他者と同じ動作やポーズを取る。	・一緒に活動する指導者の誘導に、協調するような動作ができる。

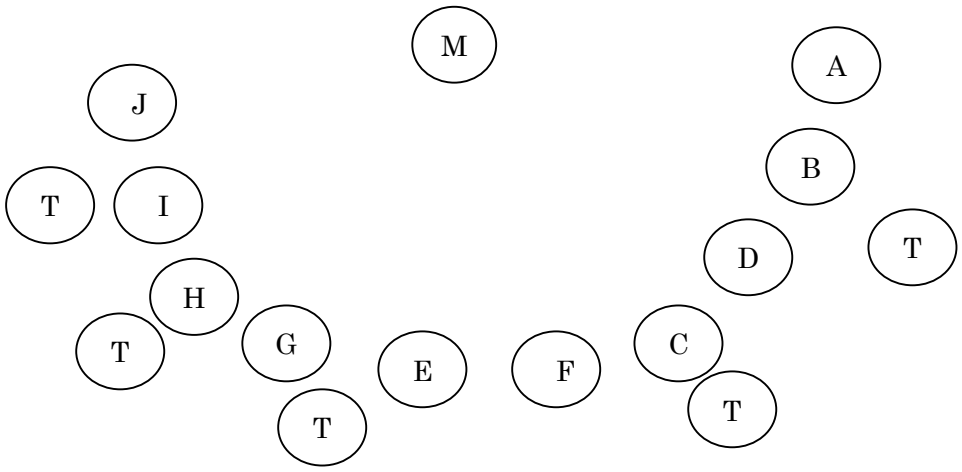
（5）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
導入 10分	挨拶 出席確認（してもらいたい自分のものまねを表出する）	生徒1名に挨拶をしてもらうように呼びかけを行い、全員に授業の始まりを意識させる。 生徒を呼名するときは、大きな声ではっきり、誰が呼ばれているのかを伝わるようにする。 MT は、生徒にまねされていることを認知してもらうように示す。	 呼名されたときに、ものまねしてもらいたい表現・表出ができる。
展開Ⅰ 15分	旗揚げゲーム	3人～4人で簡易的なグループを作り、そのグループで活動を行う。 MT の指示のもと、一人でまたは、付いている教員と一緒に旗揚げ動作を行う。 旗揚げのテンポは、MT が生徒の実態に応じて調整し行う。	指示に合わせて、または MT の動きを見て、同じことができる。または教員と一緒にできる。 他者の動作やポーズに興味を持ち、そのことに対する表出が見られる。
5分	水分休憩		
展開Ⅱ	みんなで合わせましょう！	モデル役の生徒を決め、（できるだけ）1人で、動作やポーズをするように促す。 モデルの動作やポーズの関心を持たせ、1度全員でそのポーズを行い、内容の理解を促す。 始まりの BGM を流し、（付いている教員と一緒に）表出の準備を行い、ものまねを完成させる。 発表時に、そのものまねができるように付いている指導者は動作などの支援を行う。	他者の動作やポーズに興味を持ち、そのことに対する表出が見られる。 他者の動作やポーズをやってみようとする動きが見られる。 他者の動作やポーズをどのように動けばいいのかが分かる。 友だちの動作を、一人で（また指導者と一緒に）、真似ることができる。

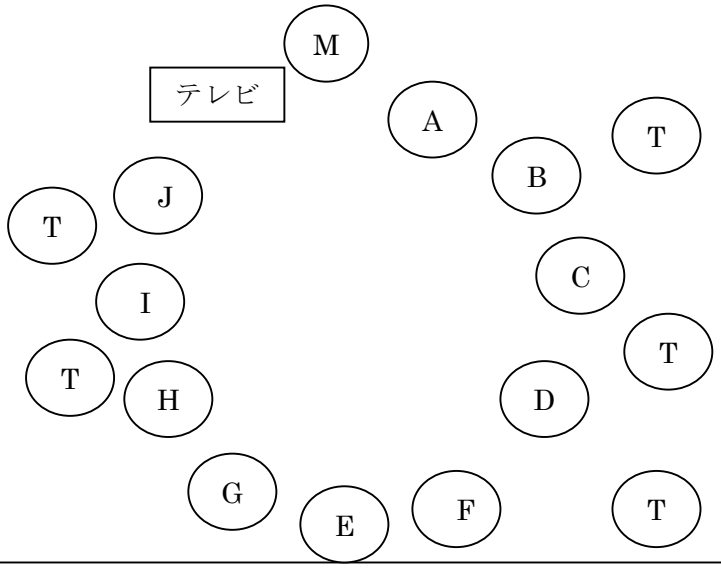
25分		全員がものまねをできたかの判定を生徒にしてもらうように促す。 上記のことを、時間内繰り返して行う。	全員で同じ動作やポーズが取れる。
まとめ 5分	ふりかえり 挨拶	自分のしたものまねやされたものまねについて、感想を聞き、ふりかえりを行う。	

（６）教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）

挨拶～展開Ⅰ



展開Ⅱ



＊備考

◇当該教科・領域の年間指導計画

学期	単元名	内容
1	コーディネイトとファッションショー	テーマに合わせて、友だちの服を選び、コーディネイト。モデル役は、その選ばれた服を着こなし、みんなの前でアピールします。
2	缶トリーゲーム	毎回、くじ引きを行い、チームを決めます。4段に積み上げられた缶のタワーから友だちと一緒に協力しながら、より多くの缶を引き抜くことを競います。
3	ものまね	挨拶やゲームなどにものまねを取り入れ、誰かと同じことを！テーマに、様々な表出や表現を行いコミュニケーション活動をします。

コミュニケーションツールとしての『ものまね』　⇒　まねる（おなじことをする）ことで、周囲とのかかわりができる
⇒　一緒に活動ができる

周囲と一緒に活動するために
「周囲の人との関わり」
をどう広げていくか
↓
コミュニケーションツールを増やす

＝

〈高等部　学部共通テーマ〉
「いつでも、どこでも、誰とでも(誰にでも)」を大切にした授業

〈小学部　学部共通テーマ〉
子どもたちの心の動きに寄り添い、内なる力をはぐくむ授業

〈全校統一テーマ〉
一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり

〈中学部　学部共通テーマ〉
友だちへの関心を広げると共に、集団の中で自分らしさを出せる授業

授業者より

	A	D	H
実態	丁寧に言葉がけを行うと内容を理解できる。手や発声で意思表示できる。	会話を理解できる。話すことはできるが、手で合図することが多い。左半身が麻痺している。	丁寧に言葉がけを行うと内容を理解できる。手や発声、表情で意思表示できる。
目標	意欲的な取り組みができる。1人で他者と同じ動作やポーズをとる。	1人で他者と同じ動作やポーズを取る。	意欲的な取り組みができる。1人で他者と同じ動作やポーズをとる。

グループワーク

それぞれの生徒の活動を、直接又はVTRで観て、生徒の主体性をよりひきだすための目標設定や支援・手立ての方法がないかを考えた

シェア

	A	D	H
目標	自ら行動しようというような意欲的な取り組みができる。1 人で他者と同じような動作ができる	1 人ずつの判定をスピーディかつ的確に行うことができる。	場面に応じた行動をする。
支援	鏡などを使用する。ポーズのマッチングをして、ものまねの概念を理解しているか確認する。	ものまねをする生徒の正面で見る。判定方法は音を出す。判定のタイミングを設ける。	場面設定を本人にとってわかりやすくする。最初と最後をはっきりする。ものまねに入る前に、生徒の姿勢を一度ニュートラルな状態に戻す。ON/OFF の切り替えをしっかりする。
手立て	指示の文言の統一。見本を示す。集団を小さくする。まねされる生徒を正面にする。	1 人ずつの判定基準を都度確認。ピッグスイッチ等を使用。赤白でなく〇×。みんなでカウントダウン。	

高等部２年生「くらし」学習指導案

大阪府立交野支援学校
指導者　長尾　真希

１．日時　　平成２９年１２月５日（火）　第５・６時限（１３：３０～１４:３０）
　　平成２９年１２月１４日（木）　第５・６時限（１３：３０～１４:３０）
２．場所　　高等部　　第２学年１組　教室
３．学部・学年・組　　高等部　　第２学年１組　６名（Ｇ１グループ）
４．指導者　　長尾真希（Ｔ１）、八木敬太郎（Ｔ２）、川上裕也（Ｔ３）、辻本実穂（Ｔ４）
　　河道涼子（Ｔ５）
５．単元名　　「クリスマス」
６．単元目標　　・「ありがとう」と言われることを体験し、喜びや温かい気持ちを知る。
　　・自己選択できる。

７．生徒観

本クラスの生徒は､男子３名女子３名の６名である。６名ともＧ１(自立活動を主として学習するグループ)に在籍している。「楽しい」や「ＹＥＳ」「ＮＯ」という自分の意思を声や表情で伝えることができる生徒、興味のあるものには主体的に身体を動かし活動できる生徒、意思疎通はできるが、緊張が強く自分の思い通りに身体を動かすことができない生徒など、認知面や身体面でそれぞれ異なる生徒たちである。また、医療的ケアが必要な生徒、視覚に障がいがあったり、難聴や逆に聴覚優位の生徒など、個々に応じて支援や配慮が必要な生徒が多い。

このグループの生徒たちは、家族やヘルパーさんと一緒に出かけたりする生徒もいれば、家庭の事情であまり出かけられなかったりする生徒もおり、私たちが何気なく楽しんでいることを経験する機会が少ないのではないかと考えられる。また、自分からやりたいと伝えることが難しく、受動的な活動になりがちな生徒たちである。

８．教材観

「くらし」では、普段の生活の中で主体的に活動できることを重視して取り組んでいる。昨年度は、複数の指導者がそれぞれ推薦する本の初めの部分を読み､生徒はそれを聴いて､どの本の続きが聴きたいかを選択し、票が多い本の音読を聴くという取り組みを行った。本年度は、宿泊学習で使用するもの作り、夏まつりの屋台の選択、ゲームの選択、ハロウィンでの衣装選びなど、様々な場面で選択する機会を設けた。

本単元の「クリスマス」は、小さい頃から毎年のように経験しているので、生徒にとっては、取り組みやすい内容と考えた。クリスマスでは、家族や放課後等デイサービスでわいわいと楽しんだり、クリスマスプレゼントをもらったりという受け身の活動はあっても、プレゼントを渡すことで「ありがとう」と言われたり、感謝される経験は少ないのではないかと考えた。そこで、いつもと異なる楽しみ方や、「ありがとう」と言われてどう感情が動くかを経験してほしいと考え、本単元を設定した。毎時間、読む絵本の内容は、子どもがお母さんにクリスマスプレゼントを渡すという内容のものを選択した。プレゼントの受け渡しでは、カイロや小豆を温めたものを使用した。受け取った際、肌で温かみを感じ、そこから嬉しさや心の温かみを感じてほしいと考えた。プレゼントを作成する場面では、見た目や形が異なるパーツを準備し、見たり触ったりして選択しやすいような物にした。

９．指導観

「くらし」では、１年間の活動内容を通して、自分の生活（年間）を意識し、主体的に参加できるようになる、（学校での活動や卒業後の社会生活、余暇活動の中で、より主体的に参加し、楽しめるようになるために、自己決定、自己選択ができる力をつける）ということを年間目標として取り組んでいる。また、高等部の共通テーマ「いつでも、どこでも、誰とでも」を意識し、学校行事や季節のイベントとリンクさせながら、取り組んでいる。

１学期は、宿泊学習で使用する食札やかばんにつけるネームタグを作成した。作成するにあたり、形や色を自分で選択し、他者にそれを伝えて、自分好みのものを作成した。また、夏祭りの屋台を選択する授業を行った。２学期では、活動内容を２種類準備し、２名の指導者が活動内容をそれぞれプレゼンし、どちらの活動をやりたいかを選択してもらった。このように、選択して主体的に参加することで、様々なことにより楽しく取り組めたり、気持ちがどう変化するかに気づいたりしてほしい。自分で選択したり、自分の意思を相手に伝える力や、自分が選択した方法で行うことの喜びや楽しみを知ってほしい。

年間を通して様々な行事がある中で、いろんな楽しみ方があることを経験し知ることで、卒業後の生活の質の向上や、きっかけになってほしいと考える。

本単元では、「クリスマス」という毎年行われるイベントの中で、いつもはもらっているプレゼントを逆に渡すことで、感謝される側の気持ちを経験する。または、身近なお母さんにプレゼントを渡し、「ありがとう」ということばをかけてもらい、何かをあげる喜びや温かい気持ちを体験したい。その気持ちの変化を活かし、選択するきっかけとしたい。プレゼントは、手作りのものとして、自分たちで色やデザインを指導者と一緒に選び、作成する。

第１次では、絵本の音読に加えて、指導者が今までもらったプレゼントの中でいちばん心に残っている物を紹介してもらった。第２次のプレゼントの受け渡しでは、寒い時期なので、温かいものを受け渡しをすることで、もらった時の温かみを感じたり、「ありがとう」と言われることで、嬉しさなど気持ちの変化に気づいたりしてほしい。受け渡しをすることで、受け取った側は温かい気持ちになり、渡した側は「ありがとう」という言葉をもらって温かい気持ちになるなど、わかりやすい方法をとり、気持ちを動かすことから始めた。また、受け渡しの場面やプレゼントを作成する上で、パーツを選択したり、自分なりの意見を他者に伝えたりと、受け身ではなく主体的に楽しめるようになってほしいと考え、教材や指導内容を設定した。

“ココロ”（感情）を動かすことと、選択することを何度か繰り返すことで、自分で選ぼう、自分で決めようと思う意思を高めたい。

１０．単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・教員の音読や話に興味をもったり、静かに最後まで聴くことができる。 ・プレゼントしたいという気持ちを持つことができる。 ・プレゼントする人のことを思いながら取り組むことができる。	・いくつかの提示された物の中から、自分で選ぶことができる。また、自分なりの方法で他者に伝えることができる。 ・受け渡しの体験で気持ちの変化を感じ、表出することができる。	・指導者と一緒に作業することができる。	・活動の見通しをもつことができる。

１１．単元の指導と評価の計画（全時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第1次	16	クリスマス （導入）	○			○
第2次	17	クリスマス 受け渡し		○		○
	18	クリスマス 受け渡し		○		○
第3次	19	クリスマス プレゼント作成（12/5）	○	○		
	20	クリスマス プレゼント作成		○	○	
	21	クリスマス ラッピング・カード作成（12/14）	○	○		
	22	クリスマス会 （プレゼント交換）	○			○

１２．本時の展開＜12月5日＞

（1） 本時の目標

・音読を最後まで聴くことができる。

・パーツを選び、指導者に意思を伝えることができる。

・プレゼントの受け渡しで、気持ちの変化を感じ、表出することができる。

（2） 本時の評価基準

・音読を最後まで聴くことができたかどうか。

・プレゼントの受け渡しで、気持ちの変化を感じることができたかどうか。

・パーツを選び、指導者に意思を伝えることができたかどうか。または、パーツに興味を持ち、見たり触ったりできたかどうか。

（3） 本時で扱う教材・教具

本「ふくびき」)、ＴＶ、小豆の入った袋、プレゼントの材料（リース、飾り）

（4） 生徒の実態と本時（12月5日、12月14日）の目標

	生徒の実態	本時の目標	評価規準
A	・聴覚優位なので、音でのアプローチや、言葉で説明する支援が必要。(選択するものを提示する際は、感触や言葉かけをするようにする。) ・上肢より下肢のほうが自分でよく動かすことができる。	・言葉かけ（「お母さん、こんな風にしたら喜ぶかな？」）で表情や行動に変化を示す。 ・指導者と一緒にパーツ（ラッピングとカード）を選ぶことができる。	・指導者の言葉かけをしっかりと聴いて、笑顔になったり、足を動かして喜んだりする。 ・気になった方のパーツ（ラッピングとカード）を選択できる。
B	・話の内容はある程度理解できている様子がみられる。 ・やらされることが苦手なので、音楽を流したり、本人が楽しんで取り組めるような工夫が必要。 ・右腕が優位だが、左手での活動も心がけさせたい。	・言葉かけ（「お母さん、こんな風にしたら喜ぶかな？」）に表情や行動に変化を示す。 ・指導者と一緒にパーツ（ラッピングとカード）を選ぶことができる。	・“お母さん”というキーワードで笑顔になるなど表情に変化がある。 ・パーツ（ラッピングとカード）を注視し、手に取るなど選択することができる。
C	・興味のあるものには手を出し、遊んだりすることができる。 ・ストレスをため込みやすく、そのせいで生活のリズムが崩れることも多く、授業中に眠ってしまうことがある。 ・興味をもてるものが少なく、偏りがある。	・言葉かけ（「お母さん、こんな風にしたら喜ぶかな？」）に表情や行動に変化を示す。 ・興味を持ったパーツ（ラッピングとカード）に手を伸ばし、選ぶことができる。	・“お母さん”というキーワードで笑顔になるなど、表情や行動に変化がある。 ・パーツ（ラッピングとカード）を注視するか手にとって、選択することができる。
D	・本人が意欲的になれば、できることは多く、欲求も伝えることができる。 ・自分のやりたくないことや、やっている内容がわからなければ、怒ってしまうことがある。 ・依存度が高く、自分のしたいことを他者に頼って実現させようとする傾向がある。	・パーツ（ラッピングとカード）に注目したり、興味を持つことができる。 ・指導者と一緒にパーツ（ラッピングとカード）を選ぶことができる。	・“お母さん”というキーワードで笑顔になるなど、表情や行動に変化がある。 ・自分の好みのパーツ（ラッピングとカード）に手を伸ばして、選択できる。
E	・話の内容をある程度理解している。 ・自分で「YES」「NO」を言葉で伝えることができる。 ・緊張が強く、自分の思い通りに身体を動かすことが難しいが、少し支援をすれば、自分のほしいものの方へ手をもっていったり、作業したりすることができる。	・お母さんが好きそうだなと思ったパーツ（ラッピングとカード）に手を伸ばし、を選ぶことができる。 ・選んだものを他者に伝えることができる。	・お母さんのことを思い浮かべながら、パーツ（ラッピングとカード）を選ぶことができる。 ・選択したほうを発語や目線で指導者に伝えることができる。

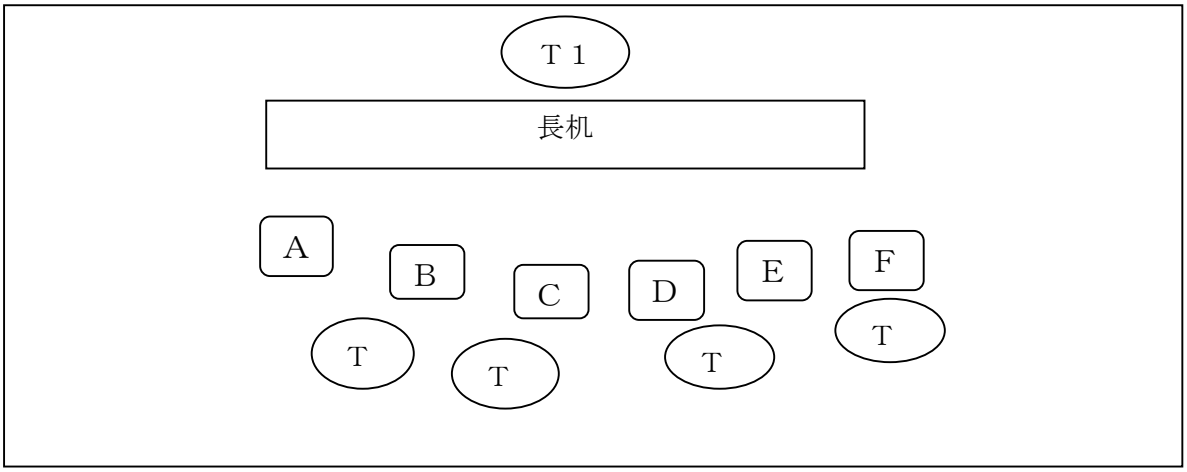
F	・話の内容をほぼ理解できている。 ・「YES」「NO」を口答や視線で伝えることができる。 ・自分の意見を言うことができる。 ・かなり緊張が強く、自分の思い通りに身体を動かすことが難しく、作業する際は、介助が必要。	・パーツ（ラッピングとカード）を見比べて、お母さんが好きそうだなと思った方を選ぶことができる。 ・選んだものを他者に伝えることができる。	・お母さんのことを思い浮かべながら、パーツ（ラッピングとカード）を選ぶことができる。 ・選択したほうを発語や目線で指導者に伝えることができる。

（５）　本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
５分 導 入	挨拶・出席確認 本時の説明	・挨拶をすることで、授業の始まりを意識するようにする。 ・この授業でどんな取り組みをするか説明する。	・授業の始まりを意識することができる。 ・活動の見通しをもつことができる。
20 分 展 開 ①	絵本の読み聞かせ プレゼントの受け渡し	・音読を聴きやすいような環境にする。（部屋を暗くし、絵本の絵をテレビに映し出し、見やすくする） ・使用した絵本には、様々な要素が含まれているので、“お母さんへの感謝をプレゼントという形で伝えようとしている子どもたちの気持ち”に注目してもらうように音読をする。 ・あらかじめ用意したプレゼント（小豆）をもらうことで、伝わる温かさを再確認する。（ＳＴは、生徒と温かさを共感する）また、次に作成する際にこの気持ちが持続するようにプレゼント（小豆）を持っておく。 ・渡す指導者は、サンタの帽子をかぶる。 ・「お母さんにもこんな温かい気持ちになってほしいよね、お母さんが温かい気持ちになるプレゼントを一緒に作ろう。」と話しかける。	・音読を静かに聴いたり、内容を理解できる。 ・受け渡しで、気持ちの変化を感じ、表出することができる。
10 分 休憩	水分補給		

15分 展開②	プレゼントのパーツを選ぶ プレゼントを作成	・どのように作成するかを説明。 ・パーツを選びやすいように、実際にリースにパーツを当ててみて、イメージをしやすいように提示する。 ・視覚的に弱い生徒が選ぶ際は、手にとってもらう。 ・パーツを選ぶ際に、「お母さん、こんなの好きかな？」や「こんな感じにしたら、喜んでくれるかな？」等、お母さんのことを考えられるように言葉かけをする。	・説明を最後まで聞くことができる。 ・“お母さん”というキーワードで笑顔になるなど表情が変化する。（生徒Ａ～Ｄ） ・気になったパーツを手に取ることができる。（生徒Ａ～Ｄ） ・お母さんのことを思いながら、パーツを選ぶことができる。（生徒Ｅ，Ｆ）
10分 まとめ	まとめ 挨拶	・みんながどんなものを選んで作っているかを見る。 ・挨拶をすることで、授業の終わりを意識するようにする。	・仲間が作成したものを見ることができる。

（６）教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）



１３．本時の展開＜12月14日＞

（1） 本時の目標

・音読を最後まで聴くことができる。

・ラッピングやカードを選び、指導者に意思を伝えることができる。

（2） 本時の評価基準

・音読を最後まで聴くことができたかどうか。

・ラッピングやカードを選び、指導者に意思を伝えることができたかどうか。または、ラッピングやカードに興味を持ち、見たり触ったりできたかどうか。

（3） 本時で扱う教材・教具

本「ふくびき」、ＴＶ、プレゼント、ラッピングの材料（袋、リボン）、カードの材料（台紙など）

（4） 生徒の実態と本時の目標

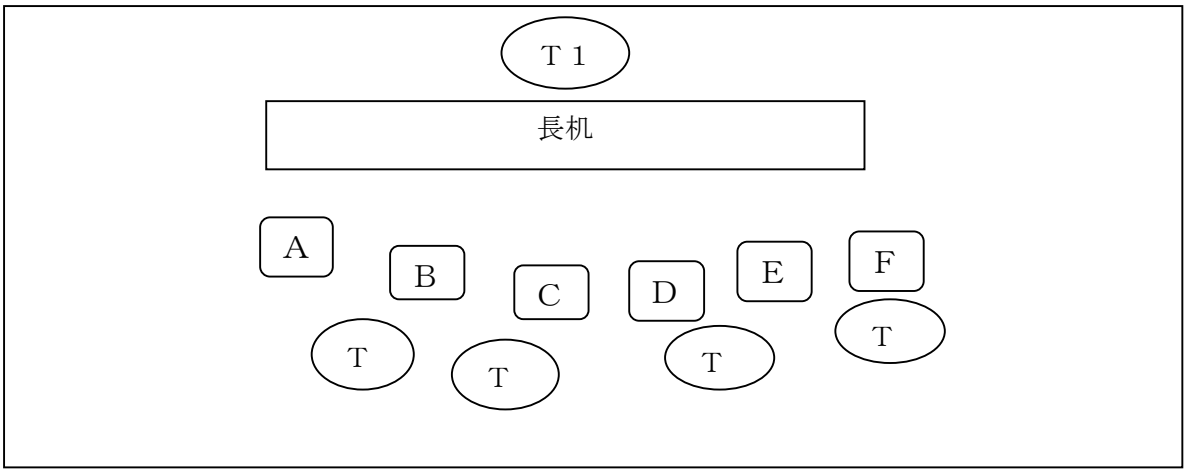
前頁　参照

（5） 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
５分 導入	挨拶・出席確認	・挨拶をすることで、授業の始まりを意識するようにする。 ・この授業でどんな取り組みをするか説明する。	・授業の始まりを意識することができる。 ・活動の見通しをもつことができる。
15分 展開①	絵本の読み聞かせ 自分たちが作成したプレゼントを披露	・音読を聴きやすいような環境する。（部屋を暗くし、絵本の絵をテレビに映し出し、見やすくする） ・自分が作成したもの、仲間が作成したものを見て、違いに気づくように作品を見せながら解説する。	・音読を静かに聴いたり、内容を理解できる。 ・仲間が作成したものを見ることができる。 ・自分が作成したものとの違いに気づくことができる。
10分 休憩	水分補給		
20分 展開②	①クリスマスカードを作成 ②ラッピングを選ぶ	①カード ・メッセージ（大好き or ありがとう）を選択する。 ②ラッピング ・リボンの色か形を選択する。（どんな感じになるかを見てもらい、選択） ・ラッピングやカードを選択する際には、「お母さん、喜んでくれるかなぁ」や「お母さんへ、どっちの気持ち伝えたい？」等、お母さんのこと	・自分で好きな方のリボン、またはメッセージを選択できる。 ・“お母さん”というキーワードで笑顔になるなど表情を変える。

		を考えられるような言葉かけをする。	
10分 まとめ	まとめ 挨拶	・完成品を見る。一人ずつ、どのようなプレゼントになったかを話しながら、ラッピングされたものを見ていく。 ・次回の予告 ・挨拶をすることで、授業の終わりを意識するようにする。	・仲間が作成したものを見ることができる。 ・次回の活動の見通しを持つことができる。

（６）教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、準備した教材・教具の位置、配置等を示す。）



訪問教育

1．はじめに

本校では、身体の状況や家庭の事情などにより、通学が困難な児童・生徒に対して、施設・保護者と連携をとり、児童生徒の実態を充分把握し、一人ひとりの全人的な発達を図るために、原則として週3回（1回に2単位時間）の授業を年間35週105日にわたって行う、訪問教育を実施している。

※1単位時間は、小学部45分、中学部・高等部は、50分である。

施設および各学部の目標は、以下の通りである。

＜枚方療育園＞

・様々な学習や経験を通して、興味や関心を広げる。

・友だちや教員との関係を深め、豊かな感情を育む。

＜小学部＞

・様々な学習や経験を通して、興味や関心を広げる。

・身近な人との関係を豊かにし、いろいろな物事に対する表現力を育てる。

＜中学部＞

・小学部（小学校）時の指導を継続するとともに、発展した内容の学習に取り組む。

・スクーリングや学校行事に参加し、同じ空間で学びあう楽しさや喜びを感じる。

＜高等部＞

・中学部（中学校）時の指導を継続するとともに、生徒の状況に応じた指導の充実を図る。

・学校での授業を訪問教育に取り入れ、スクーリングを行うことで学部・学年への所属感を強め、卒業後を見越した社会性を養う。

2．過去3年間の訪問学級および在宅訪問籍児童・生徒数

	枚方療育園	小学部	中学部	高等部
平成27年度	13名 （小3、中4、高6）	2名	1名	1名
平成28年度	11名 （小2、中3、高6）	3名	1名	2名
平成29年度	10名 （小2、中1、高7）	3名	1名	1名

3. 在宅訪問教育平成27年度から平成29年度までの実践報告

【小学部　Aさん】

人工呼吸器を使用している。ベッドサイドもしくはバギーで授業を受けている。ショートステイを利用している。

嫌なときは、泣いたり首を振ったりする。また、楽しいときには、足を少し動かすことがある。

1年生

体調は安定しており、ショートステイ以外は概ね安定して週2回の訪問を行うことができた。少しずつ授業に慣れ、口や舌の動きで気持ちを伝えられることが増えてきた。暖かい時期は、自宅周辺の散歩やファシリテーションボール等、身体を大きく動かす授業を特に楽しんだ。寒くなる12月以降、保温のため布団から出られなくなり、ベッドサイドでの学習が多くなった。

2年生

体調は安定しており、概ね安定して週2回の訪問を行うことができた。特に制作や調理の授業が好きで、意欲的に取り組むことができ、積極的にやりたい気持ちを手指や舌の動きで伝えることができた。1月からショートステイ中の授業が病院にてスタートし、授業回数が増えた。

【小学部　Bさん】

人工呼吸器を使用している。3～4時間は、人工呼吸器を外して過ごすことができる。ショートステイを利用している。ベッドサイドもしくはバギーで授業を受けている。教員の問いかけに対し、腕に力を入れたり顔を動かしたりして応えられることがある。

1年生

1 学期は体調不良の欠席もあったが、2 学期からは週 2 回の訪問が安定して行えるようになっている。瞬き、表情、舌の動き、首の動き、腕や足に力を入れるなど、授業を重ねるにつれて表出が豊かになってきている。2 学期後半から、“月 1 回のスクーリング”を目標とし、4 回行うことができた。スクーリングでは友だちを意識するように顔を向けることもあった。また、家庭ではできないようなダイナミックな活動（大型ブランコ、台車遊び、宇宙遊泳）にも挑戦することができた。

2年生

安定して週2回の授業を行うことができた。特に楽器の演奏に期待して取り組むようになり、「もっとしたい」「やめたくない」という気持ちの表現が増えてきた。6月～11月にかけて、月1回のスクーリングを行うことができた。校外学習（ニトリモール）や遠足（私市植物園）にも参加することができ、初めての校外での活動でも1日を通して元気に楽しむことができた。初めて紅葉祭にも参加することができ、舞台に立つ雰囲気を楽しみながら練習の成果を発揮することができた。

【小学部　Cさん】

気管切開、胃ろう形成手術をしている。夜間と不調時の日中はＣＶ（中心静脈カテーテル）でＩＶＨ（高カロリー輸液）の摂取をしている。独立歩行が可能であり、ＡＤＬもほぼ自立している。周囲の会話をほぼ理解しており、簡単なジェスチャーで意思疎通を図っている。周期性の嘔吐があるため体調の浮き沈みが激しい。週３回訪問学習を行い、体調の良い日はスクーリングも実施している。

１年生

週３回訪問学習を行い、授業(物語や体操)の DVD を持っていくと内容や振りを覚えようと繰り返し見ていた。初めての調理実習を行った際には、初めて食べるものはあまり口にしないのだが、自分で作ったという思いもあって２口ほど食べることができた。

２ヶ月間という長期の入院もあったが、担任が数回お見舞に行き、絵本や折り紙をして一緒に過ごした。スクーリングは行事を含め４回実施でき、他学年が集っている所に行くと人の多さに驚き緊張しながらも、先生や友だちと楽しく過ごすことができた。

２年生

１学期は体調が優れない時にも、ゆっくりとした活動(みる・きく・つたえるのお話を見る等)をすることによって授業に参加でき順調に訪問が行えていた。しかし、２学期には約２ヶ月の入院、３学期に約３週間の入院がありなかなか授業が行えない日が続いた。スクーリングは４回実施できた。久しぶりに先生や友だちと会うと嬉しくて、触れ合ったり話をしたりして笑顔いっぱいで過ごせた。

３年生

今年度は週３回（月 PM、火 PM、金 AM）訪問学習を行った。２週間～１ヶ月以上の入院が数回あったことで、授業を定期的に行うことには難しさもあった。本人は多少の体調不良であれば「勉強する！」と母に伝えるなど意欲的で、平仮名やなぞり書きなど新しいことにも興味を持って取り組んでいる。スクーリングは８回実施することができた。初めての遠足では通学バスに乗っての移動も経験し、友だちや先生と一緒に校外での楽しい時間を満喫することができた。

【中学部　Dさん】

気管切開、人工呼吸器、鼻腔チューブをつけている。ベッド上で勉強することが多いが、内容や体調をみて座位保持椅子に移動して勉強することもある。胸水がたまっているので、入院することもあるが、普段は元気に授業を受けることができている。身体や目を動かして「はい」「いいえ」などの意思疎通を図っている。興味があることには、目を大きく開けて先生の話を聞いている。体調面のこともあり、中学部では、まだスクーリングは行なっていない。

１年生

週２回訪問学習を行い、美術の授業(物づくり)を中心に取り組んだ。２択で物や色を選ぶときなどは、どちらかを見比べて選ぶこともできていた。１学期の後半に入院し、長引いてしまったが、２学期には体育大会や紅葉祭ではビデオで出演することができた。ビデオを撮るときには、緊張した様子もあったがしっかりと自分の役割を果たすことができた。２学期、３学期は体調を崩すことなく、授業を受けることができた。

２年生

今年度も週２回訪問学習を行なった。１学期には、宿泊学習があり、参加することはできなかったが、「しおり」を作成するなどして準備に参加することができた。事後学習では友だちの様子を聞いたり、写真を見たりして「もっと聞きたい～」と興味津々で先生の話を聞くことができた。２学期には、体育大会で競技の説明 VTR に出演した。その後に胸水の検査で３週間ほど入院したが、退院後には紅葉祭のビデオ撮りにも元気に参加することができた。神様「アポロン」役で、カメラにしっかりと目線を向けて

堂々

と演技していた。

【高等部　Eさん】

人工呼吸器使用。1年生ではIVHを使用していたが、2年生では胃ろうと腸ろうに変更。基本的に、ベッドからバギーに移乗して授業を受けている。

1年生

基本的に週3回（月・水・金）AM10：00～12：00の訪問。

間隔1～2週間で5日程度続く、しゃっくりからの体調不良や、8月・10月の緊急入院を乗り越え、週3回ほぼ欠席することなく授業を受けることができた。また、月に1回程度のスクーリングを行うことができた。学習発表会（紅葉祭）、冬の校外学習にも参加できた。調理実習や実験が好きなため、五感への刺激が多い「かたち」「くらし」「おと」の授業を設定した。昼夜逆転で授業中寝ていることも多いが、覚醒しているときは、教員とのやり取りを楽しみながら授業を受けることができた。

2年生

今年度も基本的に週3回の訪問学習だが、1回を午後授業に変更しての訪問となった。

（月／PM1：30～3：30、水・金／AM10：00～12：00）

主治医変更のための入院や、痙攣が多いための薬の調整で入院をすることがあったが、基本週3回の訪問授業を行うことができた。授業内容は、昨年度同様、「かたち」「くらし」「おと」を設定した。しゃっくりによる昼夜逆転の影響と、体調により、今年度は授業中寝ていることが多かったが、起きているときは、音楽を鑑賞したり、様々な匂いや感触を楽しんだりすることができた。スクーリングでは、二大イベントの『体育大会』『紅葉祭』への参加はできなかったが、学部行事や学年行事には参加できた。2年生から始まる「コース」の授業にも参加でき、同学年だけでなく、他学年や近隣の高校の生徒とも交流することができた。

4. 訪問学級枚方療育園 平成27年度から平成29年度までの実践報告

平成29年度10月に訪問学級枚方療育園で行われた「大うんどう会」について報告し、実施された各競技について工夫した点や成果を考察した。今後の「大うんどう会」に活かし、さらに意義を深めたいと考えている。

「大うんどう会」競技についての考察

Ⅰ．はじめに

訪問学級枚方療育園では、「みる・きく・ふれる」、「ゆとり、うごく」、「とくべつかつどう」の3つの領域を定めている。どの授業においても、、達成感を味わうことができるように、指導の方法や教材を工夫している。また、同じ課題に取り組む場合であっても児童・生徒1人ひとりの実態に合った教材を用いたり、個に応じた働きかけを行なったりしている。

2大行事の1つである「大うんどう会」は、日々の学習や活動の成果を発表する絶好の機会であると捉え、児童・生徒一人ひとりが活躍し輝くことができるのではないかと考えた。

なお、実際に大うんどう会で使用した道具や教材の詳細については、各競技の部分で紹介する。

Ⅱ．各競技種目についての考察

（1）競技Ⅰ「借り物競争」について

①借り物競争の内容と競技として選定した理由

借り物競争とは、走者が指定された品物を友人や観客から借り、それを持ってゴールする競技である。今では運動会の定番となり、その歴史は長いとも言える。お題となる品物には、下記のようなものが選ばれることが多い。

・多くの人が持っているもの
・軽くて持ち運びしやすいもの
・素手で持っても安全なもの

今回の大うんどう会で、「借り物競争」を競技として選んだ理由は、運動会の定番になっているからということと、上記の条件に合う品が教室に揃っているからということである。

②競技で使用した品物について

今回使用した品物は、下記の通りである。普段の授業で使用し、親しみのあるものを選んだ。なお、紅組より、白組で使用した品物が多い理由については、後の「③工夫した点」で述べることとする。

・紅組で使用した品物：鈴、クッション、カスタネット、鳴子、タオル
・白組で使用した品物：マラカス、デンデン太鼓、太鼓、積み木、トライアングル、
プラスチック製の丸皿、タオル

③工夫した点

当然のことながら、児童・生徒全員が楽しく参加できるようにアレンジしたが、全ての児童・生徒の実態に合った内容にするまでには、様々な考察を必要とした。最初に借り物競争を行うと決めた際には、お題を文字ではなく写真や絵で作成し、品物も教室内を移動したり観客の方を見たりしながら探す方法で行う予定だった。しかし、その方法では児童・生徒の力で参加し、楽しむことができる内容には程遠いことに気付いた。その上時間制限もあり、探す範囲を広げることは難しいこともあった。そのような理由から下記のように改善し、今回の借り物競争へと進めていった。

—具体的な改善内容—

・お題を、写真ではなく実物とし、予め「？ボックス」に入れた。
・普段の授業において、紐を使って引く学習をしているため、それを活かすために、お題の品物には長いビニールひもを付けた。なお、ビニールひもは、スタート地点からも見えるように、「？ボックス」の外に出しておいた。
・紅組のお題には赤色のビニールひも、白組のお題には白色のビニールひもを使った。また、視覚からの色での識別のみではなく、感触でも区別ができるように、白組のビニールひもの先には毛糸の取

っ手を付けた。（写真1）

・競技時間に限りがあるため、お題と同じ品物を教室から探すのではなく、紅組白組の机に置いてある品物の中から探すことにした。（写真2・写真3）

写真1

写真2　紅組

写真3　白組

・生徒の実態により、独歩で移動する生徒には、絵（記号）を使った。「？ボックス」の近くに白板を設け「〇」「△」「□」の描かれたカードを1枚選び、そのマークの形に該当する品物を机から探すようにした。（写真4）なお、「②競技で使用した品物」の項目にも記載したが、白組の使用した品物が紅組より多いのはそのためである。

写真4　左のカードを裏返し、競技では、右の状態から1枚選ぶ方法で使用した。

④借り物競争のルールについて

今回の大うんどう会では、本来のルールを下記のようにアレンジして行った。

・スタートした後、折り返し地点の「？ボックス」の中から1つ選び、その選んだ品物を持ったまま、品物が並んである机まで行く。

・机に並んである品物の中から、「？ボックス」から取って来たものと同じものを選ぶ。その際、音や形などを手掛かりにする。

・同じ品物が手元に2個あることを確認した上で、ゴールを目指し、次の走者にバトンタッチする。

・アンカーが早くゴールしたチームの勝利とした。

—ベッドサイドでの借り物競争—

・自分のチームの「？ボックス」の中から紐を引いて品物を選ぶ。

・選んだ品物と同じものを、ベッドに並べられた5つの品物の中から探す。指導者が一つずつ提示し、見

たり触ったりして判断できるようにする。

・5つ全てのお題の品が「？ボックス」からなくなったら終了する。

⑤反省

・本来の借り物競争のルールをもう少し活かし、机の上という狭い範囲ではなく、もう少し範囲を広げる工夫が足りなかった。

・どのような品物を使用したいか、児童生徒の意見を聞く時間があった方が良かった。

（2）競技Ⅱ「パワフル紅白野球スピリット」 ～リアル野球盤～について

①リアル野球盤の内容と競技として選定した理由

リアル野球盤とは、フィールドを野球盤に見立て、野球の攻撃をする。それもバッティングにだけ専念して得点を競う競技である。テレビ放送などで人気があるが、各方面でルールをアレンジして行われている。今回の競技で特に注意した点は、特に複雑な野球のルールを障がいの程度に関係なくだれもが楽しめるものに変えることだった。そのため、以下のルールで行った。

・手作りのバッティングマシンを使いカラーボールを野球場に見立てたフロアに転がす。

・フィールドエリアもしくはフェンスにボールが止まると、その位置に表示された打撃結果に従いプレーを続ける。

なお、今回の大うんどう会で、「リアル野球盤」を競技として選んだ理由は、野球ゲームとしてはだれもが楽しみやすいルールで行うことができること、その競技に必要なスペースとして教室のフロアが適当な大きさであること、プレーに必要なものを製作しやすいことなどがあげられる。

②競技で使用したもの、工夫した点について

独歩の生徒については、バットを振る方向や力を加減しながらティー（写真5）に置いたボールを打ち、目標とする表示を狙って転がすという方法をとった。そして自らの力で転がすことが難しい生徒についてはホームベースで使うバッティングマシン（傾斜台を応用したもの）を製作した（写真6）。またホームベースについては通常のような定点一カ所ではなく、横へ一定の幅を持たせて移動させることにより、児童・生徒が打ちやすい位置を決められる様にした（写真7）。またティーとバッティングマシンには、写真5・6にあるようにトラッキーや甲子園球場のロゴマークなどを掲示した。またスコアボード表示も甲子園球場タイプのデザインにすることにより、児童・生徒がより楽しく集中して取り組むことができるように工夫した。また実際にバッティングマシンを使って練習していくと、傾斜台の上に置いたボールを押し出して転がすのが難しい場合があり、紐を引くとボールが転がるスターターをマシンの上部に設置した（写真6）。このスターターを使うことにより、紐を握ると自分でそれを引っ張ることや、一緒に紐を持つと掴んだ手を動かそうとすることができる児童・生徒が増えた。また実際の野球ルールをアレンジして、1チーム5名ずつで守備・走塁は省略して攻撃のみ、ベースは本塁と1・2塁のみで透明ランナーを使用、2アウトチェンジまで選手は何度も交代可、打席結果もアウト・ヒットとホームランだけ、などとシンプルに設定した。そのため限られた時間の中で、試合をスムーズに進めることができるようになった。なお大う

んどう会の時期は夏の高校野球・U18 国際野球大会の直後でもあり、高校野球のスコアボード掲示や応援 BGM なども背景に採用した。そして競技当日は多数の方々が見学されて応援していただき、盛り上がった雰囲気の中で行うことができた。

③反省

・スペースの関係もあるが、打撃の順番を待つ児童・生徒の場所がフィールド外になるのでやや狭く、スムーズに交代することが難しい場面もあった。

・ボールの速さや方向により転がるコースがひんぱんに変わり、コースを読みにくいのも面白かったが、一方のチーム攻撃時間が極端に長くなることもあり、その時の特別ルールを考えておく必要があった。

写真5

写真6

写真7

（3）競技Ⅲ「紙ひっぱり相撲」について

この競技のルールは、「松葉相撲」の要領で紙テープを交差させて引っ張り合い、自分の側の紙テープがちぎれずに残った方が勝ちというものである。どの児童生徒も参加できること、差し向かいで引っ張り合うため相手を意識しやすいことから、この競技を運動会の同窓会種目に選んだ。授業を通して、相撲について学んだり児童・生徒の得意な引っ張り方を探ったりした。

①競技の準備

まず、絵本や新聞記事を題材に相撲について学習した。絵本は、力士が紙面いっぱいに描かれ、ダイナミックな構図が特徴の「はっきょいどーん」を選び、読み聞かせを行った。また、９月場所の模様が特集された新聞記事を切り抜いて教室に掲示し、ふんばる力士の写真を見たり、「負けぬ！」や「奮闘努力」などの見出しを活用したりして、相撲の力強さを学習した。さらに、児童・生徒が力士になりきるため、四股名を指導者と一緒に考えた。筆を握り、指導者と一緒に四股名を書き込み、最後に手形を力強く添えて、オリジナル番付表を完成させた。稽古では、指導者手作りの紅白まわしを身体にあてて、雰囲気を味わった。

（写真8・9：指導者の四股名と手形のオリジナル番付表、紅白まわし、紅白紙テープ、オリジナルソフトリストバンド）

写真8

写真9

自作したリストバンドは、手触りの良いフェルトを使用し、衣類用ボタンを縫い付けて脱着が簡単にできるように工夫した。また、動かすと音が出るようにリストバンド外側に鈴を縫い付け、引っ張ったり引っ張られたりしたことがより分かるようにした。

②得意な方法を見つける

次に、紙テープを引っ張り合うことについて、児童生徒それぞれの方法を探った。稽古を通して見られた身体の特徴と、引っ張り合う方法を表に記す。なお、在籍する児童生徒のうち5名のみを記す。

表

	紙テープを引っ張り合う際の身体の特徴	引っ張り合う方法
児童A	ゲーム中、身体に緊張が入りやすい。 掌を握りこんで保持することができる。	輪っか状にした紙テープを掌で握りこんで、引っ張り合う。
児童B	掴むことはできるが、保持は苦手。 力を入れて、腕を動かすことがある。	手首に装着したリストバンドに紙テープを通す。 バギーを動かすことで引っ張り合う。
生徒C	握りこんで保持することは難しい。 腕を動かすことは難しい。	輪っか状にした紙テープを腕に通す。 バギーを動かすことで引っ張り合う。
生徒D	掴むことはできるが、保持は苦手。 両腕を動かすことが得意。	手首に装着したリストバンドに紙テープを通す。 腕を動かして引っ張り合う。
生徒E	握りこんで保持し、力を加減し引っ張ることができる。	紙テープを握って引っ張り合う

③運動会当日の様子

当日は、多くの利用者がご参加くださった。限られた時間の中でたくさんの勝負を持ちたかったため、紅白まわしは使用しなかった。勝負は、児童・生徒の「学校チーム」対、学校の卒業生を含む利用者の「先輩チーム」で行った。また、子どもたちと同じ病棟の利用者が参加してくださったため夢の「同部屋対決」も実現した。

児童・生徒それぞれが、自分の得意な方法で勝負することができた。盛り上がった雰囲気の中で、緊

張した様子の子もいれば、稽古通りの力が出せた子もいた。それぞれが力を発揮し自分の相撲を取ることができた。

④反省

昨年の運動会でも紙ひっぱり相撲を競技として選んだ。今年の競技は昨年の競技を経て、より子どもたちの力で参加できるように工夫した。リストバンドを作製・使用することで、握り続けることの苦手な子どもでも参加しやすいものにすることができた。

Ⅲ. おわりに

年度当初、今年度の大うんどう会の競技を決めるためには、長い時間が必要と予想していた。しかし、３つの競技については思いのほかすぐに決めることができたと感じている。それはおそらく「普段の授業での取り組みを発表する場」として捉え、児童・生徒が授業において学習したことや身に付けたことを活かすことができる内容を競技に取り入れたいという思いを、訪問学級担当の全教員が持っていたからだと思う。児童・生徒や教職員の人数の減少が心配される中、病棟のスタッフの方々や利用者様の見学や参加そして本校の先生方の応援のおかげで大変盛り上がり、児童・生徒の良さが全面に出た最高の大うんどう会を開催することができた。感謝の気持ちでいっぱいである。また、普段の練習では、勝ちにこだわる傾向にあった生徒が当日は相手チームの勝利を素直に称え、拍手で喜ぶ場面があった。その姿に、心身ともに大きく成長したということを実感した。勝負にこだわらず、全員で楽しく盛り上げるということができた大うんどう会だった。

“授業づくりって面白い！”　～授業づくりシートの活用～

授業デザイン部　チーム三色もなか

1、「授業づくりシート」が必要だと思った理由

これまで研究部で授業力向上をめざして積み上げてきた中で、見えてきた課題がありました。教員の入れ替わりが激しく、子どもの実態把握で精一杯にある現状の中、「授業を何から考えたらいいか分からない。」「授業について相談したり、共有したりする時間がなかなか設定できない。」「個人的に素晴らしい授業をする教員がいても、その手法が全体で共有できていない。」「大人受けする授業になって実態とねらいの間にずれが生じ、子ども主体になってないと感じる。」「授業の中で偶発的な子どもの変化を評価していないか。」等です。授業づくりに悩む教員の多さと同時に、悩みが分からず漠然と不安になっている教員の多さに、何か方法はないかと考えたのが「授業づくりシート」でした。

2、「授業づくりシート」について

MT の意図が ST に伝わるような略案に工夫できれば、授業改善に繋がると考えました。そのためにまずは、授業を組み立てるプロセスがわかるような「授業づくりシート」を試案してみました。

「授業づくりシート」とは、授業を考える過程を可視化したものです。ラフスケッチ（略案前の授業計画メモ）として使用し（PLAN）、授業実践（DO）後、評価（CHECK）、改善（ACT）できるような様式にしました。（資料①参照）

《やらせたいこと・使いたいもの》では、どんどんイメージしてメモ代わりに書き出してもらうようにしました。《今回の授業のキーワード》では、授業にいくつかあるねらいの中から、ひとつに絞ることを大事にしました。絞ったねらいをキーワードにすることで、より子ども主体でつけたい力がはっきりとしてくると考えました。《実態／予想される姿》では、自由に書き出すことで自分自身の内にある考えの発散になり、その中で考えがまとまり、それが言葉の精選につながるのではないかと考えました。また、授業を進めていく中で、キーワードに立ち返ることも大切にしました。「子どもの反応がよかったところに授業が流れてしまっていないか。」「キーワードを常に念頭におき、子どもの姿から手立てやアプローチの方法を変えたとしても、つけたい力に向かえているか。」を意識しやすい様式にしました。《おおまかな計画》では、細かな計画をたてるよりも単元の到達目標とその過程を意識できるかを重視しました。最後に、準備物です。授業は準備とイメージトレーニングが命！そして、この「授業づくりシート」を ST が読むことによって、授業の共通理解が進みやすいと考えました。

3、「授業づくりシート」の普及をめざして

シートの使い方や利点をどうやったら広く教員に伝えられるか考えました。今までの研修の枠にとらわれず、教員にとって取り組みやすい方法を企画、実行する力が必要だと思いました。授業づくりシートプレゼン大会では、研究部より実際の授業に即したシートの活用例を紹介しました。また、実際にシートを使ってのグループワークをしました。楽しくシート体験をして

もらうために授業から離れて “研修に参加したメンバーと仲良くなるには？”というテーマを設定しました。個々の実態をグループで共有した後、個人で仲良くなるために“やりたいこと”を考え、“キーワード”を絞るワークをしました。その後、再度グループで個々のキーワードを出し合い、グループとしてのキーワードを絞りました。この、“やりたいこと”の中からキーワードを一つ、シンプル・スリム・ストレートに選び取る練習こそ、この研修のねらいでした。また、日々の多忙な業務の中で参加した教員に、笑顔で研修を終えて欲しいという願いを込めました。参加者の感想では、実際の授業に即した活用例がわかって良かったこと、他学部の実践を知ることができて良かったこと、何より難しく考えずに自由に書けば良いとわかったことが挙がり、研修の手応えを感じました。教員の目に触れやすい場所に『もなかタイムズ』を掲示し、実践を紹介するとともに少しずつシートの普及を図ってきました。

また、初任者公開授業の際にも「授業づくりシート」を活用しました。初任者の希望に沿った時期に公開授業の振り返りを行い、初任者の話を聞き取る中で、自由に話したことを整理していくためにシートを用いました。初任者の意図が指導案や授業に反映されているか、主担者の想いと実際の授業に相違はないかが確認でき、シートの新たな活用方法を見出すことができました。

シートについては授業を考える前に使うものが資料①、振り返り改善していくために使うものを資料②として作成しました。外部講師の助言を受け、授業を考える道筋と一致し、かつ授業で大事にしたいところがぶれないように改善を重ねてきました。

４、今後の課題

授業を考える道筋を整理すること、ねらいを絞ること、手立てと姿勢の工夫、目標と評価の一体化が今後の授業づくりの継続課題として挙げられます。特に目標と評価の相関性を今後の重点課題とし、授業づくり、授業改善の中で意識できるよう、シートの中に盛り込んでいきたいと考えています。引き続き、「授業づくりシート」を一層身近なものとするために、授業会議等での活用を啓発していきたいと思います。そして何より、“授業づくりって面白い！”ということが、日常の中で実感できるよう、願っています。

そんな授業をめざして、がんばりましょう！！

授業づくりシート①

《やらせたいこと・使いたいもの》

何を学ばせたい？
つけたい力は？

《今回の授業のキーワード》

授業を進めていく中で、
キーワードに立ち返りながら…

《実態／予想される姿》

〇〇さん、
最近ここ課題やなぁ。

△くん、これは苦手そう。
アプローチかえてみるか？
などなど自由に。

授業の中での中心課題は、児童生徒の実態とあっているかな？
シンプル、スリム、ストレート！

《おおまかな計画》

ステップ①

ステップ②

ステップ③

やりたいこと、
めざすものが
はっきりしている
ことが大事！
実践していくなか
で、柔軟に変化させ
て
いきましょう！

☆さぁ、準備です！授業は準備とイメトレですよ！（一意見です。）
授業でいるもの、児童生徒にあったらいいもの、サブの先生に伝えるためのもの！！！

授業づくりシート②

《やらせたいこと・使いたいもの》※子ども主体の目標を、自由に、おもいつくことを書いてみよう！

《今回の授業のキーワード》※上からひとつ選ぼう！ねらいをしぼったものです

何を学ばせたい？
つけたい力は？

授業のふりかえり

※子ども主体の目標、手立てが
守られていますか？
※授業を進める上で、実態との間に
ギャップはないかな？

授業のふりかえり

《実態把握》

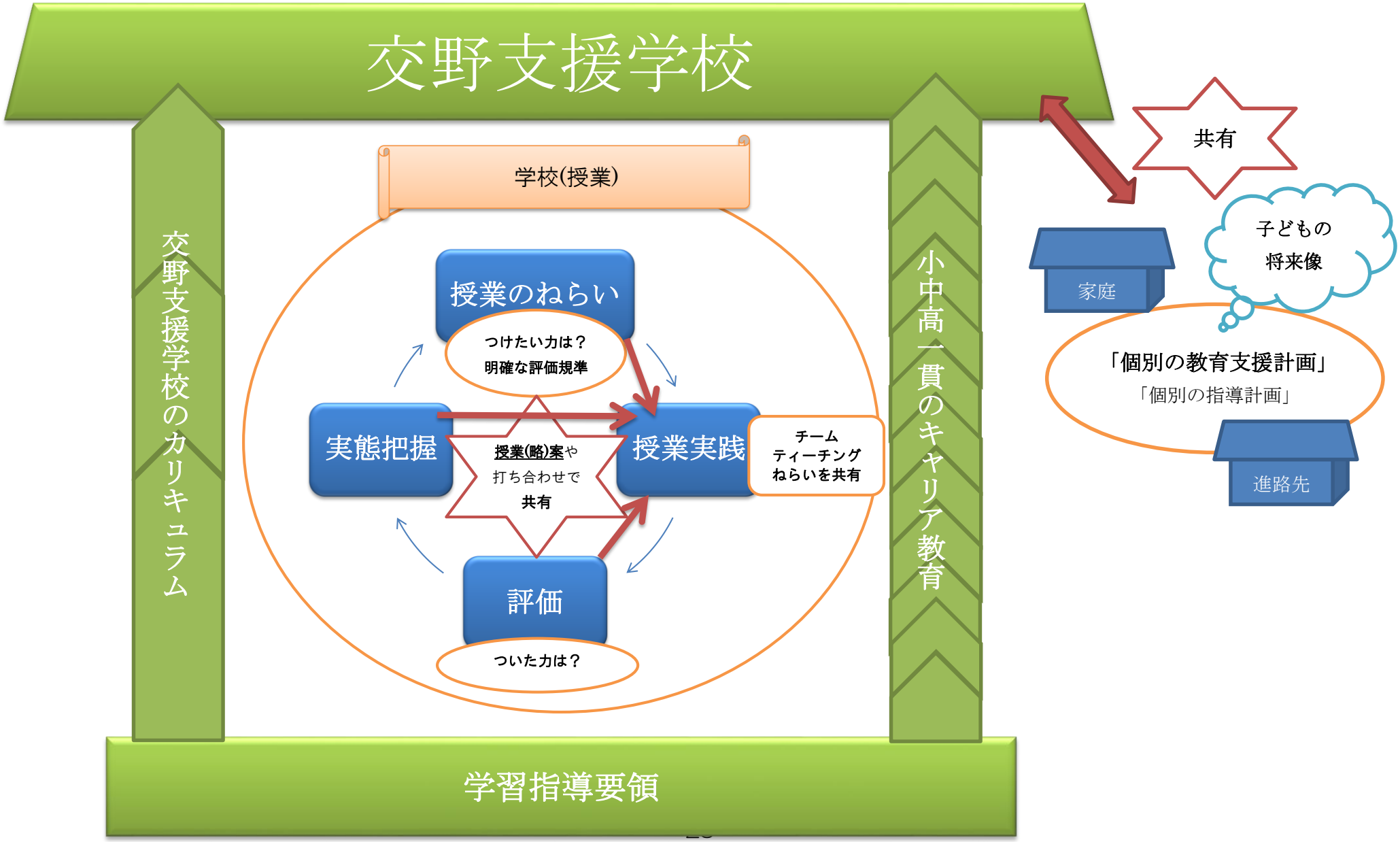
《手立ての工夫》

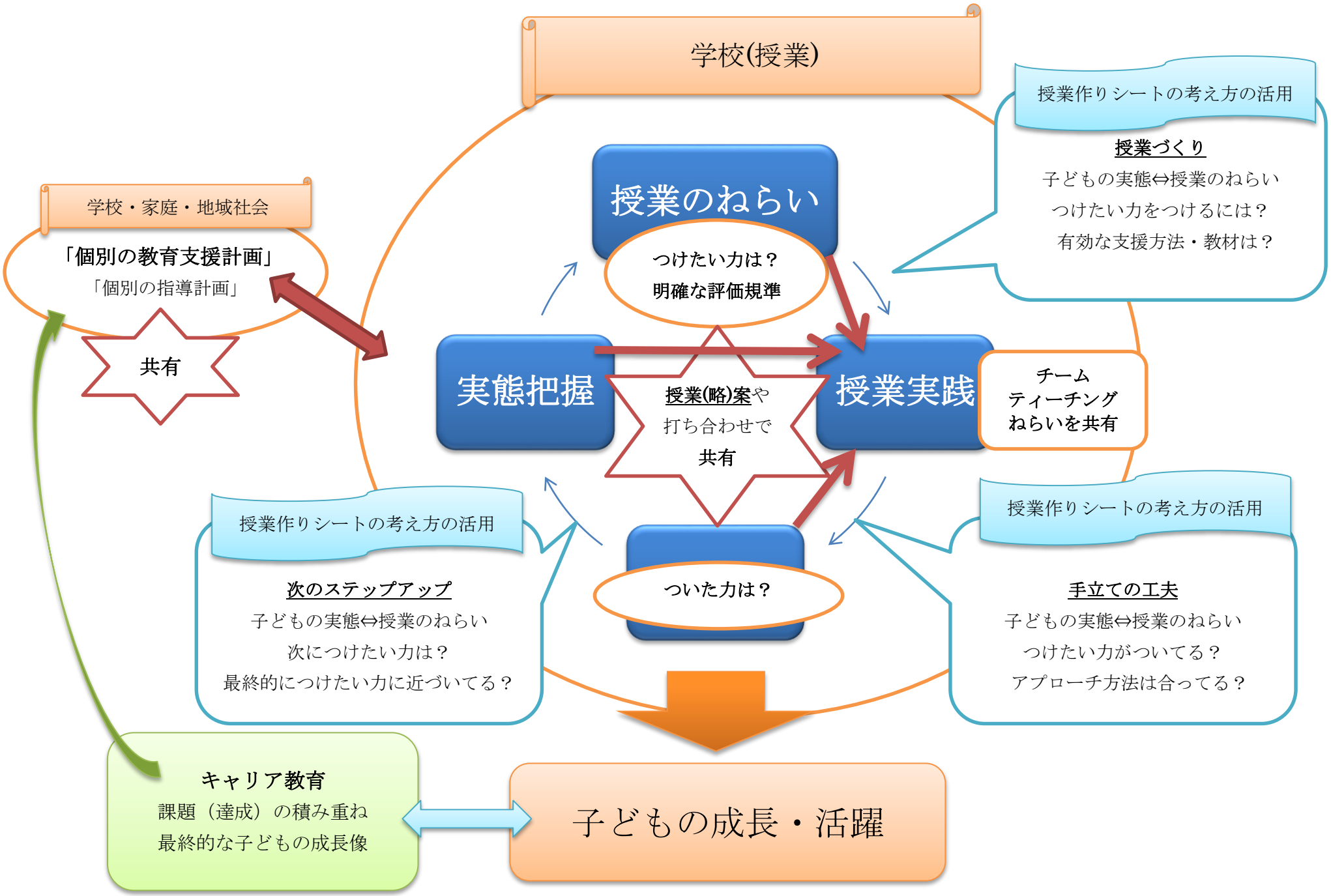
授業の中での中心課題は、児童生徒の実態とあっているかな？
シンプル、スリム、ストレート！

《おおまかな次回の計画》

実践をしていく中で、柔軟に変化させていきましょう。

交野支援学校授業デザイン図（試案）




学校(授業)
授業作りシートの考え方の活用
授業づくり
子どもの実態⇔授業のねらい
つけたい力をつけるには？
有効な支援方法・教材は？
学校・家庭・地域社会
「個別の教育支援計画」
「個別の指導計画」
共有
授業のねらい
つけたい力は？
明確な評価規準
実態把握
授業(略)案や
打ち合わせで
共有
授業実践
チーム
ティーチング
ねらいを共有
授業作りシートの考え方の活用
次のステップアップ
子どもの実態⇔授業のねらい
次につけたい力は？
最終的につけたい力に近づいてる？
ついた力は？
授業作りシートの考え方の活用
手立ての工夫
子どもの実態⇔授業のねらい
つけたい力がついてる？
アプローチ方法は合ってる？
キャリア教育
課題（達成）の積み重ね
最終的な子どもの成長像
子どもの成長・活躍

『医療的ケアが必要な子どもへの支援について』

平成 29 年度　交野市立第 2 認定こども園「あさひ幼児園」園内研修会
平成 29 年 10 月 23 日（月）実施

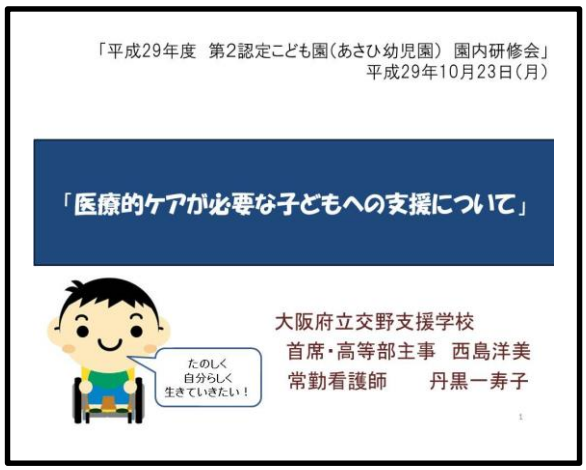
首席・高等部主事　西島洋美
常勤看護師　　丹黒一寿子

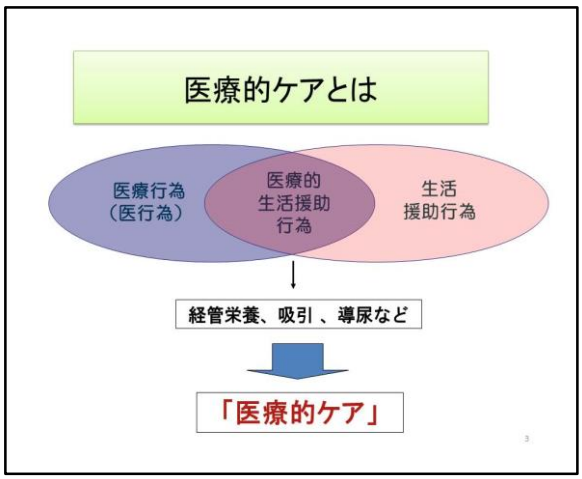
１、はじめに

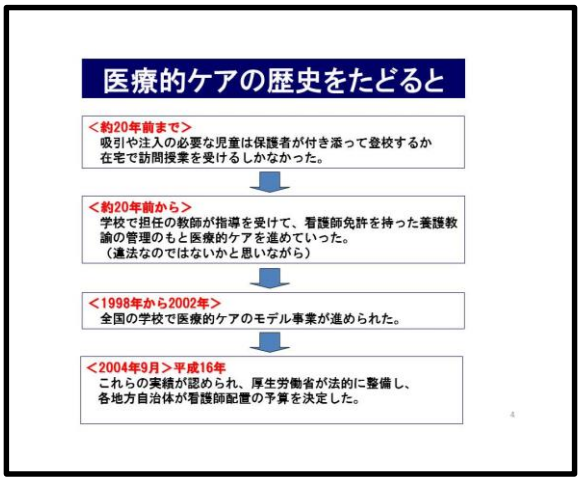
「あさひ幼児園」では、医療的ケアが必要な園児に対応するため、卒園後の就学時のこともふまえて医療的ケアについての理解を幅広く浸透させていきたいということで、今回の研修会が実施されました。

医療的ケアに関してその歴史と医療的ケアそのものについての話に加え、児童生徒に対応する際の留意点を含め日常的に実施している本校での取り組みについて話をしました。どういうことを大切にしているのか、おさえておくべき点についてなど、できるだけ具体例を出しながら話を進めました。

２、パワーポイント資料







医療的ケアと医師法との関連

「医師法第17条」（昭和23年法律第201号）
＜医師でなければ、医業をなしてはならない＞

医師法１７条に規定する「医業」とは、当該行為を行うに当たり、医師の医学的判断および技術をもってするのでなければ人体に危害を及ぼし、又は危害を及ぼすおそれのある行為（医行為）を、反復継続する意思をもって行うことであると解している。

在宅及び養護学校における日常的な医療の医学的・法律学的整理に関する研究会第1回会議　（厚生労働省からの提出資料参照）

5

2012年・介護保険法等一部改正法律案

第6社会福祉士および介護福祉士の一部改正

1－1　介護福祉士は、喀痰吸引その他身体上または精神上の障害を営むのに支障があるものが日常生活を営むのに必要な行為であって、医師の指示の下に行われるもの（厚生省令に限る）を行うことを業とすること（第2条2項）

1－2　介護福祉士は、保健師助産師看護師法の規定にかかわらず、診療の補助として喀痰吸引等を行うこと業とすることができるものとすること（第48条2第1項）

2　認定特定行為業務者による特定行為の実施

3　登録研修期間 →都道府県に任せる

4　喀痰吸引等業務等の登録

5　・・・介護の業務に従事する者であって、・・・必要な知識および技能を修得を終えている特定行為・・・認定特定行為業務従事者認定証を交付・・・→都道府県へ

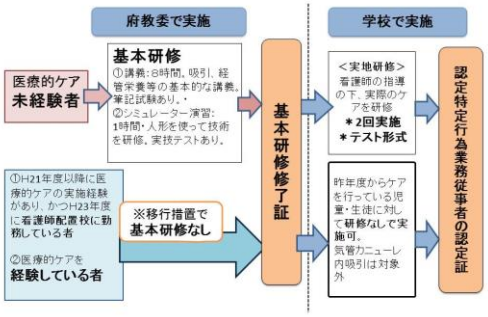
6

2012年度の法改正により、研修終了後「支援学校教員」が実施できる行為

- 口腔内の喀痰吸引
- 鼻腔内の喀痰吸引
- 気管カニューレ内吸引
- 胃ろうによる経管栄養
- 腸ろうによる経管栄養
- 経鼻経管栄養

7

大阪府（府教委・学校）の研修の方法



幼稚園・小学校・中学校の先生方は・・・

大阪府の取り組み

市町村医療的ケア体制整備推進事業

医療的ケアを必要とする児童生徒が、これまで育ってきた地域の小・中学校で学ぶことができるよう、先進的な取り組みである「市町村医療的ケア体制整備推進事業」を平成18年度から実施

9

市町村医療的ケア体制整備推進事業

◎目的

・ノーマライゼーションの進展や医療技術の進歩、さらに障がいの重度化に伴い、小中学校においては医療的ケアを必要とする児童生徒が増加している。これらの児童生徒について、教員は医療行為を行うことができないため、適切な医療的ケアを行う看護師の配置が必要不可欠である。

・このようなことから、小中学校において看護師の配置を進め、医療的ケアを必要とする児童生徒が地域の小中学校において学ぶことができる体制を整備する。

◎開始終了年度

・平成18年度～

10

大阪府の取り組み

⇒これまでから国に先駆けインクルーシブ教育を率先してすすめ、本人・ 保護者の思いを最大限に尊重した就学を実現

⇒看護師の配置により、子どもの安心・安全な教育環境が構築され、保護者の負担も大きく軽減

⇒本事業の実施によって地域の小中学校に通うことができる児童生徒が年々増加

平成24年121名→平成28年159名（府内公立小中学校）

11

大阪府の取り組み

市町村の看護師等を雇用するための財源措置について国へ要望

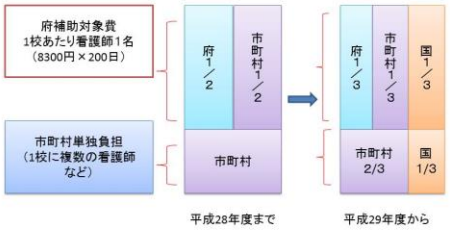
平成29年度より補助率1/3となる国庫補助事業が　実施（市町村2/3負担）

国庫補助事業が創設されたが、これまで府が培ってきた「ともに学び、ともに育つ」教育の施策である医療的ケアを継続・充実させるには十分なものではなく、本事業を廃止することはできない。

（平成29年　大阪府HPより）

12

市町村医療的ケア体制整備推進事業費



13

大阪府立交野支援学校の医療的ケアについて

- 本校では保護者から申請のあった医療的ケアを、内科校医で医師講師でもある大阪府済生会野江病院小児科部長　荒木敦医師の指導のもと、組織的に検討している。
- 学校として受けることになった医療的ケアについては、個々の児童生徒および医療的ケア内容ごとに「マニュアル」を作成し、研修を受け大阪府より特定行為業務従事者の認定を受けた教員および養護教諭と本校配置指導看護師がチームを組み、保護者と連携しながら実施している。

14

交野支援学校での医療的ケア申請の手順

- 保護者の申請を受け、学年・保健室で共有し、医療的ケア小委員会、主治医訪問、内科検診を受けたのち、医療的ケア安全委員会にて検討し、校長決済をもらう。
- 実地研修を2回実施する。その後、認定証を交付された担任が医療的ケアの実施を行えるようになる。

表1参照

15

医療的ケア実施状況

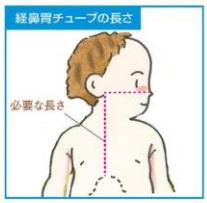
（平成29年度　10月1日現在）

在籍児童生徒数 (小学部、中学部、高等部)	146名　（訪問籍・枚方療育園在籍含む）
医療的ケア対象児童生徒数	54名
医療的ケアの実施総数	185件
医療的ケアの内訳 （看護師が実施する行為も含む）	経管栄養（鼻腔） 経管栄養（胃ろう） 吸引（口腔、鼻腔） 吸引（カニューレ内） 薬剤吸入 酸素吸入 導尿 経鼻エアウエイの留置 人工呼吸器

16

鼻腔経管栄養とは？

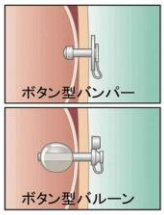
口から飲食できなくなった人に、誤えん防止などのため口以外の場所から栄養分を入れる方法として、鼻から胃にかけて管を入れて注入する人工的栄養補給法



17

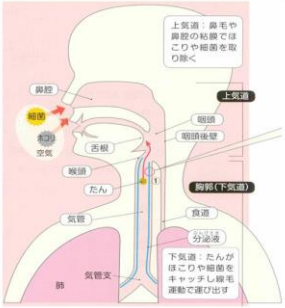
胃ろう経管栄養とは？

口から飲食できなくなった人に、誤えん防止などのため口以外の場所から栄養をとる方法として、胃に直接穴をあけ、チューブをいれた胃に直接栄養分を入れる人工的栄養補給法



19

耳鼻咽頭気管支の役割



20

気管切開とは

肺に空気を送ったり、痰を吸引しやすくするために気管に孔を開けることを気管切開といいます

- 呼吸をするとき、吸った空気は鼻やのどから気管を通って肺に送られる。
- 呼吸がうまくいかなかったり、痰や分泌物がうまくはきだせずに苦しくなってしまうことがある。
- こういうときに、気管切開をしてあげることで空気が肺に行き渡りやすくなり、痰も吸引しやすくなる。

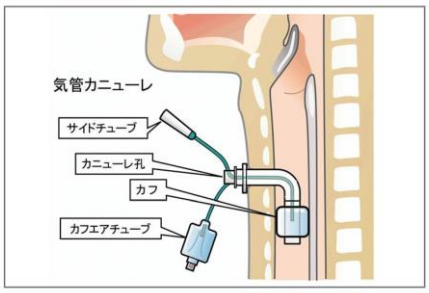
21

気管カニューレとは

- 気管カニューレは直接気管内に挿入される管。
- 外から気管を切開して穴をあけ（気管切開）カニューレを挿入する。
- カニューレの種類は、単管（管が一つだけ）、複管（内管と外管）、カフ付き、カフなしなどいくつかある。
- 気管カニューレを通して呼吸をしたり痰やその他の分泌物などを吸引することになる。

22

気管カニューレ内吸引とは？



23

カニューレの種類と人工鼻

24

気管切開をすることで？

- 個々の病態にもよるが、気管切開をしていても基本的に大きな制限なく運動することが可能。
- 呼吸の確保ができるので、抱っこしてあげたり、体を十分に動かすことができる。
- 気管切開をしていても、中には口から食事ができる子もいるし、声が出る子もいる。

25

気管カニューレが入っていると？

- カニューレという人工物が気管内に入っているので、感染や肉芽、出血などの可能性がある。
- カニューレが抜けてしまうと、呼吸がしにくくなり顔色が悪くなったり、とても苦しくなったりする。そのためカニューレが脱落しないように注意することはとても重要。

26

交野支援学校の保健室

養護教諭と看護師が同室で協働している

28

本校配置看護師について

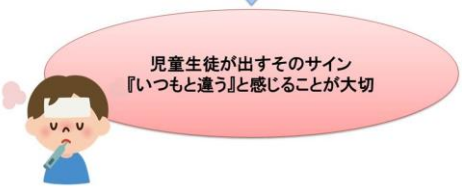
児童生徒が学校にいる時間帯を中心に毎日10名の看護師が常駐している

＜業務内容＞
① 医療的ケア（以下医ケアという）児童生徒の健康管理、その他必要な児童生徒の観察、相談、緊急対応
② 教員が行う「6行為」（痰の吸引、経管栄養）への支援
③ 「6行為」に含まれない医ケアの実施《教員との協働》
（気管カニューレの先端部吸引、酸素吸入、薬剤吸入、導尿、留置チューブ抜去時の再挿入、ろうれの確保、など）
④ 経管栄養のチューブの空気音確認（胃内留置確認）
⑤ 人工呼吸器児童生徒の付き添い管理
⑥ 関連会議への参加
⑦ 主治医訪問への同行
⑧ 校外学習、泊付行事への付き添い
⑨ 教員への指導助言、相談など
⑩ 教員への実施研修

29

健康観察について

体調の変化や不快と感じることを自ら訴えることが難しい
しかし、なんらかのサインが必ずある



30

そばにいる担任の先生が はじめに気づく！！

いつもの様子と比べてどう違う・・・？

寝ているとき、座っている、立っているとき

声を出したり食べたり飲んだりしているとき

・顔色は？

・呼吸の仕方は？

・目は開いている？

・手足は温かい？

・昨日はどのように過ごしたか？

31

観察点

- バイタルサイン（体温、心拍、呼吸、血圧）
- 呼吸状態（呼吸の深さ、肩呼吸、鼻翼呼吸）
- 肺雑音の有無（程度、左右差）
- 顔色や唇の色
- 四肢の冷感
- 腹部の様子
- 発汗量、尿量など
- 血液中の酸素飽和度SpO2値

32

観察点

- 子どもの疾患や状態によって観察点は違ってくる。
- 機嫌、食事や水分の摂取量など、日々の状況を把握し、保護者や教員と共有することが大切。

33

医療的ケアの実施
①医療的ケアの実施後、担任が行うこと

実施が終了したことを周囲の教員に報告

医療的ケア用のホワイトボードへの記入

個別の記録用紙・連絡帳への記載

→ 実施もれがないように皆で確認

↓

保護者と日々の健康状態や医療的ケアの実施について共有

34

医療的ケアの実施
②ヒヤリハット・インシデント・事故の際の報告書

間違ったことをしそうになったが事前に気づいて防ぐことができた→ ヒヤリハット

実際に起きてしまったが大きな被害が及ばなかった→ インシデント

病院を受診しなければならないような事故に至った→ 事故

当該学年で今後の対応や改善点を話し合い、全職員に報告する。

⇒★同じことが起きないように教職員一人ひとりが意識を持って取り組む

35

緊急対応について①

- 学校全体での<けが、病気、誤嚥、アレルギー>の時の緊急体制とは別に個別の緊急対応マニュアルを作成して、学年や保健室と確認を行う→資料1 資料2 資料3
- いつどこで起こっても大丈夫なように、個別の緊急対応マニュアルと記録用紙を常に本人と一緒に車椅子やカバンなどに携帯している→資料4
- 学校のホームルーム教室および特別教室に<全体指示者用バインダー><記録用紙>をセットで設置し、どこで緊急対応が起こっても迅速に対応できるようにしている→資料5 資料6

36

全体指示者用バインダーと記録用紙

全体指示者バインダーには、全体指示者用の確認用紙をはさんでいる

《記録用紙》
救急隊や病院への説明に役立てている

教室出入り口近くに設置

《全体指示者バインダー》
全体指示者は、本人対応、記録、救急車要請、救急車誘導、他の生徒対応等、教員への指示を行う
このバインダーを持っている教員の指示に従うのが基本

37

緊急対応について②

◆緊急対応シミュレーション

新学年では新しい教員もいるので、緊急時の体制を確認するため、各学年あるいは各学部にて主に1学期に緊急対応シミュレーション＆反省会を行っている

◆近隣の病院、消防署との連携

年度初めに、病院と消防署に必要な児童生徒名を入れた依頼状を渡して、緊急搬送の際の迅速な対応をお願いしている

※気管カニューレ脱落、経鼻エアウエイ・鼻腔チューブ抜去、発作、人工呼吸器等

◆発作への対応

- ダイアップ（坐薬）などの薬剤の預かり
- 保護者・主治医・校医と発作時の対応について確認（座薬挿入の判断基準などの指示書あり）
- 発作時に救急搬送が必要な児童生徒は、医療的ケアと同様の個別の緊急対応マニュアルを作成

38

まとめ①

医療的ケアの意義

医療的意義
◆適切な医療的配慮が向上
⇒急変や死亡が減少

教育的意義
◆通学可能
⇒登校日数増加、授業の継続性
◆子どもへの理解や信頼関係の深まり
⇒子どもの自発性・主体性の高まり

福祉的意義
◆保護者の負担軽減
⇒家族の健康保持

40

まとめ②

教育保障

医療的ケアは

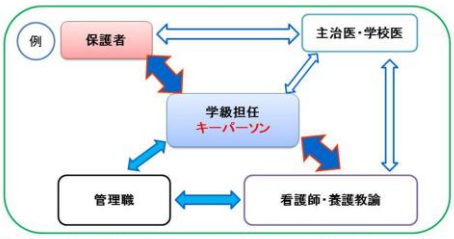
学校において児童生徒が安全な環境で教育を受けられるようにするため実施するもの

安心・安全な学校生活の中で、充実した教育活動を受けることができるようにするために

日々の健康状態や医療的ケアの状態等を、学校と保護者が共有するなど日頃の連携協力を図ることが重要

41

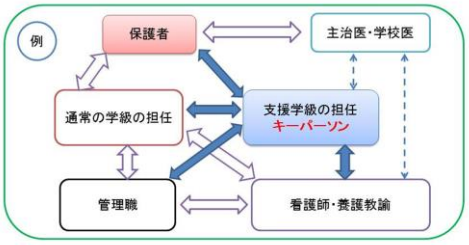
まとめ③



※日々の健康状態・医療的ケアの状態・緊急時の対応　などの共有
※教育活動の内容(授業のねらいを明確化、現在の活動が適切かどうか)を常に検討

42

まとめ④



※日々の健康状態・医療的ケアの状態・緊急時の対応等についての情報共有
※教育活動の内容(授業のねらいを明確化、現在の活動が適切かどうか)を常に検討

43

３、終わりに

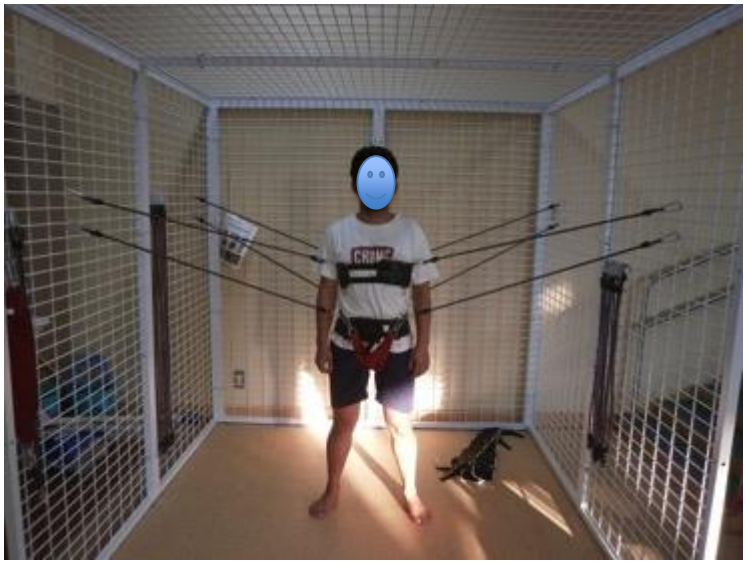
研修会には、「あさひ幼児園」以外の園や近隣の小学校、また交野市の関係者等の参加がありました。医療的ケアが必要な子どもたちを今後受け入れていくにあたり、その支援についての関心の深さがうかがえました。医療的ケアについての知識と理解が広まり、各機関の連携が深まって、どの子どもたちも同じように健康で安心して過ごせる環境整備が進められていくことを切に願います。

平成 30 年 2 月吉日

「スパイダーを教材として利用して：交野支援学校編」

小学部　木下達夫

脳性まひを持つ児童の多くは、抗重力姿勢制御の問題に加え、重力に対する適応障がいを併せ持ちます。この重力に対する適応障がいを解決するために、1993 年に NormanLozinski は「スパイダー」を開発しました。「スパイダー」とは、身体に装着する留め具つきベルトと、ベルトから外側に向かって張られたゴム紐を固定する枠から構成され体重の免荷を可能にするものです。(1) 少し大げさな言い方ですが、まるでドラえもんのタケコプターをもらって空を飛ぶように身体の重さを軽減し、自分自身で動けることを助けてくれる品物です。



スパイダーの全体写真
標準的な取り付け例

この「品物：スパイダー」が支援教育の現場に何故必要なのか？ 教材として成り立つのか？ 子どもたちの学びにつながるのか？　その答えは、バックボーンにある発達の基本的理論、それと私たち教員のアイデアがあれば容易に解決できるはずです。発達において、人は胎児の頃から母親のお腹の中で動きを経験します。そしてこの動きというものは、この世に生まれた新生児から老人に至るまで経験し、学び続けることです。辻は「行動が発達の中心に存在している」と言っているように、行動は発達のすべての側面を反映している知覚・認知・動機づけ･運動発達の中心となる関係を担っていると表現しています。(2)人は動くことで自分に気づき､外界を知り、人や物事との関わり理解を深める一端を担っているということです。肢体不自由の障がいを持つ児童生徒は、成長過程の中で動きの場面が必然的に少なくなりがちです。それは子どもたちのより良い成長にとって豊かなものと言えるでしょうか。教育基本法にある教育の目的（第１条）は、「教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」(3) とあります。私たち教員は、肢体不自由の障がいを持つ児童生徒に心身ともに健康に豊かに成長を促す責任があると解釈しています。動きを行動に繋げて、達成感や自己肯定感を感じ、経験できる教材の一部として、この「品物：スパイダー」は高く評価しています。交野支援学校では、スパイダーの学校活用を学校経営計画にも揚げて安全で

効率的な活用に取り組んでいます。今回はそのスパイダーを取り入れた授業展開を紹介させていただきます。

授業展開の紹介（小学部・中学部・高等部）

小学部

小学部　学年活動「わ～いわいバンド」

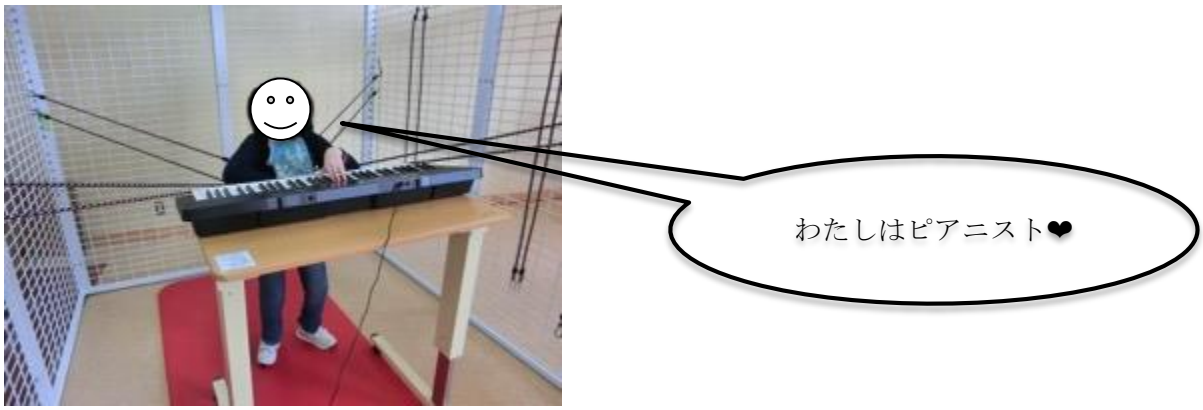
授業主担：木下達夫

この授業は「楽器：聞く」と「光：見る」そして「スパイダー：動く」を教材に子どもたちの心に「んっ！」「おおっ！」「楽しいじゃん！」の新しい体験を通して、①湧き立てる気持ちと②始まり・終わりのルールに気づくことをねらいにつくってみました。

指揮者がスパイダーで姿勢をとり、先生とともに身体を右に傾けると枠に設定した多くの光が点灯し、今度は左に傾けると光が全部消える設定にしました。演奏者は光が点灯するとそれぞれの楽器を鳴らし奏でる、そして光が消えると演奏を止めます。このルールを繰り返し行うことで子ども達の気持ちに変化がおこることを期待しました。「キレイなっ！」と言う児童、「ニコッと優しく笑う」児童、「なんだろう？と表情をしかめる」児童、「身体を仰け反って大声で笑う」児童など子ども達はいろんな方法で心の気づきを表現できました。

かっこええやろ！

満天の星空や～



中学部

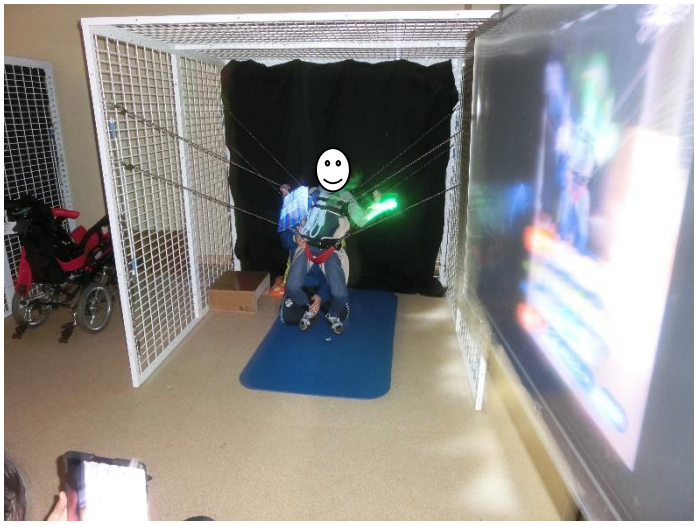
中学部２年　美術　「ぴかぴかアート」

中学部　美術科担当

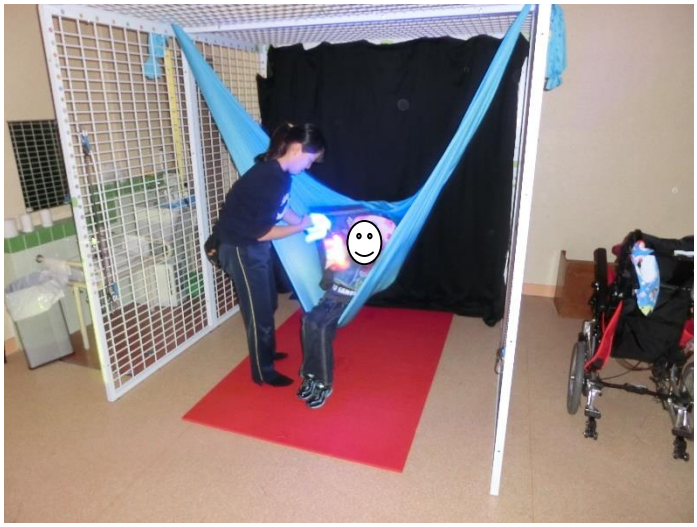
「ぴかぴかアート」といった、ライトを使って空に描く取り組みをしたいと考えました。その際、本校の生徒たちは車椅子姿勢が多く、上体を自分で起こして手を大きく自由に動かすには、少し難しいように感じました。そのため、日頃より自立活動で取り組んでいるスパイダーシステムを利用して、立位姿勢になり、上体を起こし、手や足、身体全体の重力の負荷を減らし、生徒自身の動きで自由に動かせるような環境設定をしようと考えました。

実際に取り組んでみて、スパイダーシステムを利用したおかげで、生徒自身が浮遊感を感じながらも、しっかり足底で踏ん張って上体を起こし、音楽にのって踊るような様子が見られました。また、日頃あまり動きが少ない生徒もスパイダーの揺れを感じながら自らの動きで描く様子も見られました。

＊生徒の身体の状態によって、立位姿勢とハンモックでの座位や臥位姿勢との２パターンで取り組みました。



さぁ！できるかな光のアート



わぁ、きれいだな～

高等部

高等部３年 G1　美術　「宇宙服を着て宇宙体験」

授業主担：中堀　眞裕子

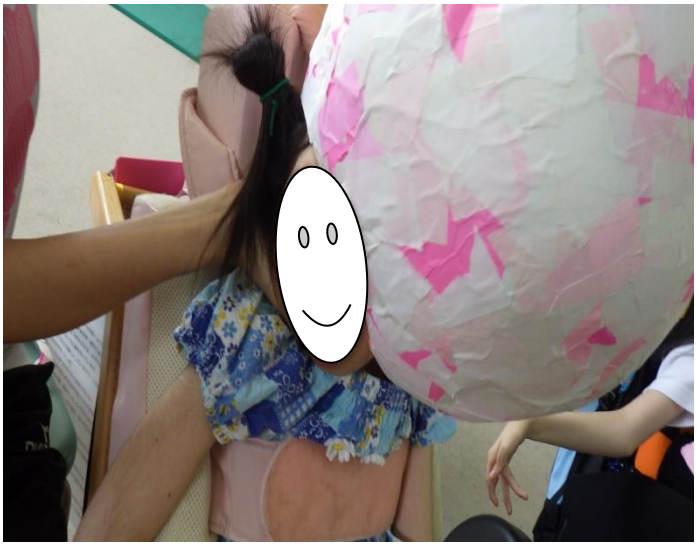
この授業は、高等部３年生の１４名で行っています。全員が、普段から車いすでの移動が主な歩行手段で、課題別グループではないため、生徒それぞれの課題は様々です。

私は、今年４月から赴任してきて、初めてづくしなので、まず、４月・５月は生徒の得意なことは何かの得意探しから始まりました。そんな中、交野支援学校でも毎年、大阪府美術科主催の「子どもたちの讃歌展」に作品を出品していると聞いたので、今年も出品することにしました。毎年、「子どもたちの讃歌展」のテーマにわくわくするのですが、今年は「宇宙」がテーマだったので、様々な課題の生徒たちにとっての「宇宙」とは何かから考えました。はじめに、生徒たちは「宇宙」と聞いて、「宇宙って何？」と思うのでは、と思いました。そのため、まずは、HR の時間を使って、宇宙をテーマにした映画の鑑賞を行いました。

私は、日ごろから、「目で見てわかりやすく、触れて楽しい、こころよろこぶ学びの場」をモットーに授業を考えるようにしています。今回も、「宇宙」をテーマに、どのような授業にするのか、かなり悩みました。映画で宇宙のイメージを捉えてもらい、さて、生徒たちは何を作りたいと思うだろうか...。宇宙＝惑星？宇宙＝宇宙人？宇宙＝ロケット？と、いろいろ考えを巡らせて、宇宙って無重力だよなぁ...。そう！無重力だ！！無重力って、宇宙ならではだけど、地球で味わえたらどんなに楽しいだろう！宇宙服を着て、ニコニコしながら宇宙をふわふわと漂う生徒たちが頭に浮かんできました。

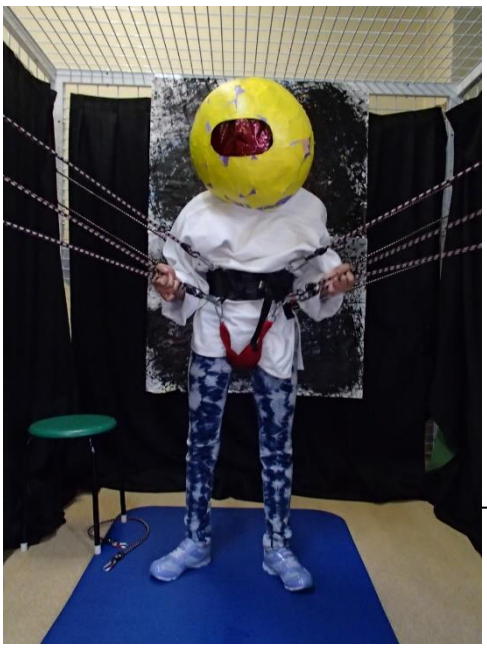
自分で、「〇〇を作りたい」と気持ちを伝えることが苦手な生徒も、作ることが苦手な生徒も、体験することで、宇宙を体現できる！そう思いました。ぜひとも、生徒たちに体験してもらうことはできないか。生徒たちが、自分だけの宇宙服を作り、その宇宙服を着て宇宙に飛び出す。車いすに乗らなくたって大丈夫！だって、宇宙だから無重力なんだもの！

コンセプトも授業内容も決まったのに、なかなか無重力になるものが思いつかなかったのですが、生徒の自立活動のために行った自立活動室で、見つけました！スパイダーです。そんなこんなで始まった授業、「宇宙服で宇宙体験」では、生徒たちの頭が入る、まあるい大きな風船で張子をして頭部分を作りました。体の部分は、柔道着を前と後ろを逆に来て、宇宙服としました。「宇宙服」の頭をかぶり、柔道着を着て、宇宙飛行士になって、スパイダーに乗り込み、いざ、宇宙体験！



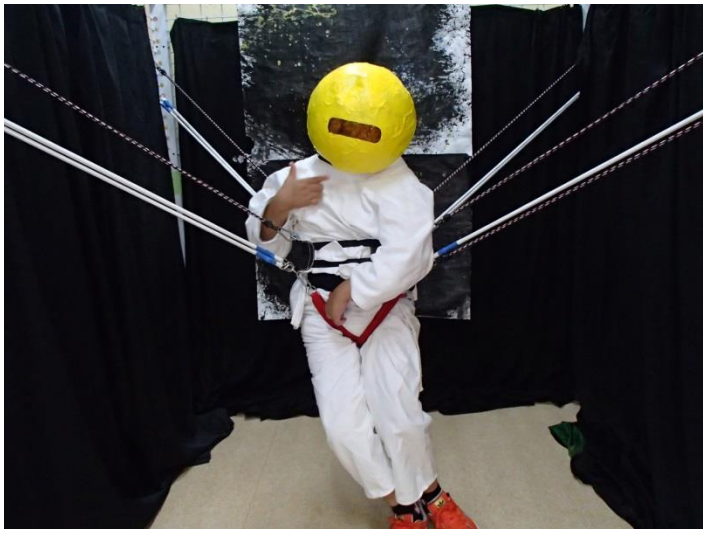
できた張子に、目の部分をあける作業をしている様子

ちゃんとと被ることができたのかな?



月面に降り立った気分かな？

宇宙遊泳！！



ちゃんと被ることができました！

今回の授業は、私にとっても初めての試みで、授業に入っているサブの先生方には、快くご協力して頂いたことに感謝しています。授業内という時間の限られた中でしたので、私個人としては、もっと時間をかけて、スパイダーでの宇宙体験を行いたかったと、反省する部分は多々ありますが、生徒たちにとって、「宇宙体験」を楽しむことができた授業であったなら、うれしく思います。

《まとめ》

今回、スパイダーを題材に実践報告をさせていただきました。もともとは医療であるリハビリテーションの現場から脳性麻痺の子どものため「動き」を通して、発達を促すために生まれた「品物」。それを先生方のアイデアで児童・生徒が楽しめる、学べる教材への変化させていく姿勢には、感動すら覚えます。

交野支援学校では、ほぼ毎日のようにスパイダーを利用しています。ここに紹介させていただいたのは一部に過ぎません。児童生徒が楽しみながら動きを学べる授業づくり・またやってみたいと
思わせる空間づくりを日々邁進していきます。同時に、スパイダーは100%安全な教材とは言い兼ねません。安全に安心して児童生徒が取り組めるようにスパイダーの使用方法の研修も毎年行っていきます。

引用文献：

（1） 奥田憲一　「第５０回　日本理学療法学術大会　抄録集 Vol.42 Suppl.No2」2014

（2） 辻　清張　「第３回　重症心身障害理学療法セミナー
～重症児にとって動くということ～」2011 年 12 月

（3） 文部科学省　特別支援学校　小学部・中学部・高等部学習指導要領
平成 21 年 3 月告示

平成２９年度　進路支援のまとめ

１．平成２７～２９年度の３年間の進路状況

(1)　小学部

	卒業生人数	進学先
27 年度	14	本校中学部に進学 13 名・枚方支援学校中学部に進学 1 名
28 年度	11	本校中学部に進学 10 名・守口支援学校中学部に進学 1 名
29 年度	12	本校中学部に進学 12 名

(2)　中学部

	卒業生人数	進学先
27 年度	7	本校高等部に進学 7 名
28 年度	9	本校高等部に進学 9 名
29 年度	13	本校高等部に進学 13 名

(3)　高等部

卒業年度	27 年度	28 年度	29 年度
卒業生数	17	15	21
就労移行支援	0	1	1
就労継続支援Ｂ型	3	0	1
生活介護	11	11	15
療養　※1	2	1	3
その他　※2	1	2	1

※1　児童施設への継続入所（措置延長）、療養介護

※2　入院、自宅療養、ショートステイ利用など

２．今年度の高等部卒業生の進路について～課題と現状～

・通学籍の生徒のうち１名が就労移行支援事業所、１名が就労継続支援Ｂ型事業所の利用を予定している。各市にある就労移行支援事業所、就労継続支援Ｂ型事業所のほとんどが知的障がい者等に対応しており、身体障がい者が利用できる事業所は少ないのが現状である。本校高等部の生徒が就労支援を行う事業所に通所を希望する場合、①活動スペースがバリアフリーになっているかどうか②送迎のサービスがあるかどうか③トイレ・食事における支援等が課題となる。

・通学籍１５名が生活介護事業所を利用することとなった。そのうち、医療的ケアを必要とする生徒は４名であった。各市にある生活介護事業所のうち、医療的ケアに対応できる事業所は増えつつあるが、十分ではない。卒業後の進路先の確保が課題となっている。

・ここ数年で、生活介護の利用先を複数併用するケースがみられるようになった。今年度も５名の生徒が２か所の併用をする予定である。在学中から施設とより一層連携（週に何回何曜日に希望するのか等）をとり、調整しながら家庭や生徒の希望に寄り添った進路支援を行っていく必要がある。

編 集 後 記

平成２７年度から、３年分の本校の教育実践をまとめた実践報告集「かたの」を発行します。

本校では、“一人ひとりの可能性を伸ばす授業づくり”を全校統一テーマに掲げ、授業力向上を重点課題として、それぞれの学部で授業研究し、各研究協議会でテーマを深めてきました。そして、小学部、中学部、高等部それぞれの実践でつないでいくこと、つながっていくことを意識してきました。研究協議会においては、『授業者の意図に沿った内容か』、『授業の観察の視点が明確か』、『意見の発散、収束、活用が活発になる進行とは』、グループワークのテーマやワークシートの検討等、授業毎に授業そのものに向き合い、どうすれば自分たちの実践と結び付けて考えていけるのか思い悩み、工夫を凝らしてきました。研究部で知恵を寄せ合い、周りを巻き込んで、「とにかく面白いことをやってみよう！」と、数々チャレンジしてきたことで、少しずつですがその内容を深化させることができたと思います。特に今年度は外部講師として飯野順子先生に助言をいただき、自分たちでは気づくことができなかった視点や、指導の根拠を全教職員で学べたことは、とても大きなことでした。次年度からは、この学びを自分たちのものにするため、さらなる授業力向上をめざして実践を繋いでいきたいと思います。そして、その実践が根拠あるものとなるために、学びの履歴が残るように、教育課程や年間計画についても検討を続けていきます。

この実践報告集に寄稿してくださった先生方、関わる全ての先生方に感謝しています。そして、この実践報告集を地域の学校や支援学校の教職員をはじめ、たくさんの方々に手に取っていただき、交野支援学校の教育活動の一端を知っていただく機会となれば、そして忌憚のないご意見をいただく機会になれば幸いです。

大阪府立交野支援学校　研究部長　西田　千晶